
予期凶式概念に基づく都市景観評価の個人差分析

(課題番号 : 11680100)

平成11年度～平成12年度 科学研究費補助金 (基盤研究(c)(2))
研究成果報告書

平成13年3月

研究代表者 長澤 由喜子

(岩手大学教育学部教授)

予期図式概念に基づく都市景観評価の個人差分析

(課題番号 : 11680100)

はしがき

本研究は、筆者が研究テーマとする「空間評価における個人差研究」の一環をなすものである。個人差研究への注目は、自記式質問紙の大量調査により得られた結果が、調査目的とする問題の解決に直接的に結びつかないことへの疑問に端を発している。それはあたかも、これまでの知識偏重の教育が子どもたちに生きる力を与えてこなかったことに似ている。空間評価にしても学習評価にしても、評価の本質は評価による空間計画の改善あるいは授業の改善にある。当然のこととして、空間計画に結びつかない空間評価は意味がない。しかし、個人差研究が個人の多様性の実態を明らかにするにとどまっていたら大量調査にも劣る。これまで筆者が行ってきた個人差形成要因の特定も、そこにとどまっていたら実態調査と変わらない。すなわち、評価においては、実態ではなく、実態に至るまでのプロセスが問題にされなければならないのである。なぜそこに至ったかのプロセスなくして実態の改善はあり得ない。子どもの学習評価を考えたときに、評価の本質はきわめて良く見える。

本研究は、この意味において、これまでの個人差研究の域を一步踏み出し、新たな研究手法としてPAC分析を試み、その知見に予期図式概念を適用することで、実態としての現象の説明を試みようとするものである。

本研究における試みが、個人差研究の新たな展開にささやかながら寄与することになれば幸いである。

研究組織

研究代表者：長澤 由喜子（岩手大学教育学部教授）

研究経費

平成11年度	700千円
平成12年度	600千円
計	1,300千円

研究発表（口頭発表）

2001年度日本建築学会大会（関東）学術講演会（都市計画部門）において発表予定
（2001.9.22～9.24、於：東京大学）

本研究に対する科学研究費助成金による支援に深く感謝いたしますとともに、研究遂行にご協力いただきました皆さまに厚く御礼を申し上げます。

<目 次>

	(ページ)
I. 緒言	1
II. 盛岡市の景観評価に関する予備的研究	
1. 研究目的	3
2. 実験方法	3
(1) 写真分類実験 (実験A・B)	
(2) ラダーリング実験	
(3) 自記式質問紙調査	
(4) 分析方法	
3. ラダーリングによる評価構造の抽出	6
4. 相関に関する個人別・写真別検討	9
(1) 相関に関する個人別検討	
(2) 相関に関する写真別検討	
5. 数量化理論第I類による要因分析	18
(1) 各写真エレメント別パーソナリティ特性の影響	
(2) パーソナリティ特性の影響に関する全体的考察	
III. 個人別態度構造分析の方法	
1. PAC分析の理論	50
2. 実験方法	51
(1) 刺激写真および被験者の選定	
(2) 実験手続き	
IV. 記述項目に関する傾向分析	
1. イメージ項目数による比較	55
2. KJ法による項目分類	57
(1) 盛岡市の街並の場合	
(2) 大通りの場合	
(3) 岩手山の場合	
(4) 材木町の場合	
(5) 大慈清水の場合	
V. クラスター解釈・布置にみる居住経験別評価	
1. 呈示刺激別分析	65
(1) 盛岡市の街並の場合	
(2) 大通りの場合	
(3) 岩手山の場合	
(4) 材木町の場合	
(5) 大慈清水の場合	
2. 景観評価のパーソナリティ特性 (被験者別分析)	73
VI. 予期図式に基づく景観評価のモデル化	80
VII. 総括	84

<引用文献・参考文献>

1. 緒言

本研究は、空間評価に影響を及ぼす人的要因として対象者の過去および生活経験に着目し、生活経験と住空間評価との関連を明らかにすべく行っている研究の一環をなすものである。これまで対象者の出身地、来街頻度、生活意識、日常的音環境（平成5～6年度科学研究費一般研究(C)：課題番号05680001¹⁾）、生活活動状況（平成7年度科学研究費一般研究(C)：課題番号05680002²⁾）、高齢者の身体機能の低下（平成8年度科学研究費基盤研究(C)(2)：課題番号08680001、平成9～10年度科学研究費基盤研究(C)(2)：課題番号09680003³⁾）などを影響要因とする分析を重ねることで、空間評価における人的要因の特定を行ってきた。しかしながら、人的要因の特定は可能であっても、「なぜそれらが影響要因として個人差の形成要因となりうるか？」は常に課題として残され、その点の解明には至っていない。

そこで平成11～12年度研究では、その課題に迫るべく、新たに認知心理学的な立場からU.NAISSERによる「予期図式」の概念に着目し、空間評価における個人差が形成されるプロセスの解明を試みることにした。空間認知は、人々が心的イメージとして過去の空間体験に基づいて形成してきた予期図式の修正であるとする考え方は、空間評価における視点形成の個人差を、その前段階からのプロセスとして説明するきわめて有用な概念となりうる。すなわち、人々は常に対象とする空間に対し「～らしさ」としてのイメージをそれぞれに抱いており、それが空間評価における個人的尺度として内在すると考えることができる。そこに生活経験に基づく個人的特性と空間評価との関連をみることができるとするならば、従来の共通性抽出による研究を批判的に捉え、個人差形成の要因を特定するだけの一連の研究を、より発展的に位置づけることができると考えた。

さらに本研究においては、上述の研究目的に鑑みて予期図式の適用を試みると同時に、個人差研究の手法として新たな分析手法に着目した。空間評価研究の多くは、Lynch (1960) による都市イメージ研究の流れに位置づき、空間の物理的要因のあり方を問題として、建築計画学あるいは都市計画学の立場からアプローチされている。それらの研究の中で、SD法に代表される従来から多用されてきた共通性抽出を目的とする研究手法はすでに過去のものとなり、個人差をキーワードとする研究も増えつつある。既往研究の中では、空間評価への影響をイメージの成熟過程として捉える清水ら(1991)による研究⁴⁾、あるいは乾・讚井(1992)による空間の評価構造を視点とする研究⁵⁾などは個人差を対象とする意味で本研究と関連し、新たな研究手法の提示がみられる。しかしながら、新たな研究手法として注目された乾・讚井(1992)による個人差研究も、ある評価傾向を持つ属性グループをまとめて扱っている点で物足りない

さが残る。一方、大野ら(1997)が予期図式に着目した分析⁶⁾を試みているが、実態としての個人差を一部抽出するにとどまっております、その個人差形成過程の説明に予期図式概念を適用するまでには至っていない。したがって、本研究テーマの追及にあたっては、関連する既往研究に用いられた研究手法では限界があると判断し、個人の意識を内面から鮮やかに描き出す方法として新たにPAC分析を試みることにした。

PAC分析のPACは Personal Attitude Construct (個人別態度構造)の略称で、その名称の由来が示すように、元来は個人別に態度構造を測定するために内藤哲雄によって開発されたものである⁷⁾。内藤氏は「今日の社会心理学では抽象的・平均値的な人間を描き続け、対象の独自の問題や個性が欠落している実感を拭いきれない。これに対し臨床においてカウンセリングは何ひとつ手に持たず個別の対象や現象に肉薄している。そのように社会心理学でも個別の対象や現象に鋭く迫ることはできないか」との問題意識からPAC分析の開発に至っている。ここにみる問題意識は、まさに本研究におけるテーマと合致するものである。この分析法は、提示刺激に関する自由連想(アクセス)、連想項目間の類似度評定、類似度距離行列によるクラスター分析、被験者によるクラスター構造のイメージや解釈の報告、実験者による総合的解釈を通じて、個人ごとに態度やイメージの構造を分析する方法である。現在では、利用の仕方によって、認知やイメージの構造、心理的場、アンビバレンツ、コンプレックスまで測定できることが確認されていることから、景観評価への適用を試みることにした。

本報告において、本研究の予備的研究として位置づく「盛岡市の景観評価に関する要因分析」は、上述PAC分析による実験研究の予備的研究として行ったものであり、生活経験を含むいかなるパーソナル特性が景観評価に影響するかを明らかにすることを目的とするものである。本研究では、この予備的研究を含む先行研究を深めるべく、パーソナル特性によって景観評価のイメージ構造がどう異なるかに着目し、PAC分析を用いてイメージ構造の変化の様相をより具体的に捉えることを試みる。さらに、分析結果の解釈において、予期図式概念の考え方を適用することで、先行研究の研究知見として得られた事象の説明を試みることにする。

本研究の遂行が、一連の空間評価における個人差研究に新たな展望を開くことを期待するとともに、研究によって得られたささやかな知見が、盛岡市の街並形成に関して何らかの示唆を与え、新たな空間の創造に貢献できれば幸いである。

II. 盛岡市の景観評価に関する予備的研究

1. 研究目的

空間評価の対象として盛岡市の景観を取り上げ、盛岡市の景観評価の全体構造を捉えることで、盛岡の都市景観の評価特性を明らかにするとともに、被験者のパーソナル特性としての諸要因による景観評価への影響分析を試みることを目的とした。

被験者のパーソナル特性の一つとして、景観写真の総合的な好ましき評価と「自然との調和」に関する評価との相関を位置づけたところに本研究の特徴がある。すなわち、盛岡市の景観のキーワードは「自然との調和」であり、盛岡らしさの評価もその点に集中している。したがって、盛岡の景観を評価する場合に、自然との調和の評価尺度が被験者に内在しているか否かを明らかにすることで、盛岡らしさの予期図式の存在が捉えられるのではないかと仮説を設定した。

2. 研究方法

実験方法は、平成10～11年度科学研究と同様にレパトリー・グリッド発展手法を応用することとし、面接方式による写真分類実験とラダーリングを行った。

(1) 写真分類実験

実験に用いた写真エレメントは以下に示す21枚である。先行研究に基づき、認識のしやすさおよび臨場感の高まりを配慮し、ハガキ大にプリントした写真を提示した。

- A：高松の池—高松の池より岩手山を望む
- B：旭橋—旭橋より材木町方面を望む
- C：下の橋—中津川河畔より下の橋教会を望む
- D：盛岡駅—盛岡駅東口広場
- E：中の橋—中の橋手前より岩手銀行を望む
- F：中津川—中津川河畔より県民会館を望む
- G：開運橋—開運橋より岩手山を望む
- H：莫産九の白壁—中津川河畔より莫産九の白壁を望む
- I：寺の下—大慈寺周辺
- J：大通り商店街—さわや書店付近
- K：善隣館—大沢川原通りより旧牧師館
- L：大慈清水—鉾屋町、盛岡十大清水のひとつ
- M：中央公民館—愛宕町、中央公民館正面玄関手前
- N：レストラン蔵香—中の橋通り1丁目、富士銀行盛岡支店隣接
- O：旧井弥商店とコーポ長岡—上の橋通り
- P：上田公民館—上田4丁目
- Q：運動公園脇並木道—みたけ1丁目
- R：県公会堂—中央通り
- S：寺町通り—名須川町
- T：材木町—『音座』付近
- U：県合同庁舎のユリノキ・ケヤキ群—中央通り

1) 実験A

①「好ましさ」の視点から21枚の実験対象写真エレメントを5段階に分類してもらう。その際、最も好ましい程度を「5」として設定し、各段階に最低一枚は分類写真が含まれるよう指示した。

②分類終了後、分類群が下位評価群に比べて上位に位置する理由を明らかにすることを原則とし、はじめに最も低い評価の「1」に分類された各写真エレメントについて、なぜ評価が最も低い理由を聞く。

③評価「2」に分類された各写真エレメントは、なぜ評価「1」の写真エレメントより好ましいのか、その理由を聞く。

④同様に、評価「3」の各写真エレメントは、なぜ評価「1・2」の写真エレメント群に比べて好ましいと思うか、その理由を聞く。さらに評価「4」対「1～3」、評価「5」対「1～4」の比較を求め、それぞれの好ましいとする理由を口頭で答えてもらい、それらの言葉を忠実にもれなく記録することとした。

2) 実験B

実験Aと同様に「自然との調和」を視点として21枚の実験対象写真エレメントを5段階に分類してもらう。分類の際の留意点および分類終了後の手続きは実験Aに準ずる。

上記の実験A・Bを岩手大学学生50名（男女各25名）を被験者とし、1998年7月～9月に実施した。被験者を大学生とした理由は、①実験所要時間が1時間程度と長く拘束性が高いこと、②分類の理由づけに論理性が求められること、③関連実験における知見との比較が可能であること、④景観形成を動かしていく要因の一つとして若者の意識を見逃すことができないことなどである。また、個人差形成の要因としての居住歴に関しては、先行研究から2年以上の居住経験を経てイメージの変化が認められることが明らかになっている⁸⁾ことから、その影響を捉えやすい学部4年生と大学院生に限定して被験者を選定した。被験者1名の平均所要時間は約45分であった。

(2) ラダーリング実験

写真分類実験Aで被験者が分類理由として頻繁に使用した4～5つの言葉を基準となる評価項目とし、1998年9月～11月にかけて同被験者41名(男18名、女23名)にラダーリング実験を行った。(残り9名は分類理由に使用された言葉の多少などの理由によりキーワードとなる評価項目の抽出が困難であったため対象から除外)

ラダーリングに要した被験者1人あたりの平均所要時間は約45分であった。上位・下位の評価項目の抽出は、各評価項目を対象に次のような教示によって行った。

- ・上位の評価項目を抽出する場合(ラダー・アップ)

「〇〇だと好ましいということでしたが、あなたにとって〇〇だとどうして好ましいのですか？その理由を教えてください。」

- ・下位の評価項目を抽出する場合（ラダー・ダウン）

「〇〇だと好ましいということでしたが、あなたにとって具体的に何がどうだと〇〇なのですか？〇〇であるための条件を教えてください。」

※上位・下位いずれの場合においても、回答に際して被験者が少しでも困惑の表情を見せた場合や言葉につまった場合は、その段階でそのラダーリングを中止する。被験者に回答を強制したり、時に被験者がその場しのぎの回答を行うことを避けることは、ラダーリング実験の信頼性を高めることにつながる。

このラダーリングを行うことにより、評価項目相互の関連を明らかにすることが可能になる。またこの操作は、評価のメカニズムを構造的に解明する上で非常に有効である。

（３）自記式質問紙調査

写真分類実験の後、各被験者の住環境やパーソナリティ特性を捉えることを目的とし、被験者全員に自記式質問紙調査を行った。

質問内容は、出生地、居住歴、街のイメージ、盛岡でよく行く場所、好きな色の組み合わせなど、写真分類実験に影響を及ぼすと予想される項目を取り上げた。なお、好きな色の組み合わせに関しては、日本カラーデザイン研究所の「色の組み合わせ一覧表」にもとづき、被験者が好ましいと思われる色の組み合わせ上位２つを記入してもらった。

（４）分析方法

分類実験における評価の点数化による分析および言葉の抽出による構造化を試みた。点数化に際しては写真分類実験における５段階分類の中で、最も高い評価を５点、最も低い評価を１点として点数を与え、点数に基づいて下記の分析を行なった。

- ①評価平均値・標準偏差（好ましさ、自然との調和各々について写真エレメント別）
- ②相関係数（好ましさと自然との調和、写真エレメント別および被験者別）
- ③クラスター分析

各写真エレメントごとに、各被験者の評価値を外的基準としてクラスター分析によりグルーピングした。（Ward法）

④数量化理論第Ⅰ類

被験者ごとの好ましさと自然との調和との相関係数を外的基準とする場合と全被験者の各写真エレメントの評価値を外的基準とする場合の分析を行った。

前者の場合には、各写真エレメントをアイテムとし、後者の場合にはパーソナル特性をアイテムとしてそれぞれの影響度を求めた。

パーソナル特性として設定したアイテム項目は、出身地、盛岡市に住み始めた年齢、一番長く居住した場所のイメージ、情緒という言葉の有無、色の組み合わせ１～４、「自然との調和」との相関係数、以上１０項目である。

これらのデータ処理には岩手大学情報処理センターTSSによるSASシステムを用いた。

以下、結果の記述においては、本研究の予備的研究として有意義な知見が得られたラダーリングおよび数量化理論第Ⅰ類に焦点化して取り上げることとする。(①および③に関する詳細は省略)

3. ラダーリングによる評価構造の抽出

写真分類実験Aで被験者が分類理由として頻繁に使用した4～5の言葉を基準評価項目とし、同被験者41名にラダーリング実験を行なった。

写真分類実験において被験者が自発的に使用した基準評価項目を中央に配置し、さらにラダーリングによって誘導された上位・下位の評価項目を左を上位、右を下位として配置し、線でその関連を示した図を各被験者ごとに作成した。それら各被験者による景観の好ましさに対する評価構造図を個人差を把握するための基礎的な資料とした。(各被験者の構造図は省略)

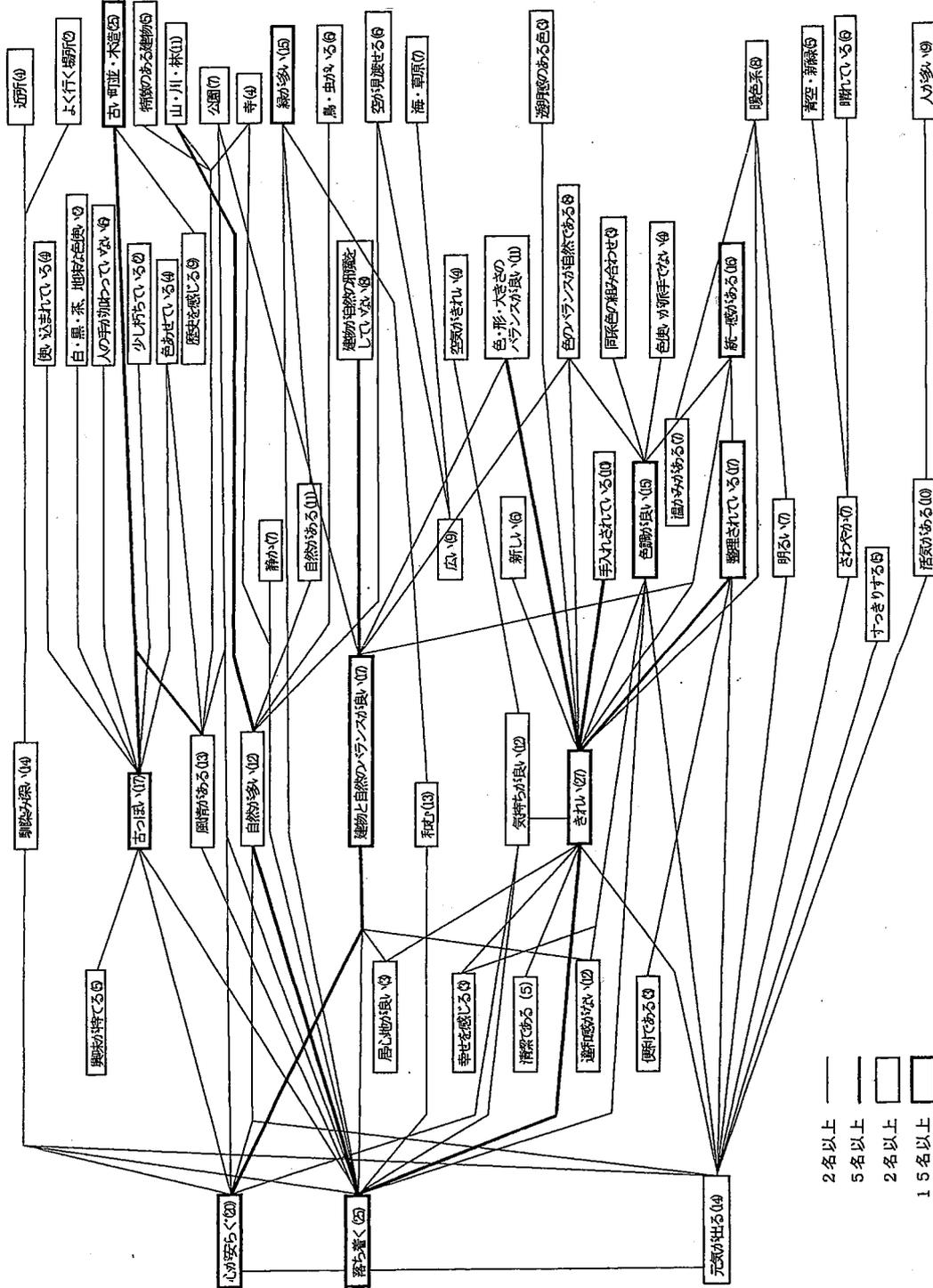
さらに盛岡市の景観に対する一般的な好ましさに対する評価構造の全体像を把握することを目的とし、2人以上の被験者が使用した言葉を抽出し、その言葉と言葉の関連をネットワーク図として図Ⅱ-1に示す。なお被験者が自発的に使用した言葉をそのまま記録したため、類似した言葉については同一の言葉として捉えて集計することとした。ネットワーク図中左端に位置する項目はラダーアップによって得られた最も上位の評価項目、また右端に位置する項目はラダーダウンによって得られた最も下位の評価項目であることを表している。

図Ⅱ-1より、好ましさにの評価構造は「心が安らぐ」「落ち着く」といった抽象的上位概念を頂点とする複数の評価系列によって構成されていること、さらにこれら評価系列は下位になるほど内容が具体化し、末端に位置する評価項目の多くは景観を構成する物理的要素に関するものに転移していることがわかる。太枠で示される上位概念の「心が安らぐ」「落ち着く」の2項目と太線および太枠の評価項目に注目し、それらの関連性について概観すると、以下のような5つのタイプの評価概念の流れを抽出できる。

- (ア) 建物が自然の邪魔をしていない景観を建物と自然のバランスが良いと評価し、
心が安らぐと感ずる流れ
- (イ) 山・川・林など自然が多い景観に対して落ち着きを感じる流れ
- (ウ) 色・形・大きさのバランスが良いことをきれいと感じ、そこに落ち着きを感じる流れ
- (エ) 手入れされていることをきれいと感じ、そこに落ち着きを感じる流れ
- (オ) 整理されていることをきれいと感じ、そこに落ち着きを感じる流れ

(ア)～(オ)の評価概念の流れは自然を評価系の中に取り込み、心の安らぎおよび落ち着きを上位概念とする(ア)(イ)のグループと「きれい」という言葉で代表される美的尺度に基づく居心地の良さとしての落ち着きを上位概念とする(ウ)(エ)(オ)のグループに2分される。

いずれの評価概念の流れにおいても、その上位概念として「心の安らぎ」「落ち着き」が位置づくことより、人々は一般的に心の安らぎや落ち着きが得られるような景観を好ましいと評価する事実を確認できる。また、被験者によっては(ア)～(オ)の評価概念の複数の流れを持つ者もみられ、そこに個人差を見出すことができる。さらに、クラスタリングによるグループと上記の評価系に基づくグルーピングは対応していないことより、評価値に基づく評価傾向の把握には限界があり、個人差の実態の中にこそ評価の本質を読み取ることができる。



図II-1 被験者41名による「好ましさ」の評価構造モデル

(図中、太線は5名以上、細線は2名以上の被験者がラダーリングにおいて両者を関連させたことを示す。また各評価項目の後の数字はその評価項目を使用した被験者の数を示し、15名以上が使用したものは太線で、2名以上が使用したものは細線で示した。)

4. 相関に関する個人別・写真別分析

(1) 相関に関する個人別検討

総合的な好ましさの評価への自然との調和の影響を検討することを目的とし、 y ：好ましさ、 x ：自然との調和とし、好ましさと自然との調和の評価値の相関係数および回帰直線を各被験者ごとに算出し、それをもとにプロット図を作成した。（各被験者ごとのプロット図は省略）傾きが1に近く切片が0に近い場合、つまり $y=x$ に近づくほど y ：好ましさと x ：自然との調和の間に相関関係があり、相関係数の高い人ほど「自然との調和」を評価視点とする傾向が強いことを示している。そこで相関係数と前節ネットワーク図における（ア）～（オ）の評価の流れとの対応関係を表Ⅱ-2a、表Ⅱ-2bに示す。表Ⅱ-2a、表Ⅱ-2bより、被験者No. 09, 28, 33, 36, 49などは「好ましさ」を判断する上で、「自然との調和」が大きな判断基準となるため、「自然との調和」の評価系を持っていると考えられる。特に、被験者No. 36は回帰直線が $y: -0.085664 + 0.0717x$ と $y=x$ に非常に近く、「好ましさ」の判断がほとんど「自然との調和」を基準としているといえる。反対に、傾きが0に近づくほど「好ましさ」を判断する上での「自然との調和」の影響が小さくなる。被験者No. 02, 05, 40, 42などは相関係数が低く「好ましさ」の判断に「自然との調和」があまり大きく影響しておらず、また、被験者No. 24は、回帰直線が $y: 3.2793 + 0.018617x$ となり、傾きがほとんど0に近い。このことから、「好ましさ」を判断するのに「自然との調和」は基準となっていないと考えられる。さらに、被験者No. 12は、回帰直線が $y: 4.0359 - 0.53984x$ となり、逆相関を示し、好ましいと感じる景観と自然と調和していると感じる景観が逆となり、「好ましさ」を判断するのに「自然との調和」はまったく基準となっていないと考えられ、「自然との調和」の評価系を持っていないと考えられる。また、相関係数が低くなるほど切片が大きくなり傾きが小さくなり、相関係数が近い場合、回帰直線が同じような値を示す傾向があるが、被験者No. 18は近い相関係数を示す中では切片が小さく、被験者No. 48は切片が大きい。これは、No. 18は全体的に評価が低いために切片が小さくなり、No. 48は全体的に評価が高めだったためと考えられる。また、No. 16とNo. 50のように近い相関係数を示し傾きに違いがある場合は、傾きが大きいNo. 50の方が「自然との調和」の影響を大きく受けていると考えられる。

(2) 相関に関する写真別検討

前項と同様に、「好ましさ」と「自然との調和」の評価値の相関係数・回帰直線を写真エレメント別に算出し、それをもとにプロット図を作成した。結果を図Ⅱ-2a～図Ⅱ-2uに示す。算出したデータの一覧を表Ⅱ-3に示す。写真G（開運橋）、I（寺の下）、L（大慈清水）、P（上田公民館）、Q（運動公園脇並木道）は相関係数が0.6以上で高く、写真E（中の橋）、F（中津川）、O（旧井弥商店とコーポ長岡）、

S（寺町通り）は相関係数が0.3未満で低い結果を示した。相関係数の高い写真は、「自然との調和」の評価系の有無によって評価が左右される写真であると考えられ、反対に、相関係数の低い写真は「自然との調和」の評価系の有無に左右されず、他の要因が写真評価に大きく影響を及ぼしていると考えられる。写真H, I, J, L, Qは回帰直線の傾きが大きく切片が小さい。これらの回帰直線の傾きが大きい写真は、「好ましさ」の評価が「自然との調和」の評価の違いに左右される影響が大きい写真となり、評価系の有無が影響する写真であると考えられる。また、写真A, E, F, Sは傾きが小さく切片が大きい。これらの回帰直線の傾きが小さい写真は、「好ましさ」への「自然との調和」の評価系の影響が小さくなるため、「好ましさ」への「自然との調和」の評価系の有無が影響しない写真であると考えられる。特に、写真A, Fは切片が大きいので、「自然との調和」の評価系の有無にかかわらず高く評価される写真と考えられる。また、傾きが同じくらいの場合は、切片が大きい方が「好ましさ」の評価が高いと考えられる、写真J（相関係数0.38407）と写真T（相関係数0.40366）は相関係数に差があまりない写真であるが、回帰方程式は、 $y: 0.97897 + 0.72664x$ （写真J）、 $y: 2.1742 + 0.51404x$ （写真T）と差が大きい。これは、写真Jは（1, 1）や「自然との調和」の評価が1に評価が一定しているのに対し、写真Tは写真Jより評価にばらつきが大きく評価も比較的高いために、切片が大きくなり、このようなばらつきが生じたと考えられる。

表Ⅱ-2a

相関係数・回帰方程式データ（相関係数順）

被験者 No.	回帰方程式	相関係数	評価系グループ				
			ア	イ	ウ	エ	オ
36	$y = -0.085664 + 1.0717x$	0.97434 ★					
09	$y = 0.35407 + 0.86124x$	0.89856 ★		○			
33	$y = 0.90522 + 0.7824x$	0.8579 ★					
28	$y = 0.72633 + 0.74249x$	0.8454 ★			○		○
49	$y = 0.50957 + 0.86722x$	0.82669 ★	○				
47	$y = 1.093 + 0.73166x$	0.82563 ★		○			
29	$y = 0.52842 + 0.76737x$	0.82495 -	-	-	-	-	-
03	$y = 1.113 + 0.73271x$	0.81487 ★			○	○	
08	$y = 0.32736 + 0.93322x$	0.80656					
20	$y = 1.4983 + 0.63621x$	0.78496 ★					
34	$y = 0.99879 + 0.6784x$	0.77833 ★					
11	$y = 0.78914 + 0.65335x$	0.76384 ★		○	○		
17	$y = 1.0981 + 0.65531x$	0.7626 ★					
37	$y = 0.5885 + 0.78319x$	0.76 ★					
16	$y = 1.2712 + 0.66102x$	0.73573					○
50	$y = 1.2863 + 0.77059x$	0.73147					
35	$y = 1.3584 + 0.57225x$	0.72427 -	-	-	-	-	-
10	$y = 1.0945 + 0.73616x$	0.71548 ★		○			
13	$y = 1.5323 + 0.56452x$	0.70063 ★				○	
44	$y = 1.2311 + 0.59906x$	0.69392 ★		○	○		○
22	$y = 1.1412 + 0.59381x$	0.68282 -	-	-	-	-	-
15	$y = 0.97162 + 0.67162x$	0.67713 ★					
45	$y = 0.89726 + 0.60616x$	0.66448 ★	○				
31	$y = 1.0831 + 0.54651x$	0.65743 ★			○		
30	$y = 1.217 + 0.60738x$	0.65193 -	-	-	-	-	-

注)「評価系のグループ」は第Ⅱ章-3のラダーリングにおいて分類したグループを用いている。

★：第Ⅱ章においておこなったラダーリングにより、「自然との調和」の評価系を持っていると思われる被験者。

-：ラダーリングのできなかつた被験者。

表Ⅱ-2b

被験者 No.	回帰方程式	相関係数	評価系グループ				
			ア	イ	ウ	エ	オ
43	$y = 1.7939 + 0.58446x$	0.63093					
19	$y = 1.1392 + 0.60127x$	0.62982					○
01	$y = 1.0986 + 0.64507x$	0.6268 ★					
46	$y = 1.4073 + 0.60081x$	0.62387					
21	$y = 1.6622 + 0.58108x$	0.62001 ★	○				
41	$y = 1.4356 + 0.48361x$	0.61738					
06	$y = 1.963 + 0.56296x$	0.60732 ★	○				
39	$y = 1.5952 + 0.5x$	0.6067					
27	$y = 1.2112 + 0.56522x$	0.57329 -	-	-	-	-	-
26	$y = 1.7983 + 0.3711x$	0.5127					
48	$y = 2.1903 + 0.37687x$	0.50713 -	-	-	-	-	-
23	$y = 1.4902 + 0.46176x$	0.50114					
18	$y = 1.0067 + 0.5302x$	0.49637					
38	$y = 1.7731 + 0.4871x$	0.48974					
07	$y = 1.929 + 0.37705x$	0.47495 -	-	-	-	-	-
04	$y = 1.7798 + 0.375x$	0.44682				○	
14	$y = 1.867 + 0.38601x$	0.43592 ★		○			
32	$y = 1.9069 + 0.32713x$	0.39491					
02	$y = 2.2644 + 0.31459x$	0.36355					
40	$y = 1.9312 + 0.27097x$	0.33679 -	-	-	-	-	-
25	$y = 2.5621 + 0.27158x$	0.32732 ★					
05	$y = 2.3037 + 0.19372x$	0.22467					
42	$y = 2.3837 + 0.22093x$	0.22093 -	-	-	-	-	-
24	$y = 3.2793 + 0.018617x$	0.021574					
12	$y = 4.0359 - 0.53984x$	-0.53984					

注)「評価系のグループ」は第Ⅱ章-3のラダーリングにおいて分類したグループを用いている。

★：第Ⅱ章においておこなったラダーリングにより、「自然との調和」の評価系を持っていると思われる被験者。

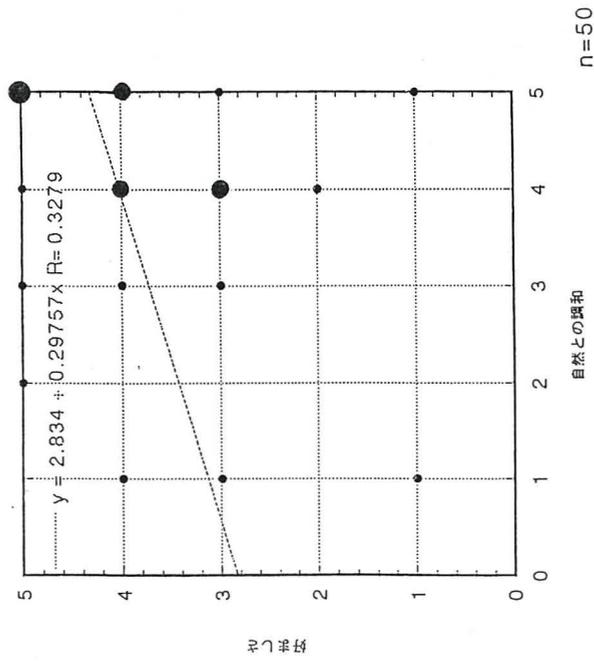
-：ラダーリングのできなかつた被験者。

表Ⅱ-3

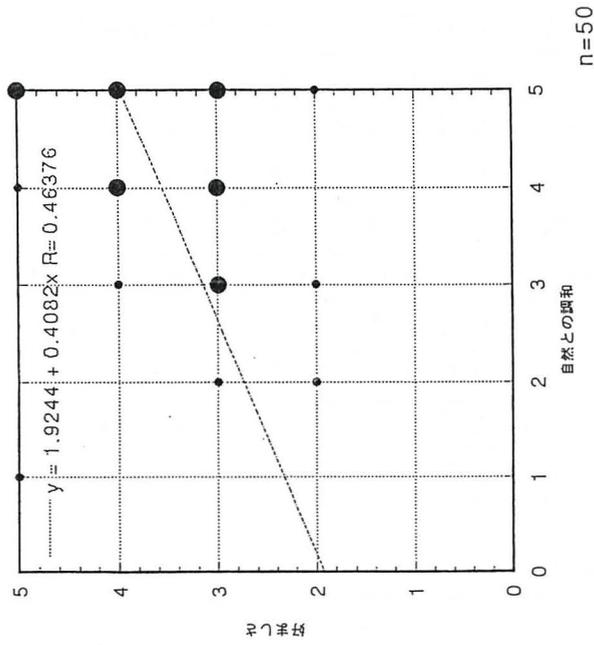
各写真エレメントごとの相関係数および回帰方程式（相関係数順）

写真	相関係数	回帰方程式
L	0.69224	$y = 0.81538 + 0.74359x$
Q	0.65652	$y = 0.7583 + 0.71958x$
P	0.65554	$y = 1.0974 + 0.66202x$
I	0.63907	$y = 0.63838 + 0.73238x$
G	0.60769	$y = 2.0072 + 0.52342x$
K	0.54894	$y = 1.6961 + 0.52135x$
H	0.51799	$y = 0.24268 + 0.7822x$
C	0.46376	$y = 1.9244 + 0.4082x$
R	0.46047	$y = 2.1378 + 0.45583x$
M	0.43308	$y = 1.2766 + 0.38767x$
B	0.43218	$y = 1.0454 + 0.66274x$
D	0.42065	$y = 1.3005 + 0.53457x$
T	0.40366	$y = 2.1742 + 0.51404x$
J	0.38407	$y = 0.97897 + 0.72664x$
N	0.34552	$y = 1.6936 + 0.32228x$
U	0.33805	$y = 2.0161 + 0.35484x$
A	0.3279	$y = 2.834 + 0.29757x$
E	0.23254	$y = 2.1272 + 0.20513x$
S	0.17178	$y = 2.6861 + 0.17678x$
O	0.16023	$y = 1.9761 + 0.27159x$
F	0.079421	$y = 3.188 + 0.079197x$

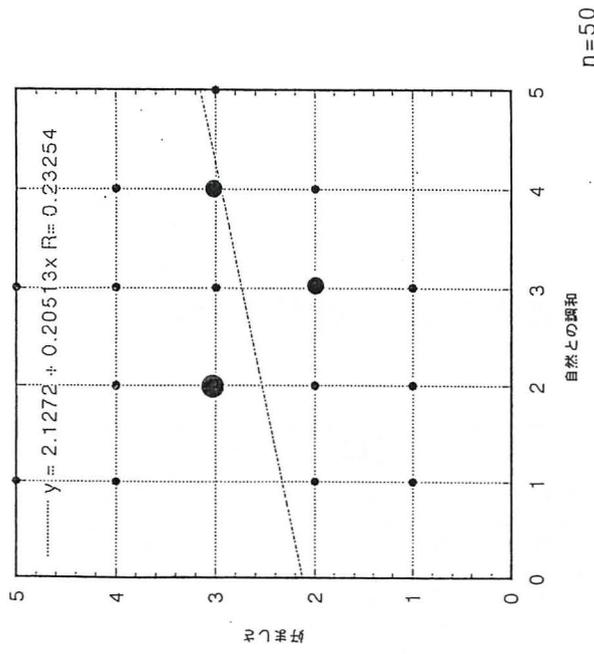
図II-2a 写真 A



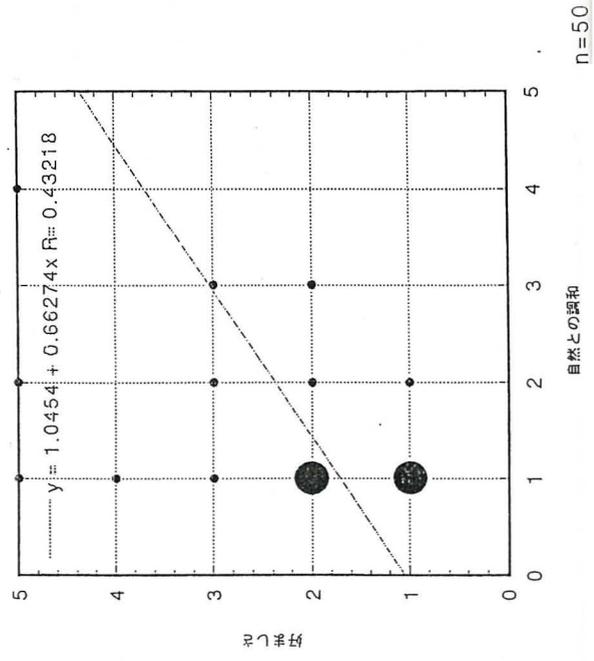
図II-2c 写真 C



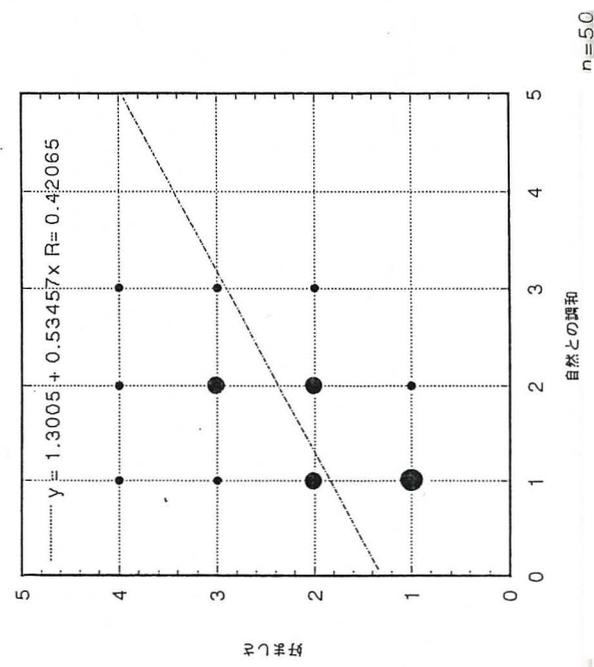
図II-2e 写真 E



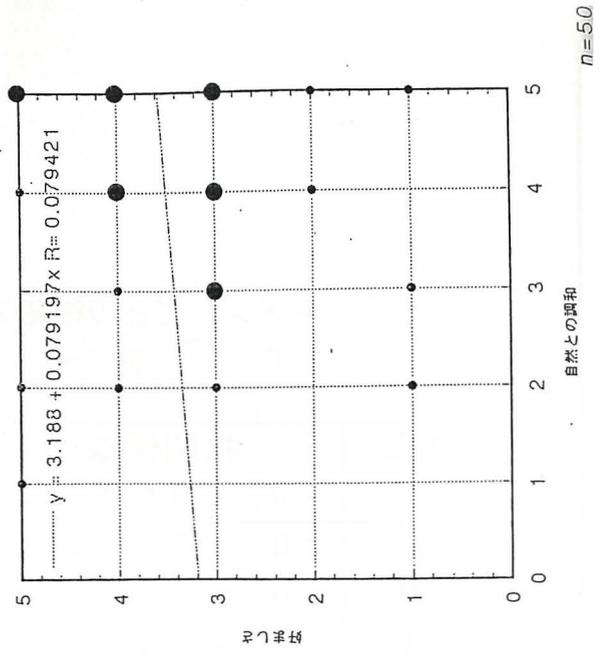
図II-2b 写真 B



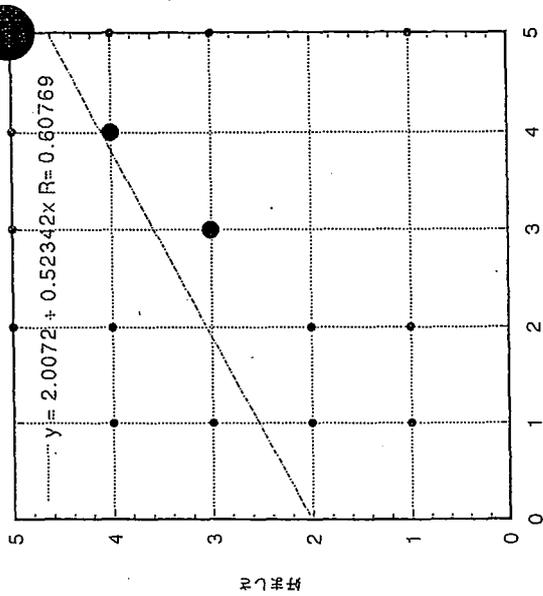
図II-2d 写真 D



図II-2f 写真 F

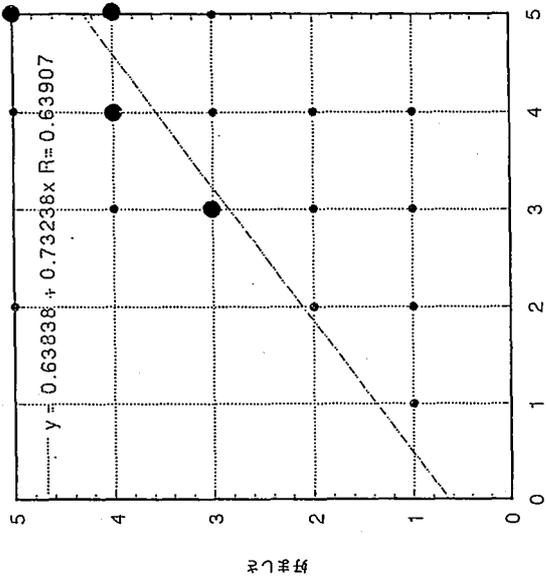


図II-2g 写真 G



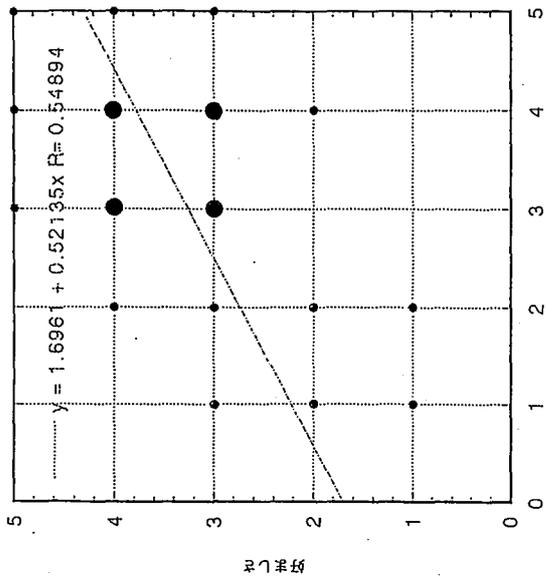
n=50

図II-2i 写真 I



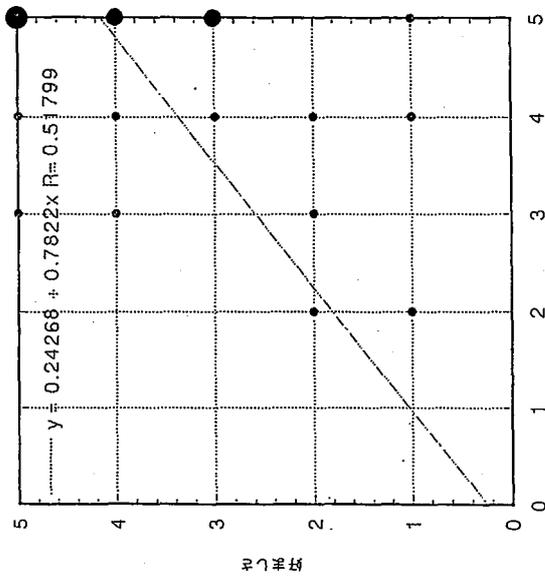
n=50

図II-2k 写真 K



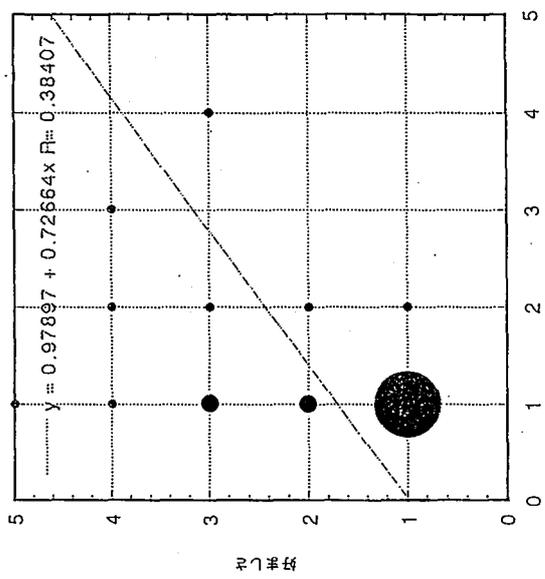
n=50

図II-2h 写真 H



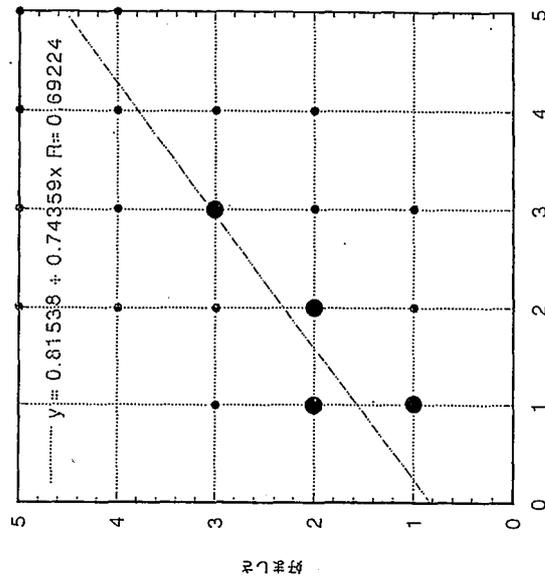
n=50

図II-2j 写真 J



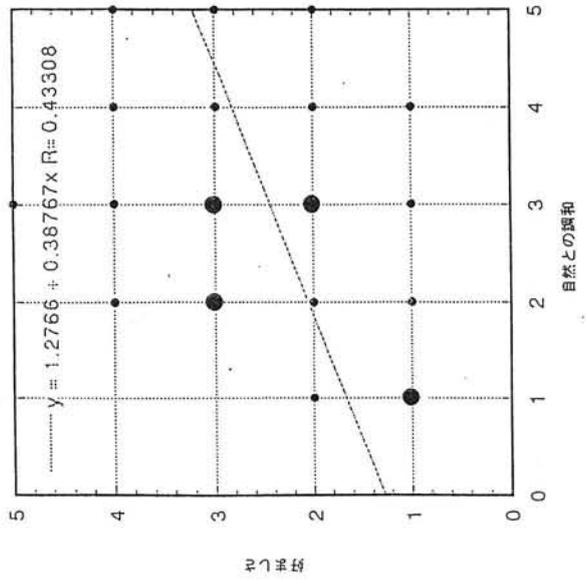
n=50

図II-2l 写真 L

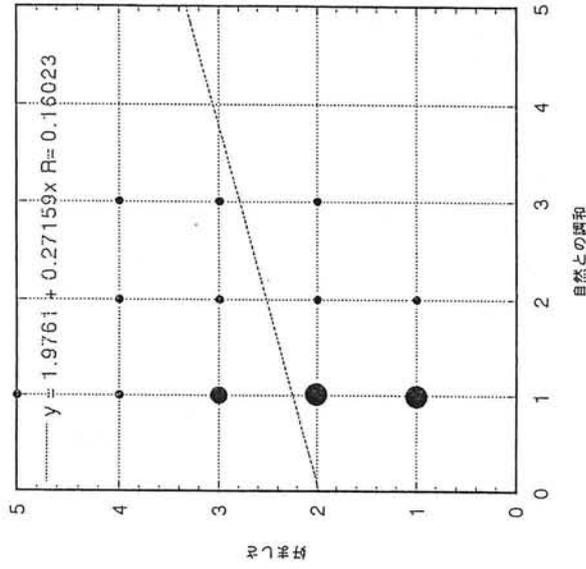


n=50

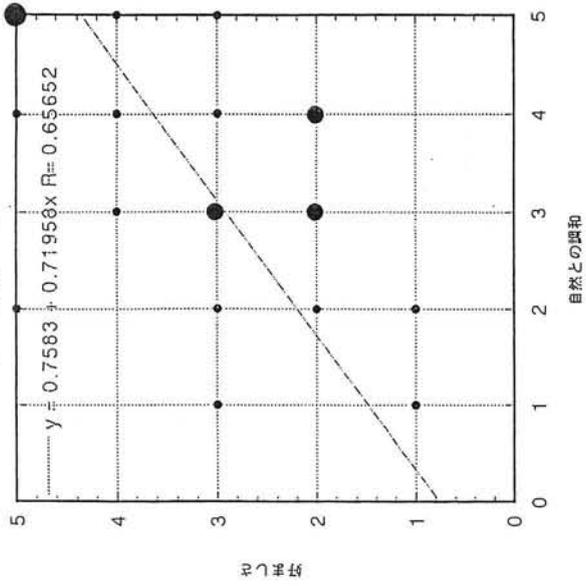
図II-2m 写真 M



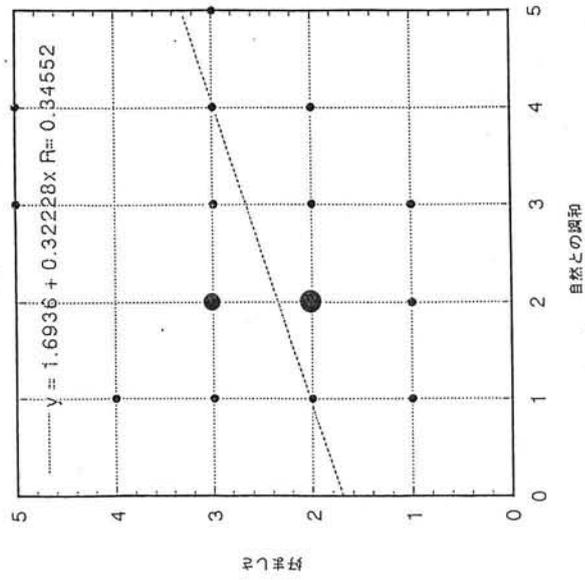
図II-2o 写真 O



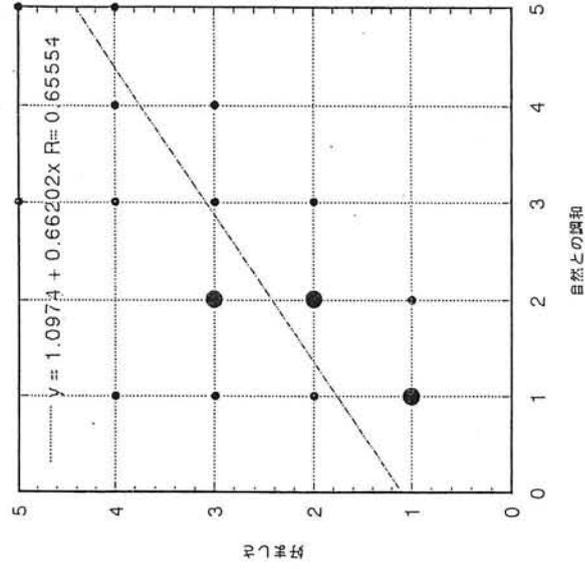
図II-2q 写真 Q



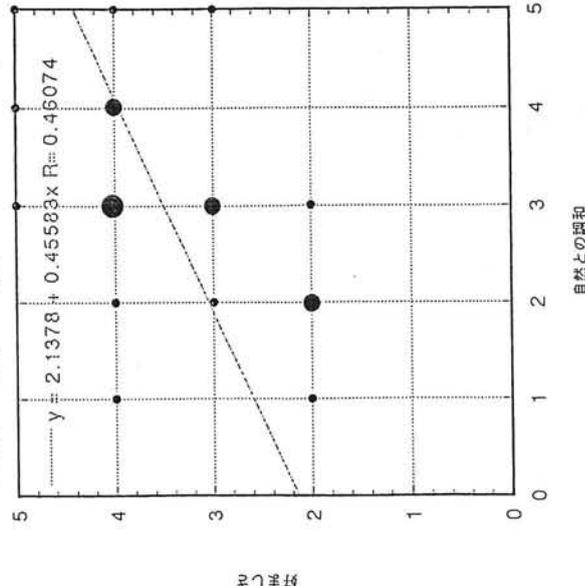
図II-2n 写真 N



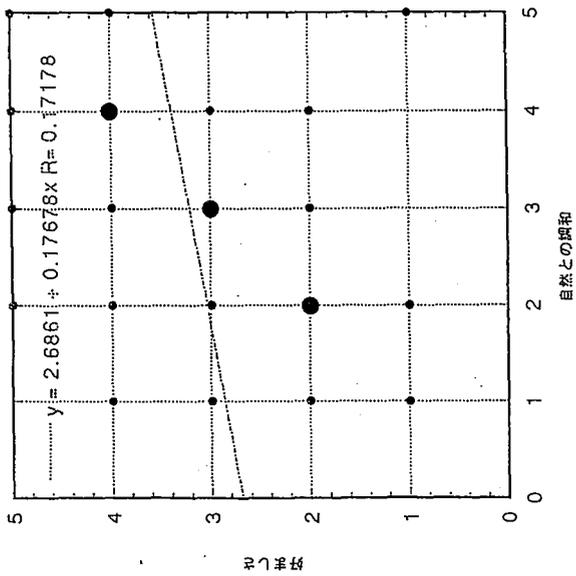
図II-2p 写真 P



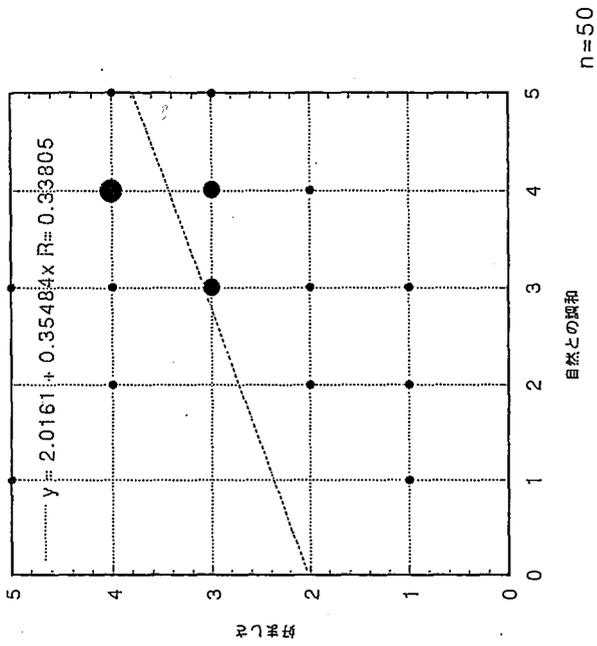
図II-2r 写真 R



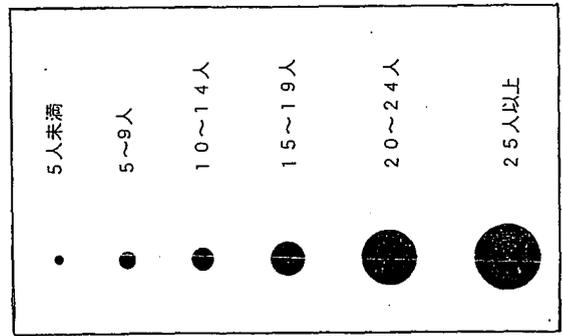
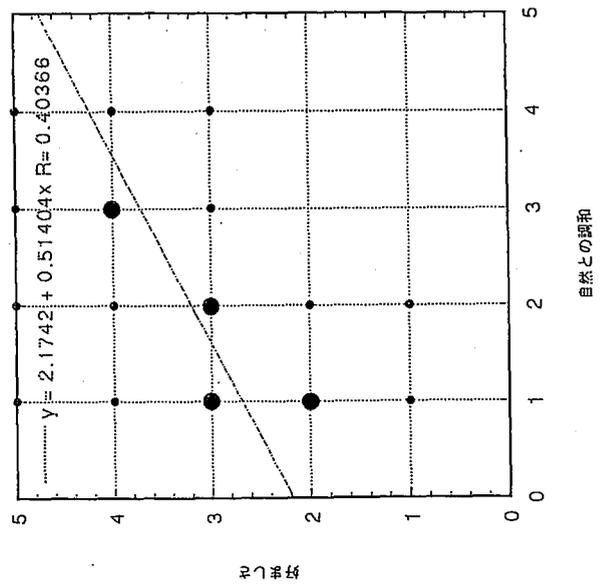
図II-2s 写真 S



図II-2u 写真 U



図II-2t 写真 T



5. 数量化理論第Ⅰ類による要因分析

各写真エレメント評価に及ぼす被験者のパーソナリティ特性の影響を明らかにすることを目的とし、全被験者の各写真エレメントの「好ましさ」の評価値を外的基準とし、全体における社会的属性や志向性、すなわち①出身地②居住年数③盛岡に住み始めた年齢④一番長く住んだ場所のイメージ⑤情緒という言葉の有無⑥色の組み合わせ1⑦色の組み合々せ2⑧色の組み合わせ3⑨色の組み合わせ4⑩相関係数の10項目をアイテムとし、各写真エレメントの景観評価への影響を数量化Ⅰ類を用いて分析を試みた。①出身地では、盛岡市内出身者・岩手県内出身者・岩手県外出身者の3通り、②居住年数では、3年以下・4年以上5年未満・5年以上10年未満・10年以上の4通り、③盛岡に住み始めた年齢では、18歳未満・18歳以上の2通り、④一番長く住んだ場所では、都会的・田舎的の2通り、⑤情緒という言葉では、ある・ないの2通り、⑥色の組み合わせ1では、寒色・暖色・寒色&暖色の3通り、⑦色の組み合わせ2では、地味なイメージ・派手なイメージ・地味&派手の3通り、⑧色の組み合わせ3では、明度が高い・明度が中間・明度が低い・明度が中間&低いの4通り、⑨色の組み合わせ4では、彩度が高い・彩度が高い&低い・彩度が低い3通り、⑩相関係数では、0.7以上、0.5以上0.7未満、0.5未満の3通りのカテゴリーに分類した。なお、色の組み合わせは資料の色の見本を呈示し、その中から一番好きな色の組み合わせと二番目に好きな色の組み合わせを被験者に選んでもらったものの中で一番好きな色の組み合わせを、色の組み合わせ1~4に分類した。

(1) 各写真エレメント別パーソナリティ特性の影響 (図Ⅱ-3a~図Ⅱ-3u)

●写真A (高松の池)

アイテムごとの結果をみると、最も写真Aの景観評価に影響を与えたのは、色の組み合わせ4の彩度に関するもの、次が色の組み合わせ3の明度に関するもの、色の組み合わせ2の色のイメージの順となり、色彩の影響が大きい。色彩以外では、居住年数、盛岡に住み始めた年齢が景観評価に影響を与えていた。

カテゴリーごとに影響をみると、色の組み合わせで彩度が低い、明度が低い、派手なイメージ、地味&派手なイメージを好む者と盛岡に住み始めた年齢が18歳未満の者がプラスに影響を与えていた。反対に、彩度が高い、明度が高い、地味なイメージを好む者と盛岡の居住年数10年以上がマイナスに影響を与えていた。すなわち、和服の絵柄や古美術品などに多用される日本的な色彩を嗜好する者の評価が高くなっていると考えられる。桜と岩手山の組み合わせはその結果を納得させるものである。

●写真B (旭橋)

アイテムごとの結果をみると、最も写真Bの景観評価に影響を与えたのは、色の組み合わせ3の明度に関するもの、次が色の組み合わせ2の色のイメージ、色の組み合わせ4の彩度に関するものの順となり、色彩の影響が大きく、色彩以外はあまり影響

を与えていなかった。特に他の写真と比較すると、情緒という言葉の有無の影響が小さく、写真Bの景観評価に情緒性が影響しないと考えられる。

カテゴリーごとに影響をみると、色の組み合わせで明度が低い、地味&派手なイメージを好む者がプラスに影響を与えており、橋の欄干および川原の色彩の好みは評価に影響していると考えられる。反対に、明度が中間&低い、地味なイメージ、彩度が高いものを好んでいた者はマイナスに影響を与えていた。

●写真C（下の橋）

アイテムごとの結果をみると、最も写真Cの景観評価に影響を与えたのは、色1の組み合わせ3の明度に関するもの、次が色の組み合わせ4の彩度に関するもの、色の組み合わせ2の色のイメージに関するものの順となり、色彩の影響が大きかった。色彩以外では、出身地が景観評価に影響を与えていた。

カテゴリーごとに影響をみると、色の組み合わせで彩度が高い&低い、地味&派手なイメージ、寒色&暖色、明度が高いを好む者と盛岡市内出身者がプラスに影響を与え、バランス感覚を持つ色彩の嗜好性が評価を高める要因になっている。反対に、明度が中間&低い、彩度が高い、地味なイメージを好む者がマイナスに影響を与えていた。また、他の写真と比較すると、情緒という言葉の有無の影響が非常に小さく、写真Cの景観評価に情緒性は影響しないと考えられる。

●写真D（盛岡駅）

アイテムごとの結果をみると、最も写真Dの景観評価に影響を与えたのは、色の組み合わせ3の明度に関するもの、次が居住年数、盛岡に住み始めた年齢、色の組み合わせ1の寒色・暖色の組み合わせに関するものの順となり、色彩の影響だけでなく、居住年数や住み始めた年齢などの特性が景観評価に影響を与えていた。

カテゴリーごとに影響をみると、色の組み合わせで寒色&暖色の組み合わせ、地味&派手なイメージ、彩度が高い&低いを好む者と盛岡の居住年数10年以上がプラスに影響を与えていた。反対に、明度が中間&低い、彩度が高いものを好む者と盛岡に住み始めたのが18歳未満の者、盛岡の居住年数4年以上5年未満がマイナスに影響を与えていた。すなわち、盛岡に幼い頃に居住した経験を持つ者や、大学時代4年以上居住している者にとっては、駅は愛着の対象とはなっていないと考えられる。他の写真と比較すると相関係数の影響は大きく、「自然との調和」の評価系の有無に左右される写真と考えられる。また、情緒という言葉の有無の影響が非常に小さく、写真Dの景観評価に情緒性は影響しないと考えられる。

●写真E（中の橋）

アイテムごとの結果をみると、最も写真Eの景観評価に影響を与えたのは、色の組み合わせ4の彩度に関するもの、次が色の組み合わせ2の色のイメージ、色の組み合わせ3の明度に関するものの順となり、色彩の影響が大きく、他の特性はあまり影響

がみられない。

カテゴリーごとに影響をみると、色の組み合わせで地味&派手なイメージ、彩度が低いを好む者がプラスに大きく影響し、盛岡の居住年数3年以下、暖色系、寒色&暖色、明度が中間を好む者もプラスに影響を与えていた。橋桁の青緑色に対する嗜好が評価を左右していると推察される。反対に、地味なイメージ、明度が中間&低い、彩度が高いを好む者がマイナスに大きく影響を与えていた。他の写真と比較すると、情緒という言葉の有無の影響が非常に小さく、写真Eの景観評価に情緒性は影響を与えないと考えられる。

●写真F（中津川）

アイテムごとの結果をみると、最も写真Fの景観評価に影響を与えたのは、色の組み合わせ3の明度に関するもの、次が色の組み合わせ4の彩度に関するもの、色の組み合わせ2の色のイメージ、居住年数の順となり、色彩の影響が大きく、色彩以外では、居住年数の影響が大きかった。また、他の特性は景観評価にあまり影響を与えていないが、他の写真と比較すると相関係数の影響が大きく、「自然との調和」の評価系の有無によって左右される写真と考えられる。

カテゴリーごとに影響をみると、色の組み合わせの明度が中間&低い、彩度が高い、地味なイメージを好む者、盛岡の居住年数10年以上がプラスに影響を与えていた。反対に、地味&派手なイメージ、暖色系、明度が中間、彩度が高い&低い、彩度が低いを好む者と盛岡の居住年数3年以下がマイナスに影響を与えていた。「自然との調和」の評価系の有無だけでなく、文化財としての上の橋に対する愛着度、あるいは中間的色彩の嗜好性が評価を高める要因になっていると考えられる。

●写真G（開運橋）

アイテムごとの結果をみると、最も写真Gの景観評価に影響を与えたのは、居住年数、次が盛岡に住み始めた年齢、色の組み合わせ2の色のイメージ、色の組み合わせ4の彩度に関するもの、色の組み合わせ3の明度に関するものの順となり、色彩の影響は大きいものの、居住年数、盛岡に住み始めた年齢などの特性が色彩の影響を上回る結果に注目できる。

カテゴリーごとに影響をみると、盛岡に住み始めた年齢が18歳未満の者、派手なイメージを好むもの、盛岡の居住年数3年以下がプラスに影響を与えていた。写真Aと同様に、岩手山とのつながりがここにも認められる。反対に、盛岡の居住年数10年以上、盛岡に住み始めた年齢が18歳以上の者、地味なイメージを好む者、明度が中間&低い、彩度が高いものを好む者がマイナスに影響を与えていた。したがって、長年住み続けている者にとっては、必ずしも好ましい景観とは限らないことが明らかである。また、他の写真と比較すると、情緒という言葉の有無の影響が小さく、写真Gの景観評価に情緒性は影響を与えないと考えられる。

●写真H（莫塵九の白壁）

アイテムごとの結果をみると、最も写真Hの景観評価に影響を与えたのは、色の組み合わせ4の彩度に関するもの、次が色の組み合わせ2の色のイメージ、盛岡に住み始めた年齢、色の組み合わせ3の明度に関するもの、居住年数の順となり、色彩の影響が大きいものの、居住年数、盛岡に住み始めた年齢などの特性も大きく影響を与えており、前述写真Gと同様である。また、写真Hの中だけで比較すると影響は小さいが、他の写真と比較すると、情緒という言葉の有無の影響が大きく、写真Hの景観評価に情緒性が影響すると考えられる。

カテゴリーごとに影響をみると、色の組み合わせで派手なイメージ、地味&派手なイメージ、彩度が低いものを好む者と盛岡の居住年数10年以上がプラスに影響を与えていた。居住しつづけている者にとって中津川の持つ意味が大きくイメージを高める要因になっている点は写真Fと同様である。反対に、彩度が高い、地味なイメージ、明度が中間&低いのを好むものと盛岡に住み始めた年齢が18歳未満の者がマイナスに影響を与えていた。

●写真I（寺の下）

アイテムごとの結果をみると、最も写真Iの景観評価に影響を与えたのは、色の組み合わせ2の色のイメージ、次が色の組み合わせ4の彩度に関するもの、情緒という言葉の有無の順となり、色彩の影響と情緒性の影響が大きかった。特に、情緒性はAからUの21枚の写真の中で最も大きな影響を与えていた、また、他の写真と比較すると相関係数の影響が大きく、「自然との調和」の評価系の有無によって評価が左右される写真と考えられる。

カテゴリーごとに見ると、色の組み合わせで派手なイメージ、地味&派手なイメージ、暖色系、彩度が低いものを好む者、相関係数が0.7以上の者、情緒という言葉がある者がプラスに影響を与えていた。反対に、彩度が高い、地味なイメージ、明度が高いものを好む者と情緒という言葉がない者がマイナスの影響を与えていた、

●写真J（大通り商店街）

アイテムごとの結果をみると、最も写真Jの景観評価に影響を与えたのは、居住年数、次が盛岡に住み始めた年齢、色の組み合わせ1の寒色・暖色の組み合わせに関するもの、色の組み合わせ3の明度に関するもの、色の組み合わせ2の色のイメージに関するものの順となり、居住年数、盛岡に住み始めた年齢などの社会的属性と色彩の影響が大きかった。

カテゴリーごとに影響をみると、盛岡の居住年数10年以上が特にプラスに影響を与えていた。他は寒色&暖色、明度が高いものを好む者、盛岡に住み始めた年齢が18歳以上の者がプラスに影響を与えていた、反対に、盛岡に住み始めた年齢が18歳未満の者、盛岡の居住年数10年未満、市内出身者、地味なイメージ、明度が高いものを好む

者はマイナスに影響を与えていた。他の写真と比較すると、情緒という言葉の有無の影響が小さく、写真Jの景観評価に情緒性がほとんど影響しないと考えられる。また、相関係数の影響も非常に小さく、「自然との調和」の評価系の有無によって左右されない写真と考えられる。

●写真K（善隣館）

アイテムごとの結果をみると、最も写真Kの景観評価に影響を与えていたのは、色の組み合わせ4の彩度に関するもの、次が色の組み合わせ2の色のイメージ、色の組み合わせ3の明度に関するもの、盛岡に住み始めた年齢、居住年数の順となり、色彩の影響が最も大きく、また、居住年数などの社会的属性の影響も大きかった。

カテゴリーごとに影響をみると、色の組み合わせで地味&派手なイメージ、明度が低い、彩度が低いものを好む者、すなわち中間的色彩の嗜好性と盛岡に住み始めた年齢が18歳未満の者がプラスに影響を与えていた。反対に、彩度が高い、明度が中間&低い、地味なイメージを好む者と盛岡の居住年数10年以上がマイナスに影響していた。

相関係数の影響は、写真Kの中でのみ比較するとあまり大きくないが、他の写真と比較すると影響が大きく、「自然との調和」の評価系の有無によって評価が左右される写真と考えられる。また、情緒という言葉の有無は、影響が非常に小さく、写真Kの景観評価に情緒性はほとんど影響しないと考えられる。

●写真L（大慈清水）

アイテムごとの結果をみると、最も写真Lの景観評価に影響を与えたのは、居住年数、次が盛岡に住み始めた年齢となり、これらの社会的属性が大きく景観評価に影響を与えていた。他の写真と比較すると、色彩の影響は小さかったが、情緒という言葉の有無の影響は大きく、写真Lの景観評価に情緒性が影響していると考えられる。

カテゴリーごとに影響をみると、盛岡の居住年数10年以上、盛岡に住み始めた年齢が18歳以上の者がプラスに影響を与えていた。すなわち、文化的価値の認識の有無が評価を左右していると考えられる。反対に、盛岡の居住年数3年以下、盛岡に住み始めた年齢が18歳未満の者がマイナスに大きく影響していた。

●写真M（中央公民館）

アイテムごとの結果をみると、最も写真Mの景観評価に影響を与えたのは、色の組み合わせ2の色のイメージ、次が色の組み合わせ3の明度に関するもの、色の組み合わせ4の彩度に関するもの、盛岡に住み始めた年齢の順となり、色彩の影響が大きかった。社会的属性の中では、盛岡に住み始めた年齢の影響が大きかった。カテゴリーごとに影響をみると、色の組み合わせの地味&派手なイメージ、派手なイメージ、明度が高い、明度が低い、彩度が低いものを好む者、すなわち、自壁がポイントとなって評価の高さを誘因していることが明らかであり、さらに、盛岡に住み始めた年齢が18歳未満の者がプラスに影響を与えていた。反対に、地味なイメージ、明度が中間&

低い、彩度が高いものを好む者と盛岡市内出身者はマイナスに影響を与えていた。

●写真N（レストラン蔵香）

アイテムごとの結果をみると、最も写真Nの景観評価に影響を与えたのは、色の組み合わせ3の明度に関するもの、次が色の組み合わせ4の彩度に関するものとなり、色彩の影響が比較的大きかった。しかし、他の写真と比較するとそれぞれの特性の影響が非常に小さく、特に一番長く住んだ場所のイメージは、景観評価に影響していなかった。カテゴリごとに影響をみると、色の組み合わせセ明度が高い、明度が中間&低い、彩度が高い、低いものを好む者と、盛岡の居住年数10年以上がプラスに影響を与えていた。反対に、彩度が低い、明度が低い、寒色&暖色の組み合わせを好む者がマイナスに影響を与えていた。

●写真O（旧井弥商店とコーポ長岡）

アイテムごとの結果をみると、最も写真Oの景観評価に影響を与えたのは、色の組み合わせ4の彩度に関するもの、次が色の組み合わせ2の色のイメージ、色の組み合わせ3の明度に関するもの、居住年数、盛岡に住み始めた年齢となり、色の影響が最も大きく、また居住年数などの社会的属性の影響も大きかった。また、他の写真と比較すると、情緒という言葉の有無の影響が大きく、写真Oの景観評価に情緒性が影響していると考えられる。カテゴリごとに影響をみると、色の組み合わせの彩度が高い、明度が中間&低い、地味なイメージを好む者がプラスに影響を与えていた。反対に、派手なイメージ、明度が高い・中間、彩度が高い&低い・低いを好む者と、県内出身者、盛岡の居住年数5年未満、盛岡に住み始めた年齢が18歳未満の者がマイナスに影響を与えていた。

●写真P（上田公民館）

アイテムごとの結果をみると、最も写真Pの景観評価に影響を与えたのは、色の組み合わせ4の彩度に関するもの、次が居住年数、色の組み合わせ3の明度に関するもの、盛岡に住み始めた年齢となり、色彩の影響と居住年数などの社会的属性の影響が大きく影響を与えていた。

カテゴリごとに影響をみると、盛岡の居住年数3年以下、盛岡に住み始めた年齢が18歳未満の者、色の組み合わせの彩度が高い&低いを好む者がプラスに影響を与え、彩度が高い、明度が中間&低いを好む者と盛岡の居住年数10年以上がマイナスに影響を与えていた。

●写真Q（運動公園脇並木道）

アイテムごとの結果をみると、最も写真Qの景観評価に影響を与えたのは、居住年数、次が色の組み合わせ2の色のイメージ、色の組み合わせ3の明度に関するもの、色の組み合わせ1の順となり、居住年数という社会的属性と色彩の影響が大きかった。

カテゴリごとに影響をみると、盛岡の居住年数10年以上、色の組み合わせの派手

なイメージ、地味&派手なイメージ、明度が低いものを好む者がプラスに影響を与えていた。反対に、明度が中間&低い、寒色&暖色の組み合わせ、彩度が高いものを好む者、盛岡の居住年数3年以下、市内出身者がマイナスに影響を与えていた。なお、相関係数0.7以上の者がマイナスを示す事実にも注目できる。

●写真R（県公会堂）

アイテムごとの結果をみると、最も写真Rの景観評価に影響を与えたのは、出身地で、次が居住年数となり、これらの社会的属性が大きく影響し、その次に、相関係数や色彩の影響がみられた。他の写真と比較すると、情緒という言葉の有無の影響が大きく、写真Rの景観評価には情緒性が影響している。また、相関係数も影響が大きく、「自然との調和」の評価系の有無によって景観評価が左右されると考えられる。しかし、全体的に影響は小さい。

カテゴリーごとの影響をみると、県内出身者と盛岡の居住年数10年以上がプラスに影響を与えており、公会堂の文化財的価値と盛岡市の建物としての象徴性が評価を高める要因となっている。色の組み合わせは、明度が低い・高い、高彩度を好む者、相関係数は0.7未満の者がプラスに影響を与えていた。反対に、市内出身者、盛岡の居住年数5年以上10年未満、相関係数が0.7以上の者がマイナスに影響を与えていた。

●写真S（寺町通り）

アイテムごとの結果をみると、最も写真Sの景観評価に影響を与えたのは、盛岡に住み始めた年齢、次が出身地、居住年数、色の組み合わせ2の色のイメージに関するものの順となり、社会的属性の影響が大きかった。他の写真と比較すると情緒という言葉の有無の影響が大きく、写真Sの景観評価に情緒性が影響していると考えられる。また、相関係数も影響が大きく、「自然との調和」の評価系の有無によって景観評価が左右されると考えられる。しかし、全体的に影響が小さい。

カテゴリーごとに影響をみると、盛岡に住み始めた年齢が18歳未満の者と、地味&派手な色の組み合わせを好む者と、県内出身者がプラスに影響を与えていた。反対に、市内出身者、盛岡の居住年数10年以上、盛岡に住み始めた年齢が18歳以上の者、色の組み合わせの明度が中間&低いを好む者がマイナスに影響を与えていた。街並みとしての景観的価値を観光対象と分けて認識する場合には評価が高まらないと推察される。

●写真T（材木町）

アイテムごとの結果をみると、最も写真Tの景観評価に影響を与えたのは、居住年数、次が盛岡に住み始めた年齢、出身地、色の組み合わせ3の明度に関するものとなり、社会的属性の影響が大きかった。他の写真と比較すると、相関係数の影響が小さく、「自然との調和」の評価系の有無によって景観評価が左右されないと考えられる。また、色彩の影響は他の写真と比較するとあまり大きくない。

カテゴリーごとに影響をみると、盛岡の居住年数5年未満、市内出身者、盛岡に住

み始めた年齢が18歳未満の者がプラスに影響を与えていた。反対に、盛岡の居住年数10年以上はマイナスに影響を与えていた。アパート居住者の場合には居住地周辺であることから愛着が影響していると考えられる。

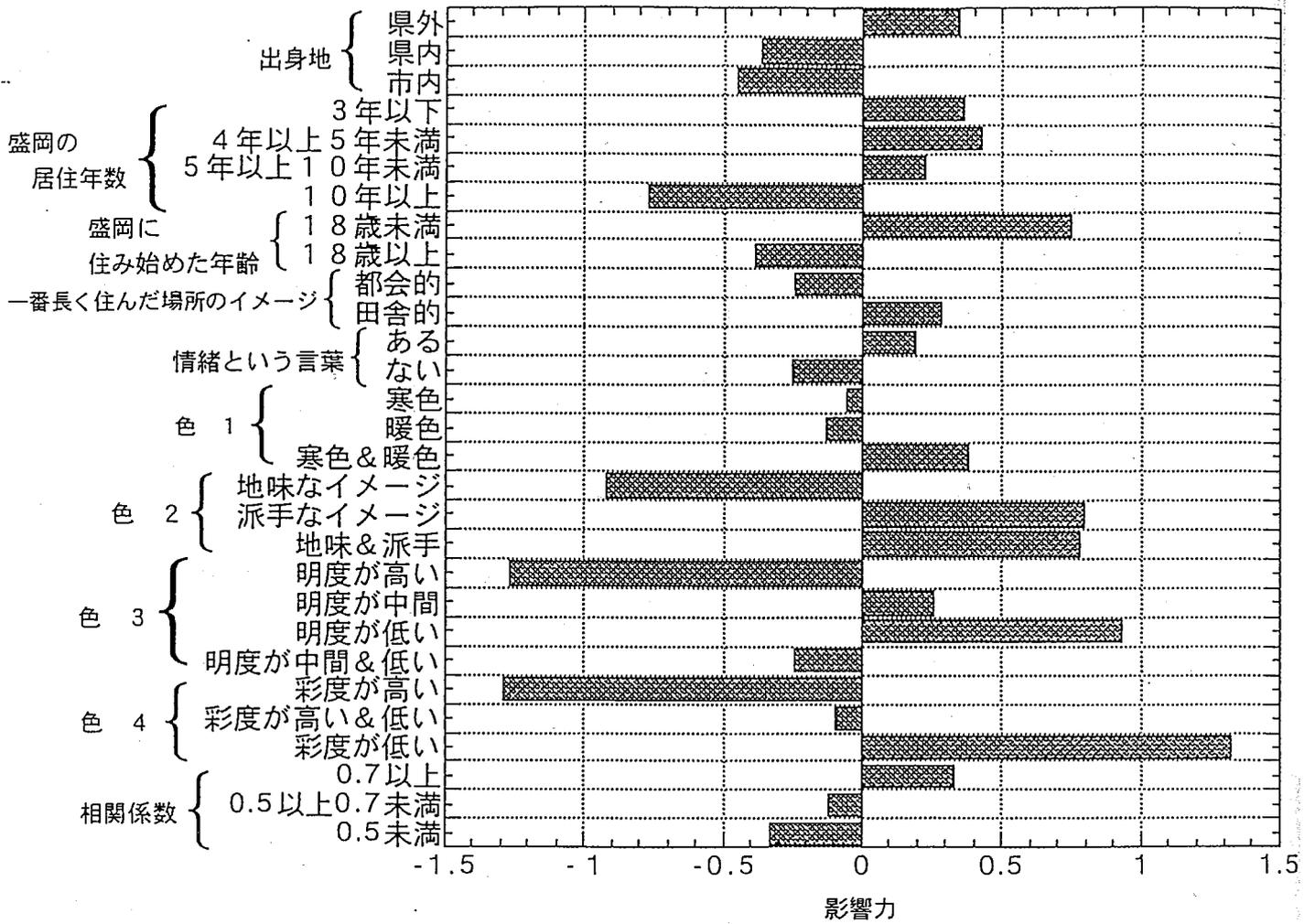
●写真U（県合同庁舎のユリノキ・ケヤキ群）

アイテムごとの結果をみると、最も写真Uの景観評価に影響を与えたのは、色の組み合わせ4の彩度に関するもの、次が色の組み合わせ2の色のイメージ、色の組み合わせ3の明度に関するもの、色の組み合わせ1の寒色・暖色の組み合わせの順となり、色彩の影響がきわめて大きかった。他の写真と比較すると、相関係数の影響が小さく、「自然との調和」の評価系の有無によって景観評価が左右されないと考えられる。

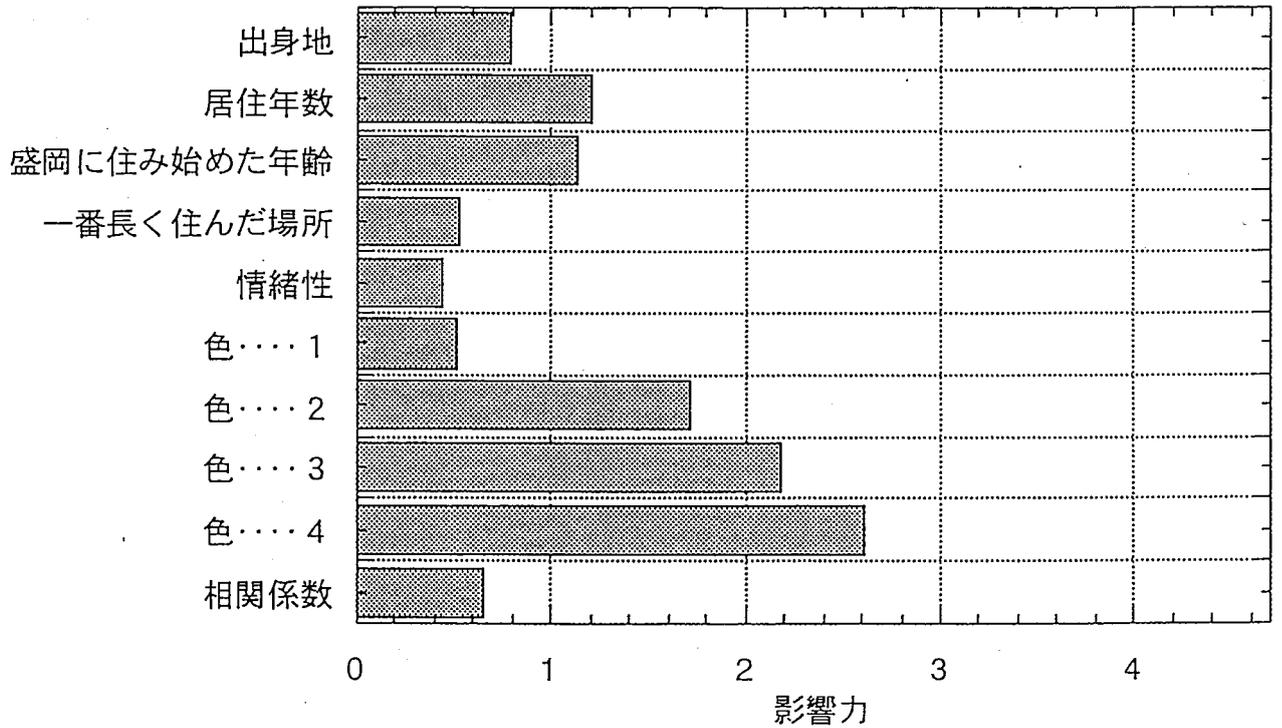
カテゴリーごとに影響をみると、色の組み合わせの地味&派手なイメージ、派手なイメージ、暖色系、彩度が低い、明度が中間のものを好む者がプラスに影響を与えていた。反対に、彩度が高い、明度が中間&低い、明度が高い、地味なイメージ、寒色&暖色の組み合わせを好む者と、市内出身者がマイナスに影響を与えていた。

写真 A

CATEGORY

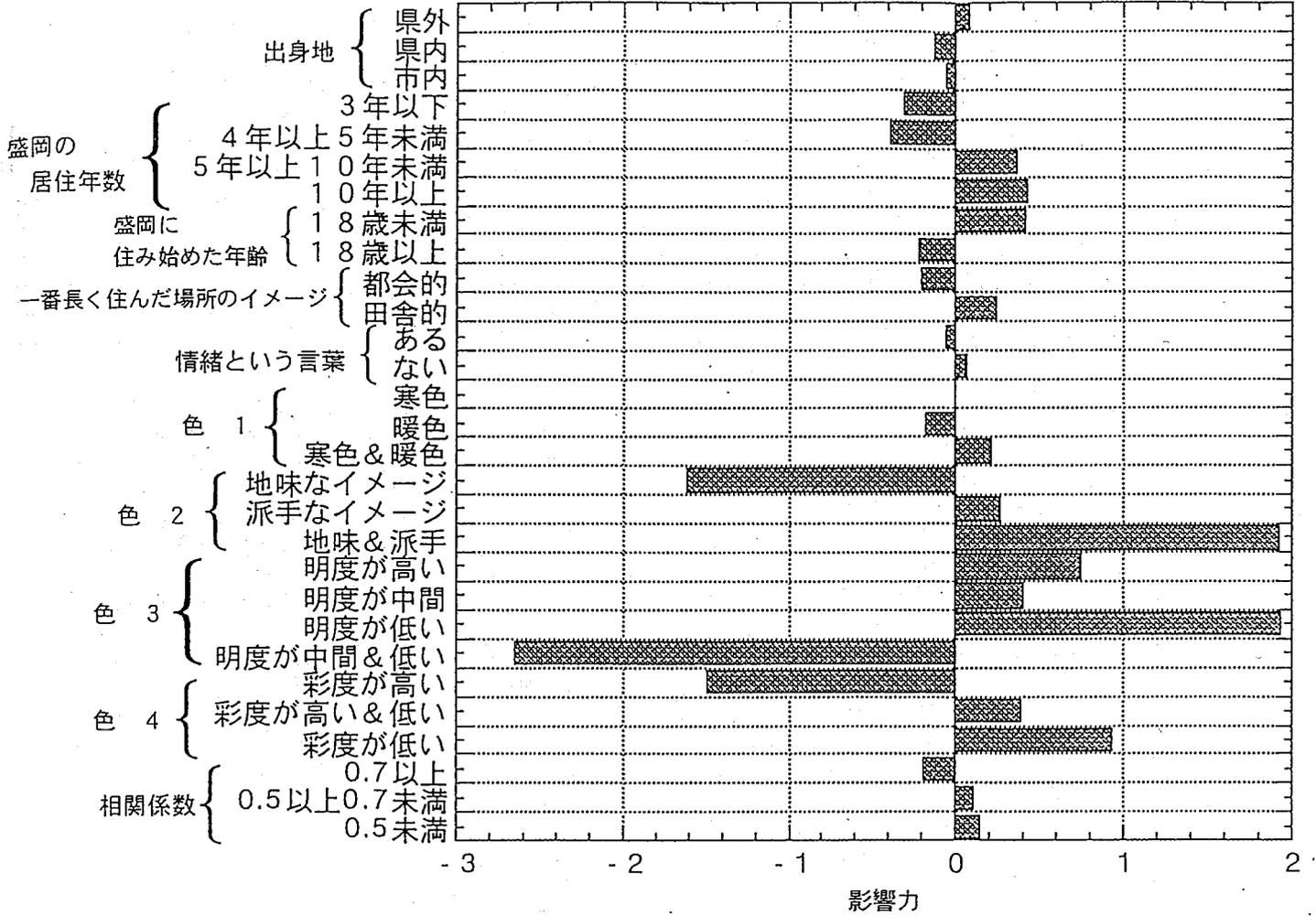


ITEM



図II-3a

CATEGORY



ITEM

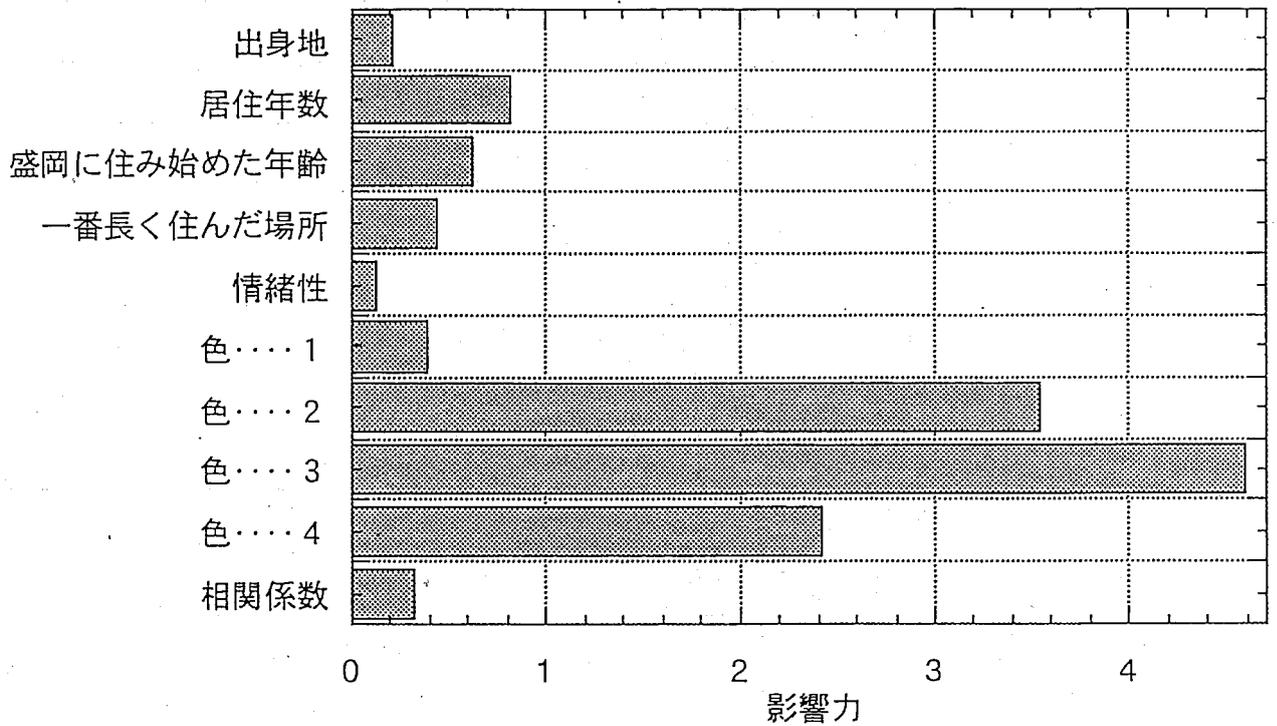
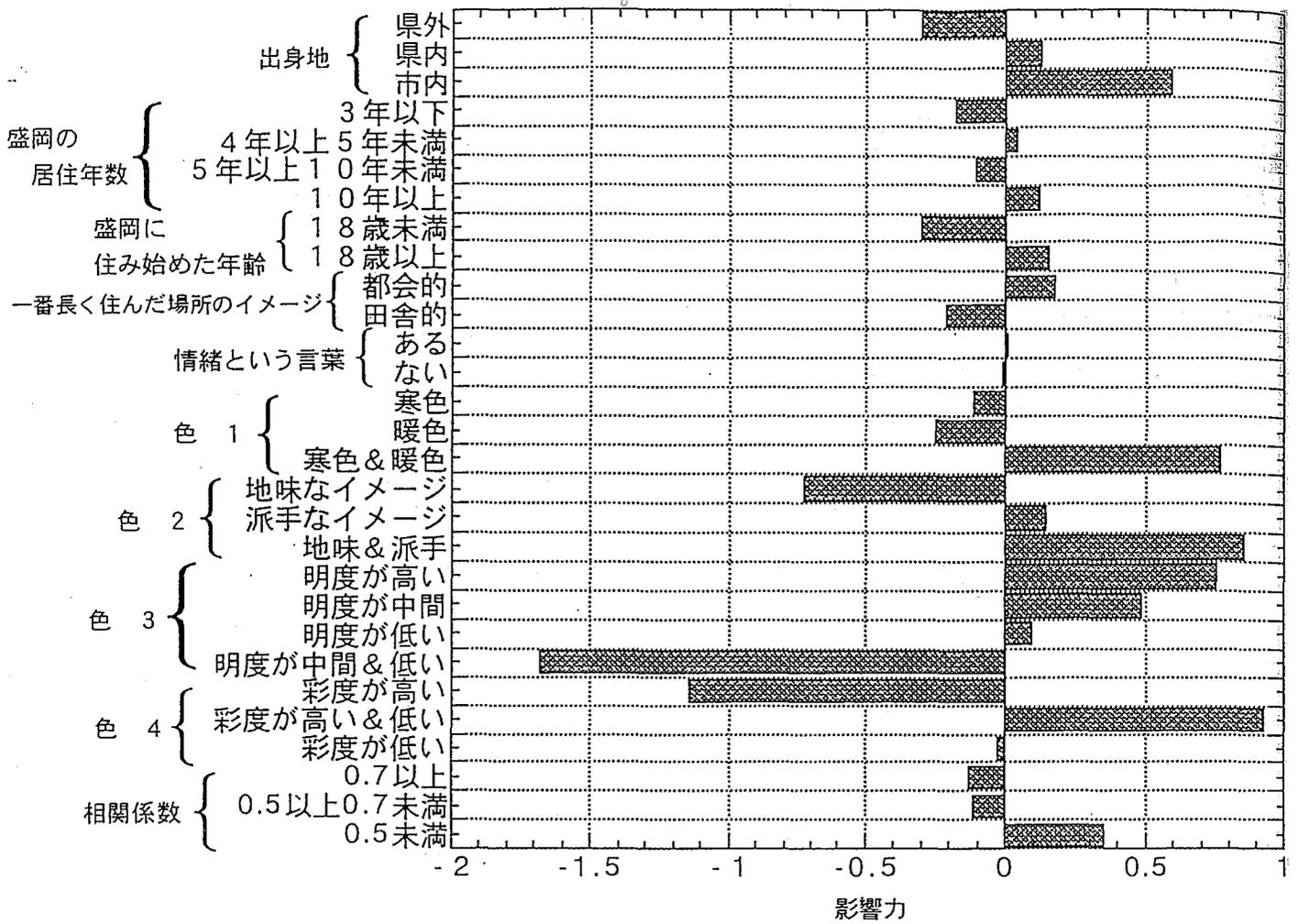


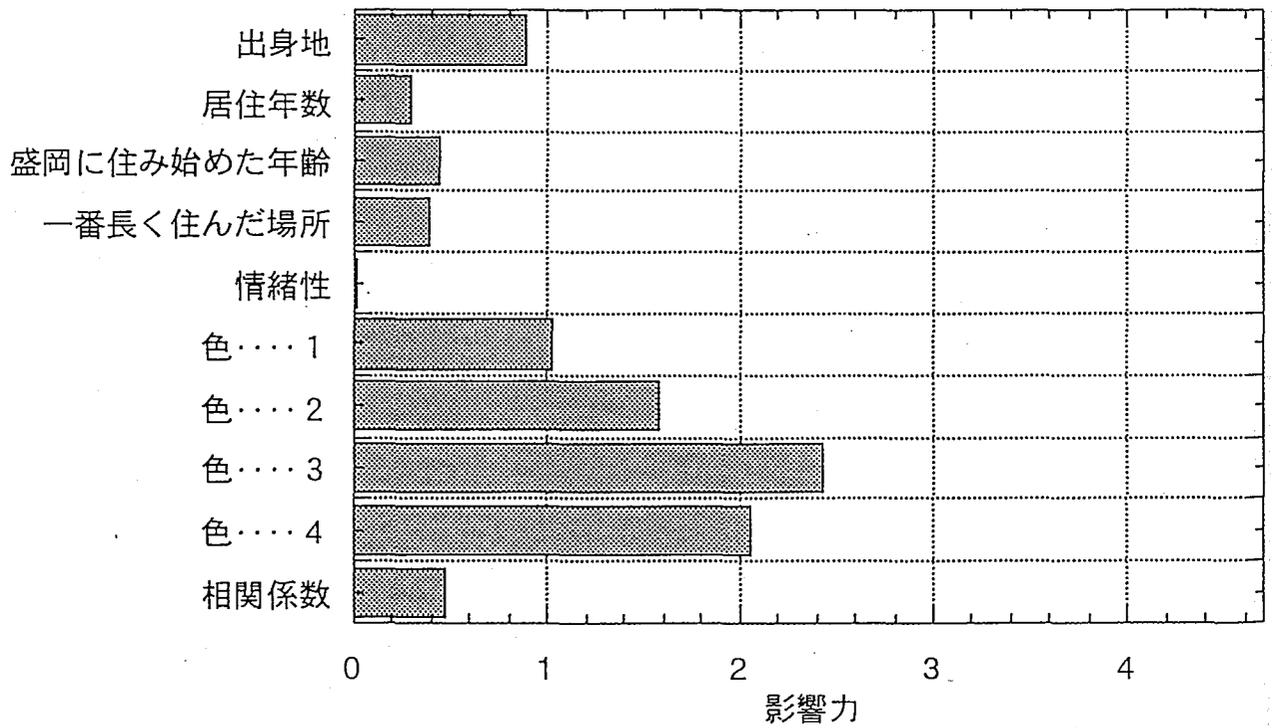
図 II - 3b

写真 C

CATEGORY



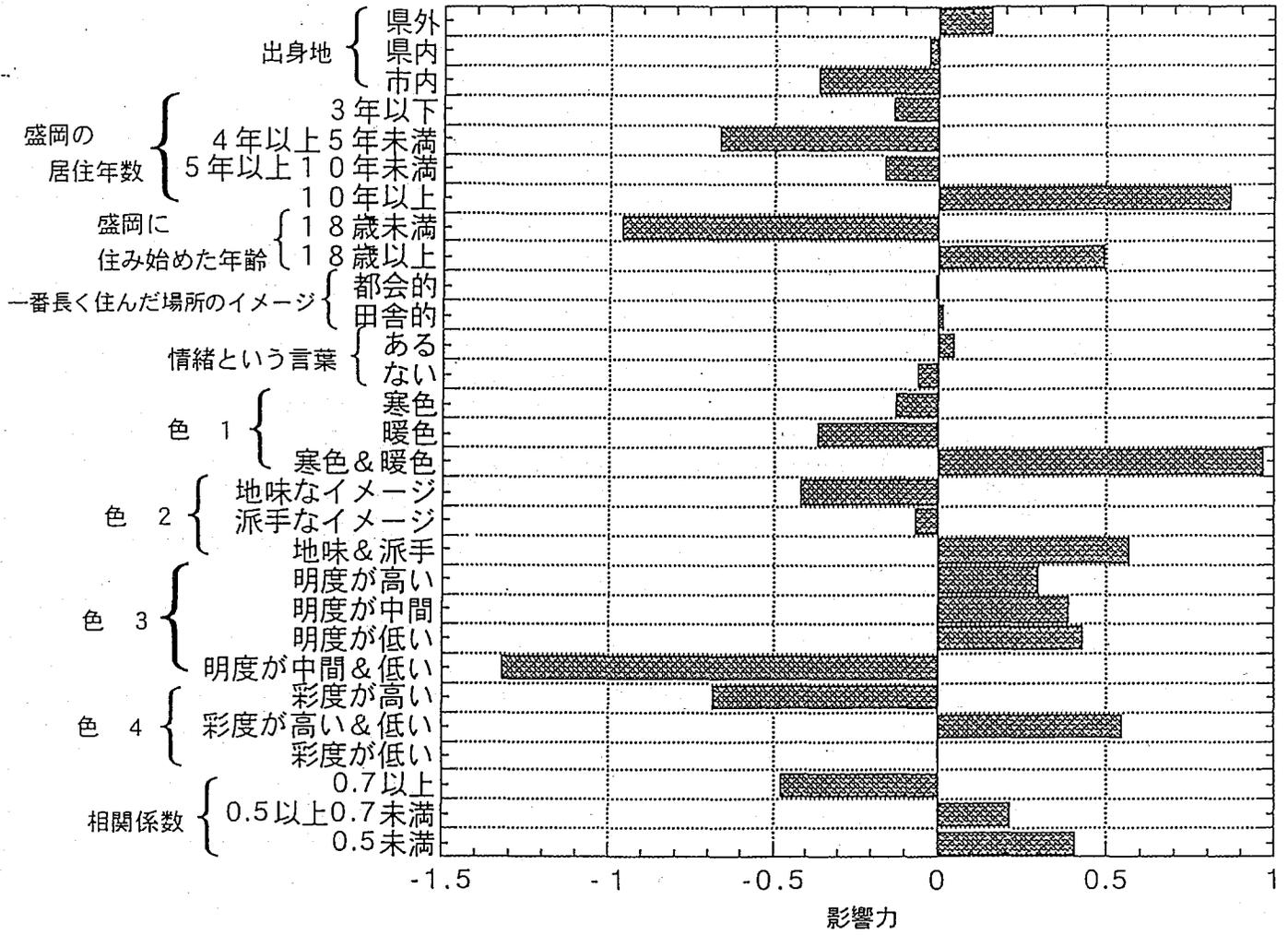
ITEM



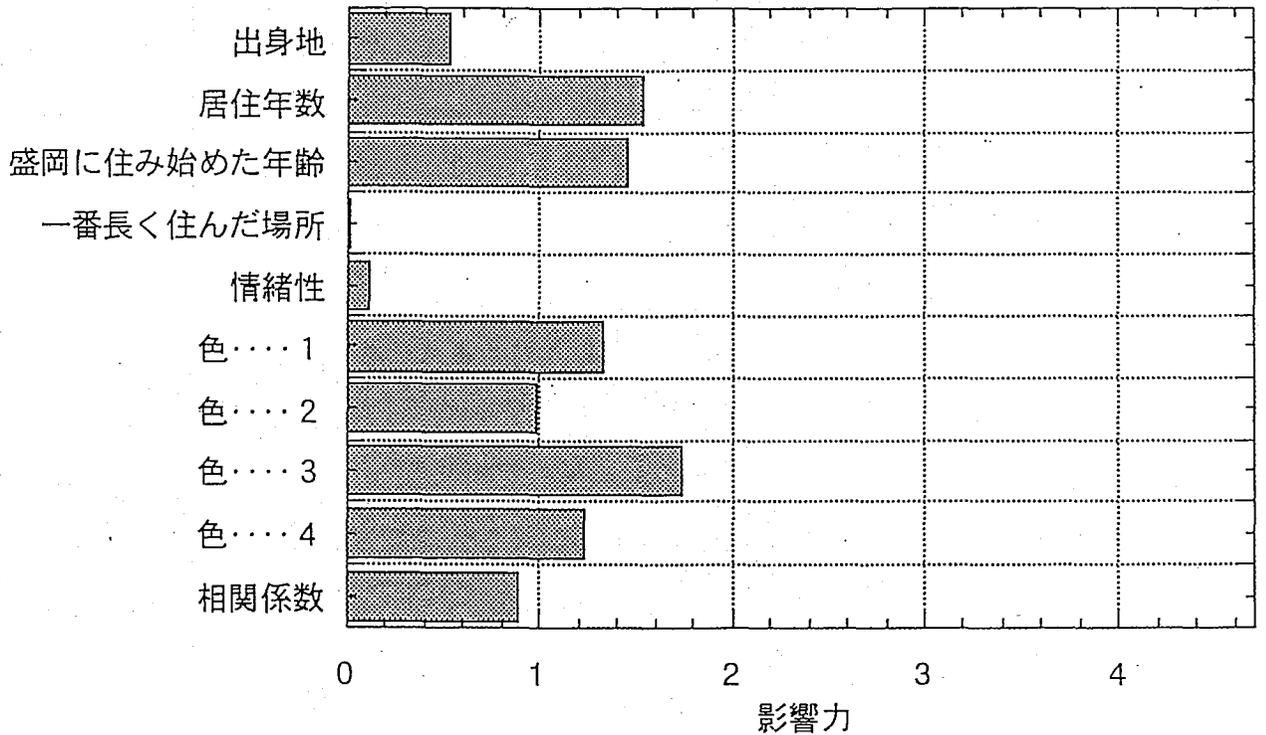
図II-3c

写真 D

CATEGORY



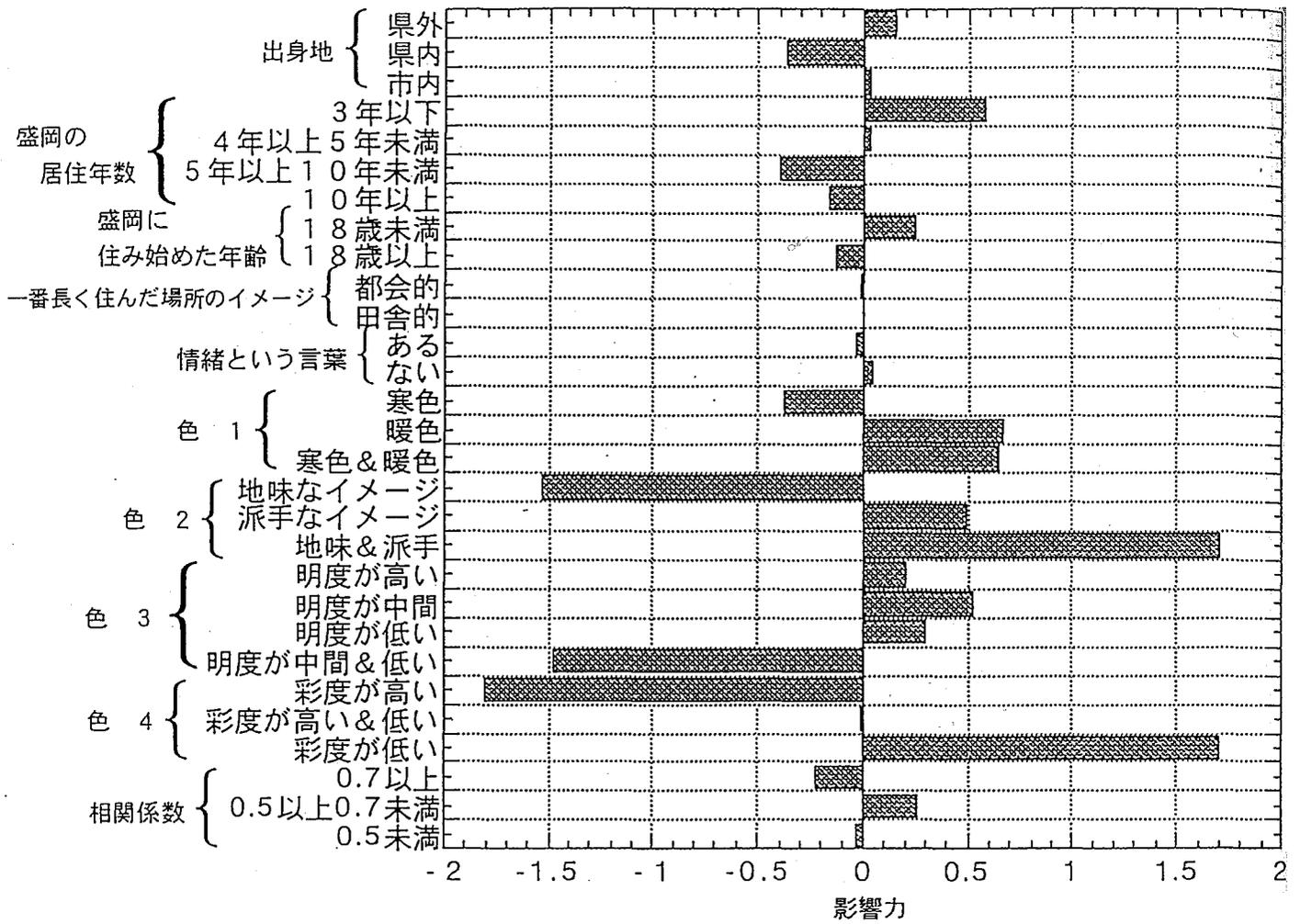
ITEM



図II-3d

写真 E

CATEGORY



ITEM

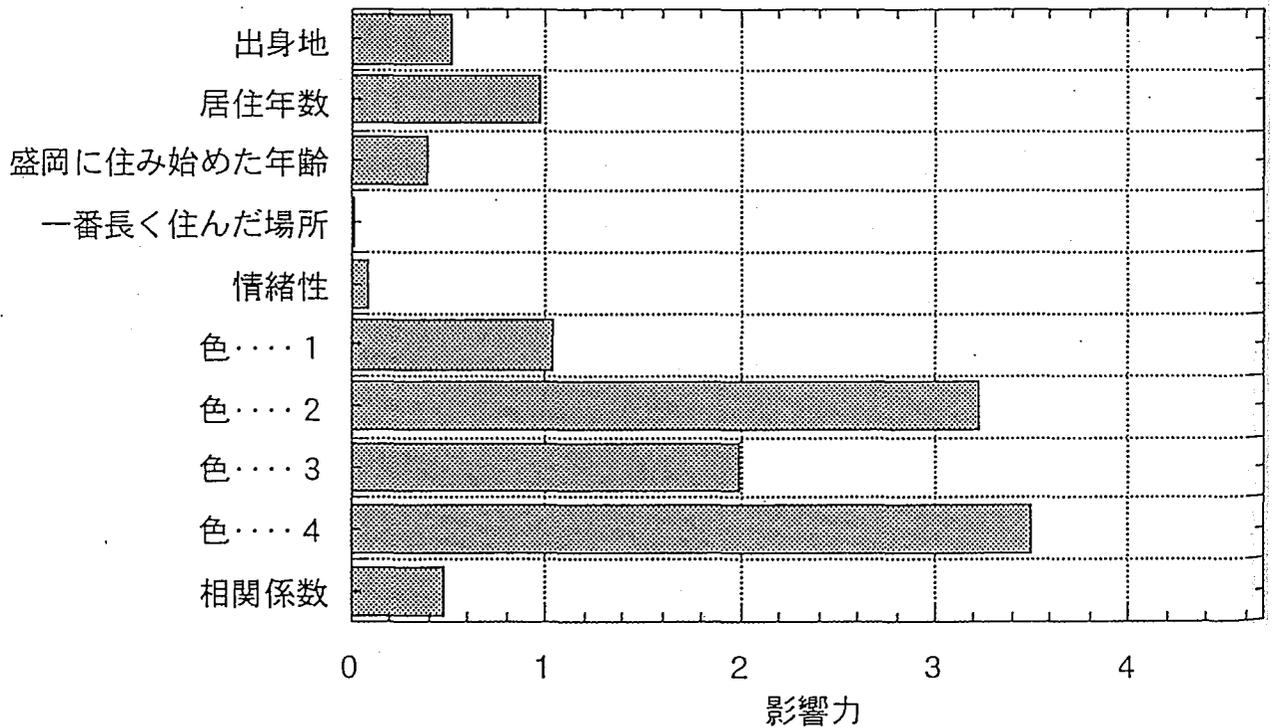
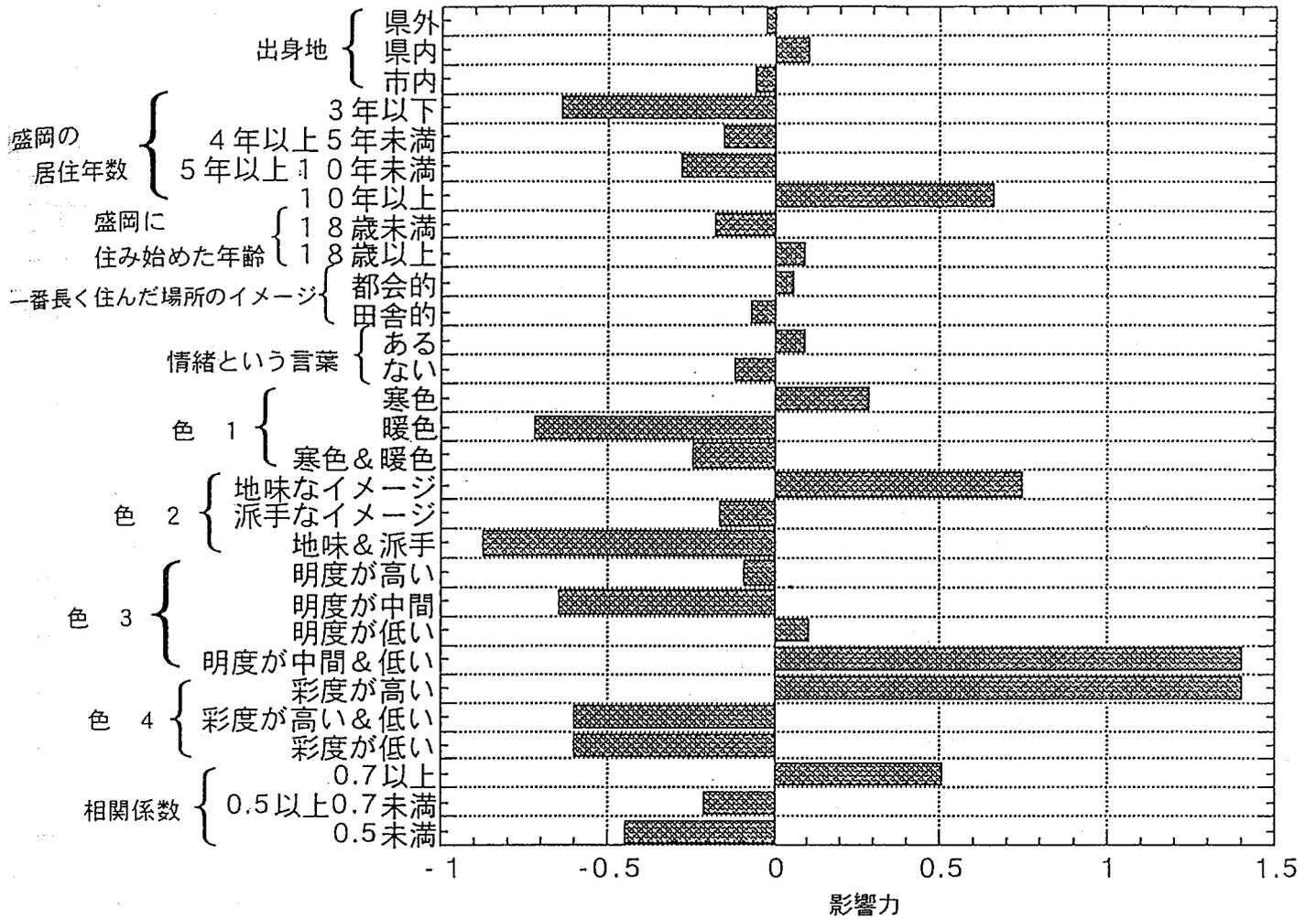
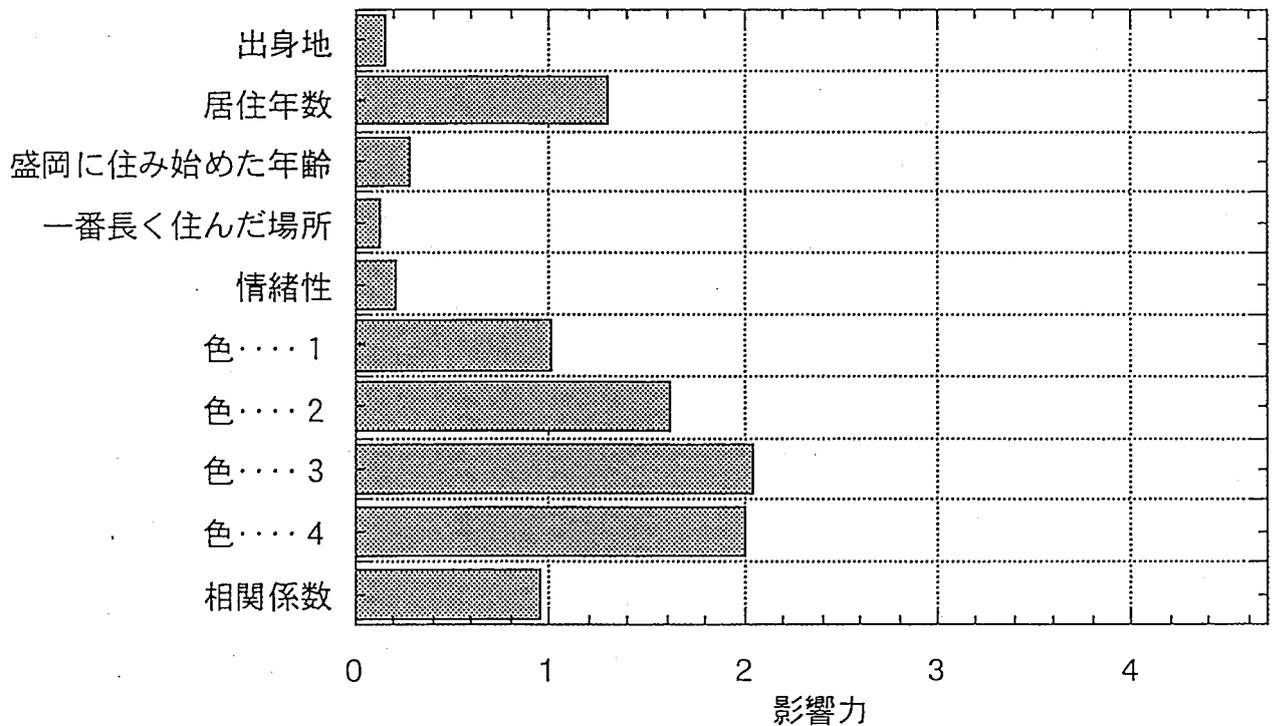


図 II - 3e

CATEGORY



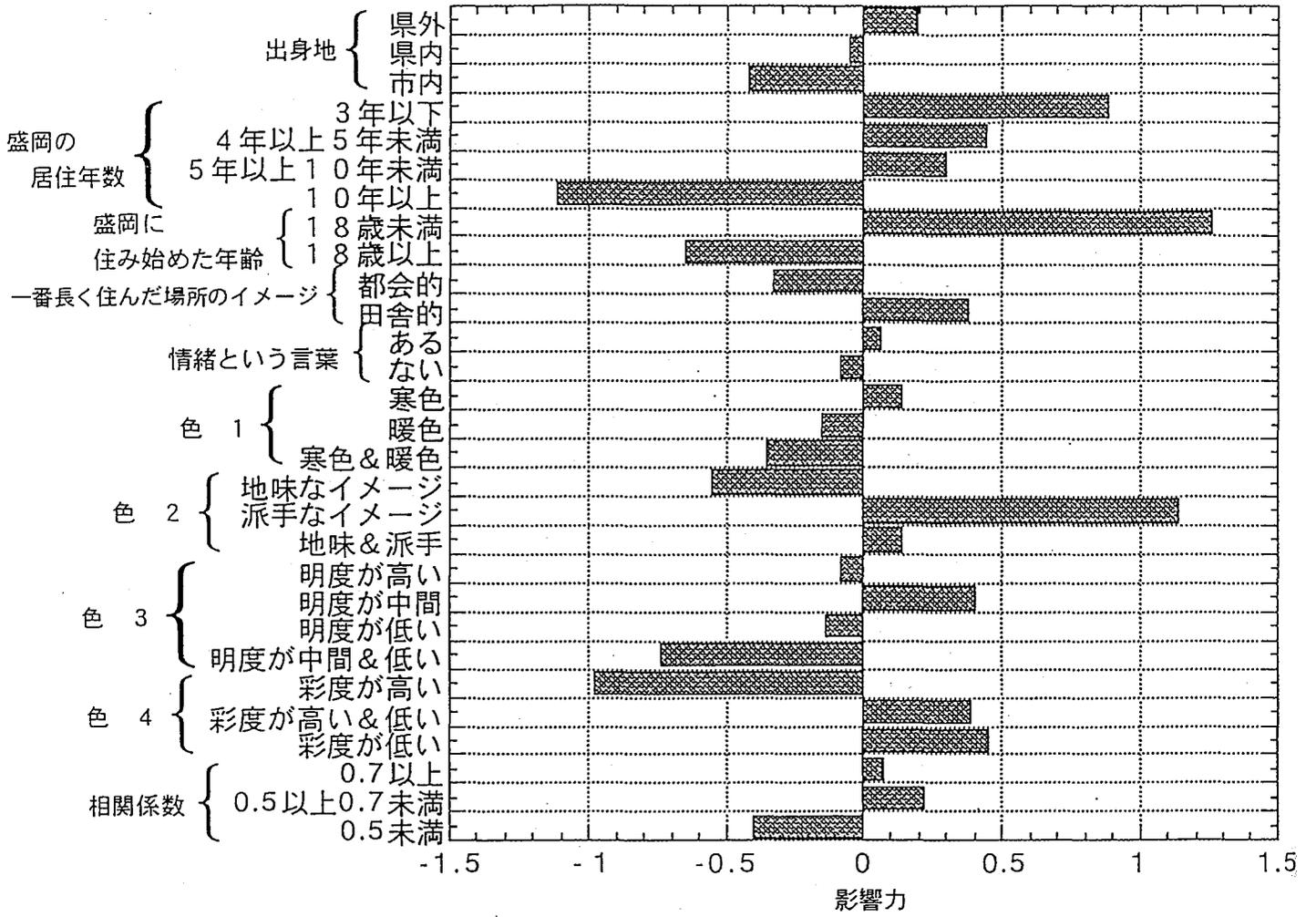
ITEM



図II-3f

写真 G

CATEGORY



ITEM

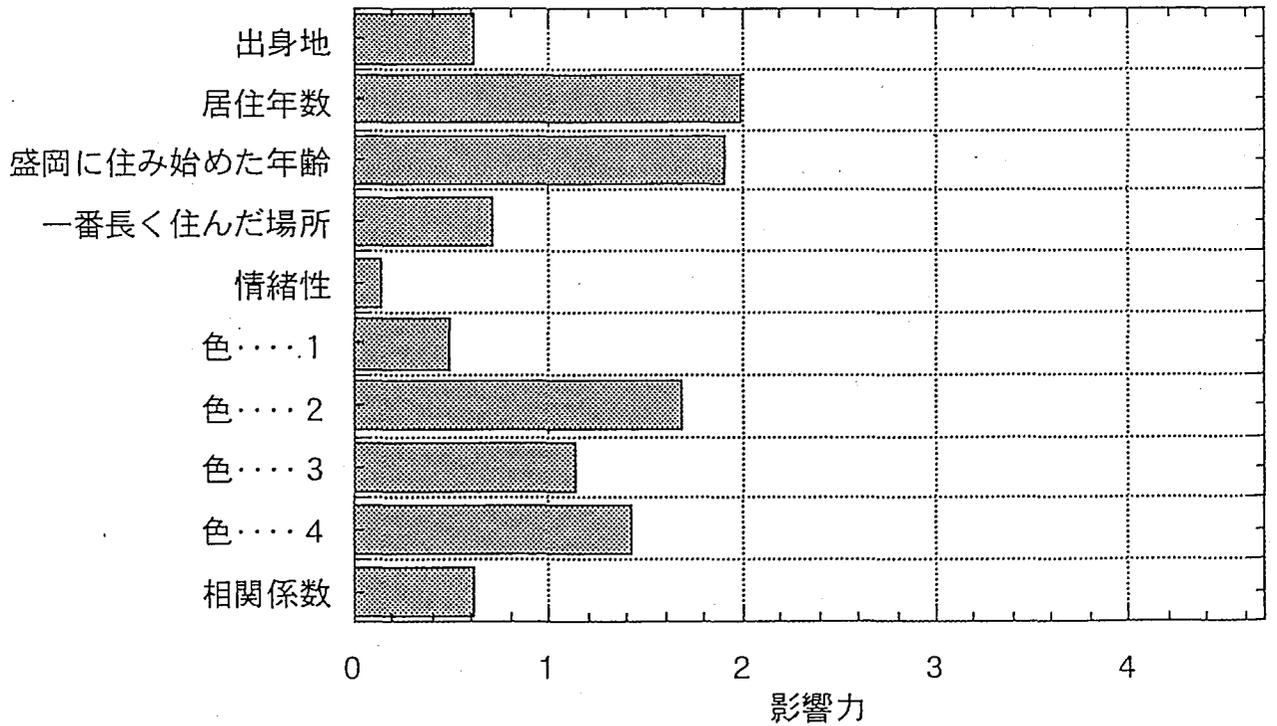
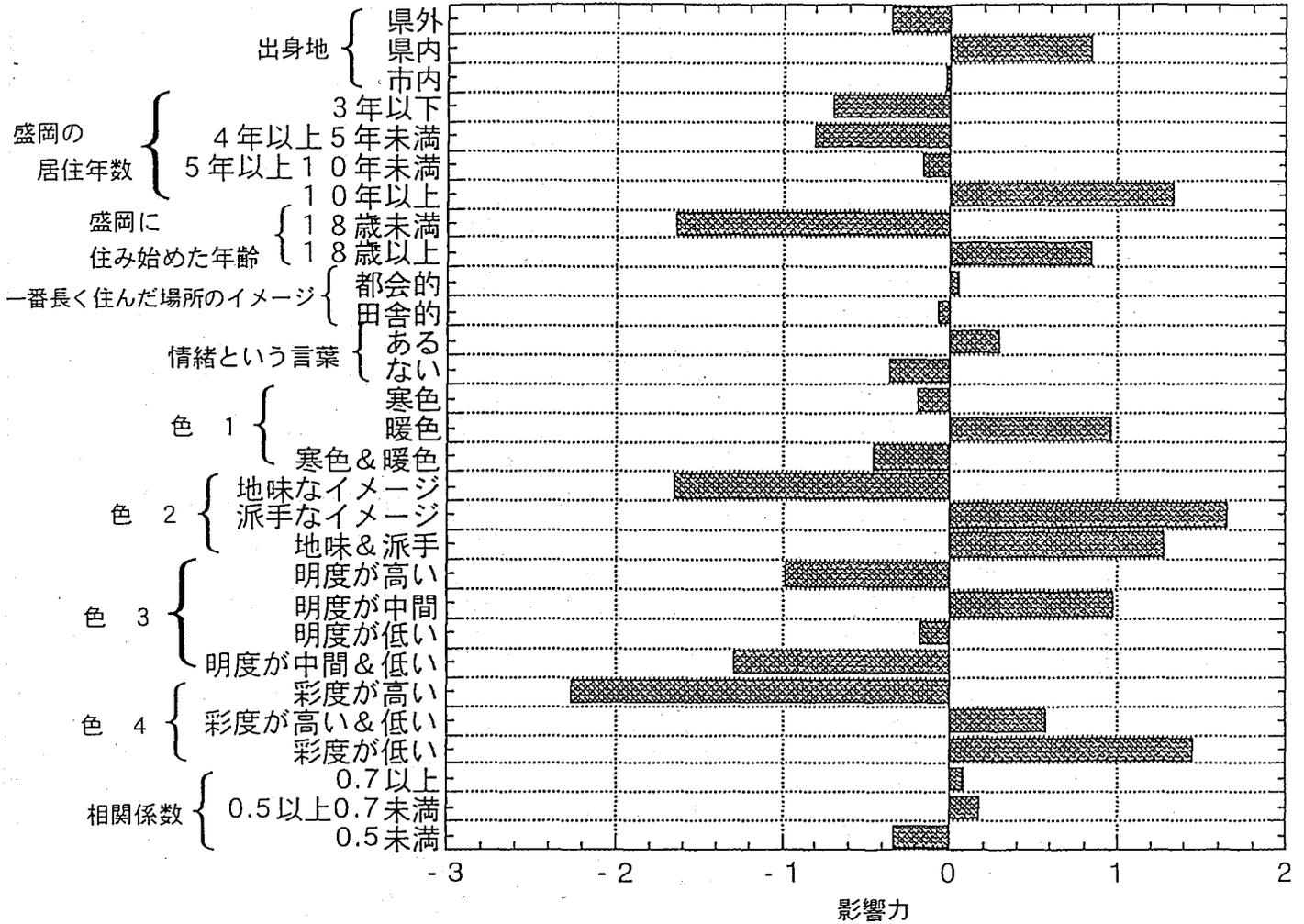


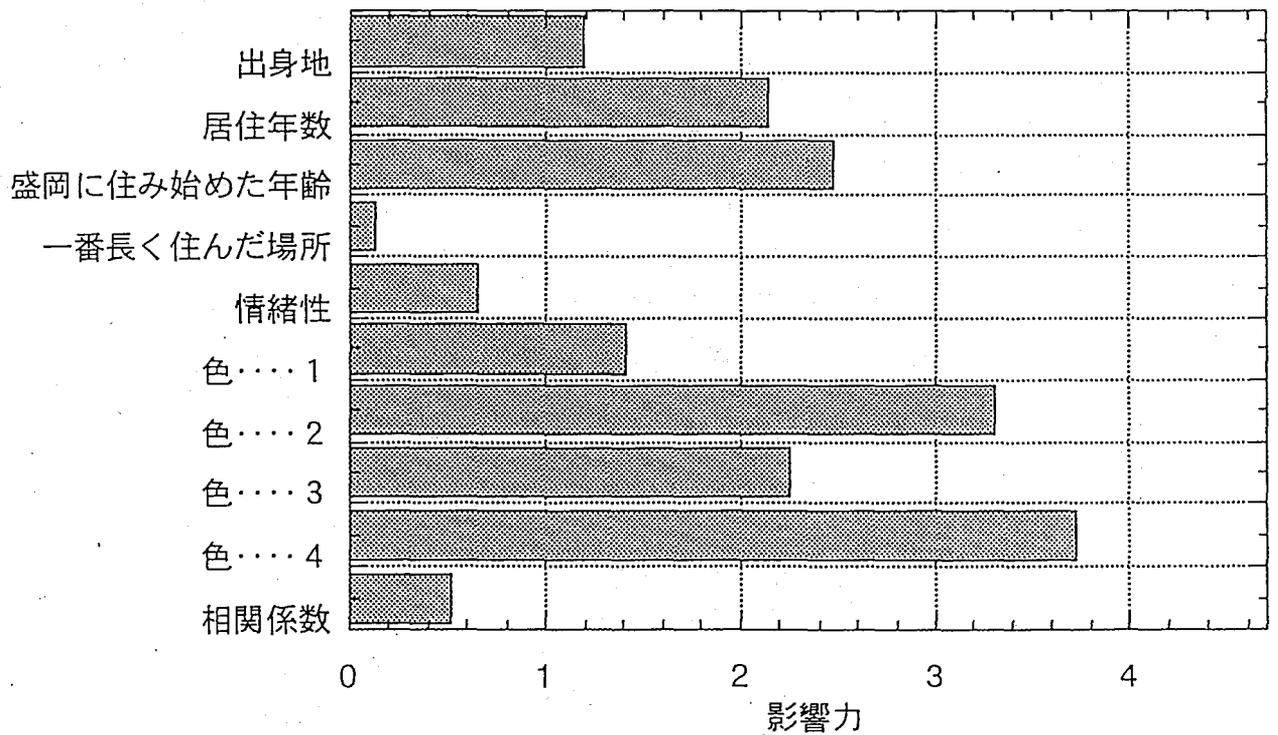
図 II - 3g

写真 H

CATEGORY



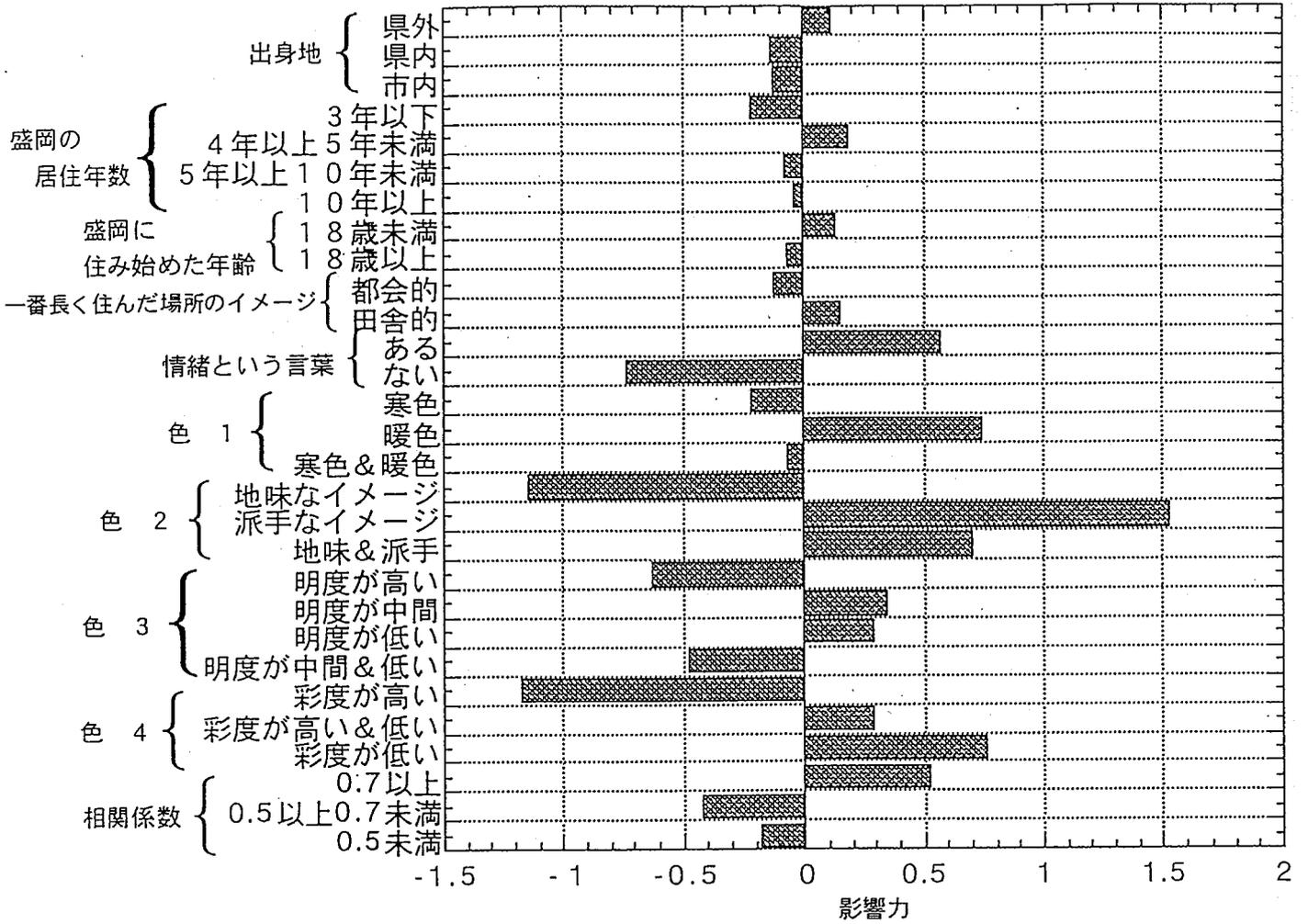
ITEM



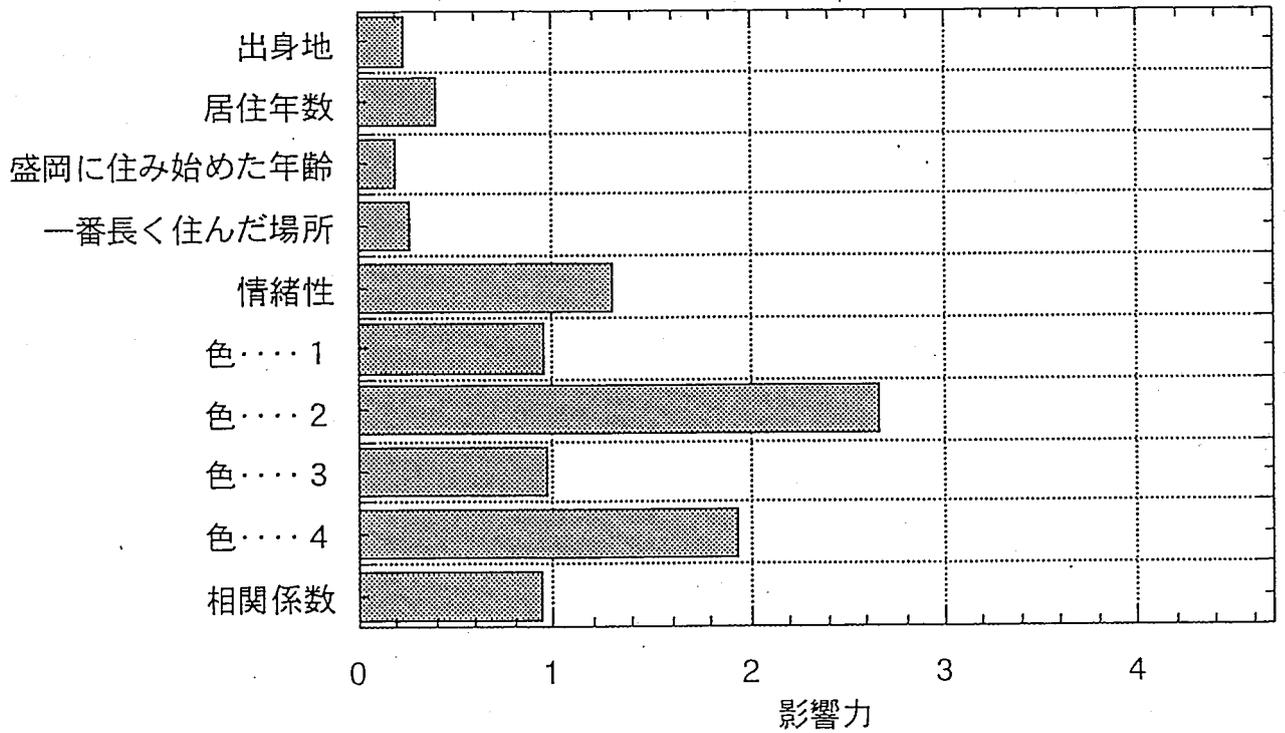
図II-3h

写真 I

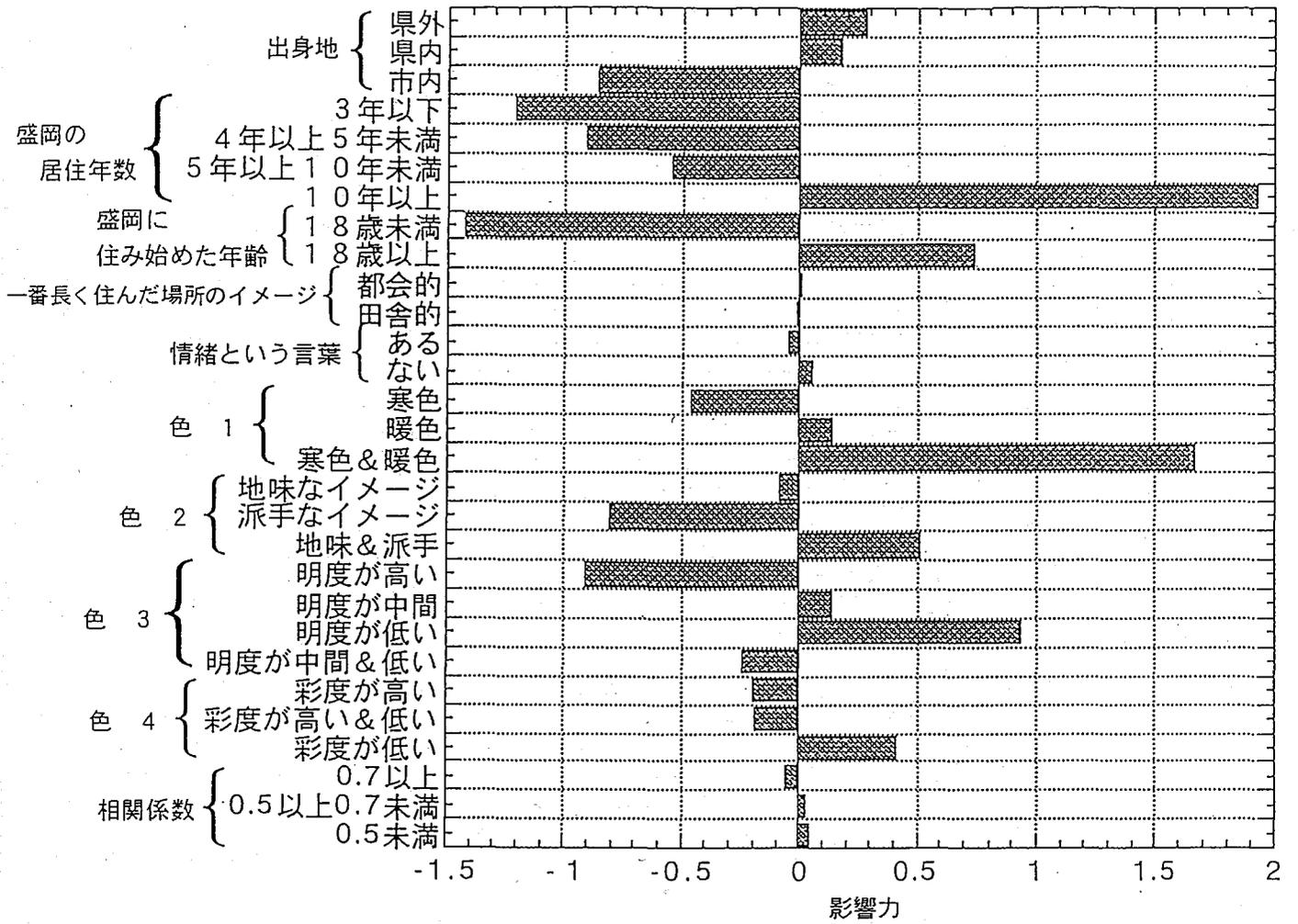
CATEGORY



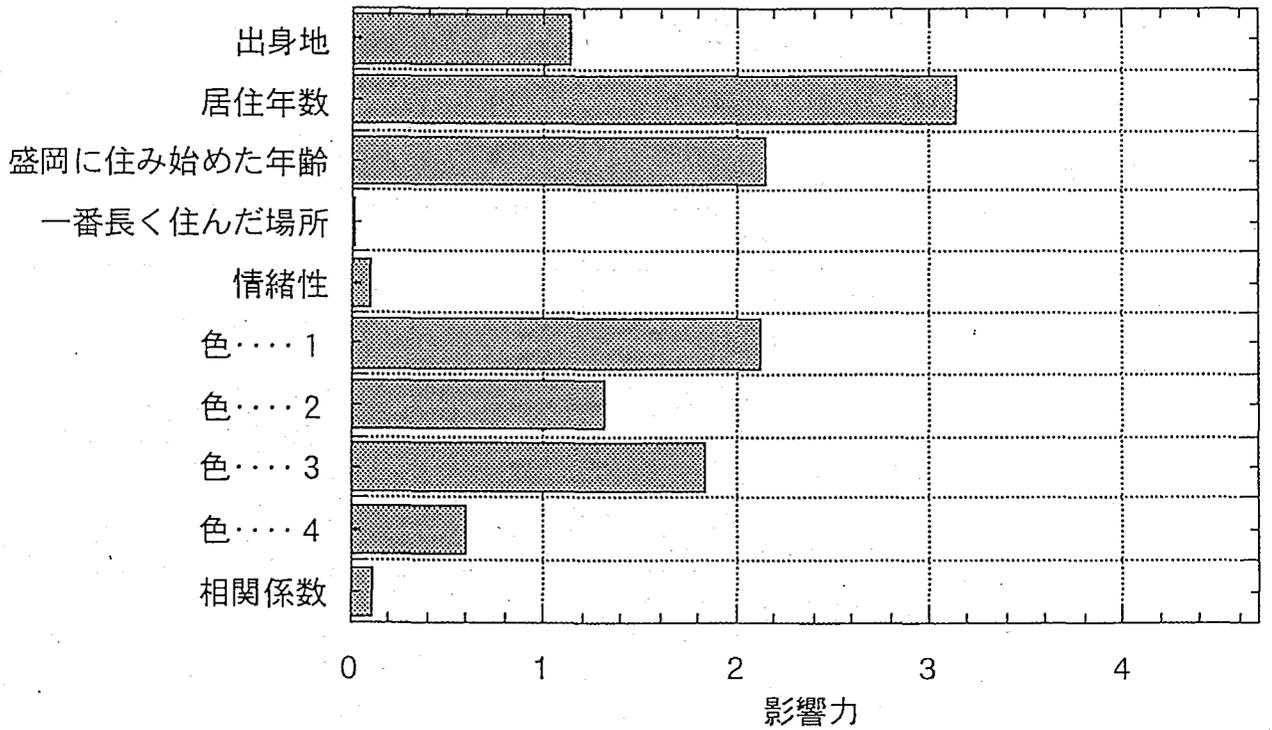
ITEM



図II-3i



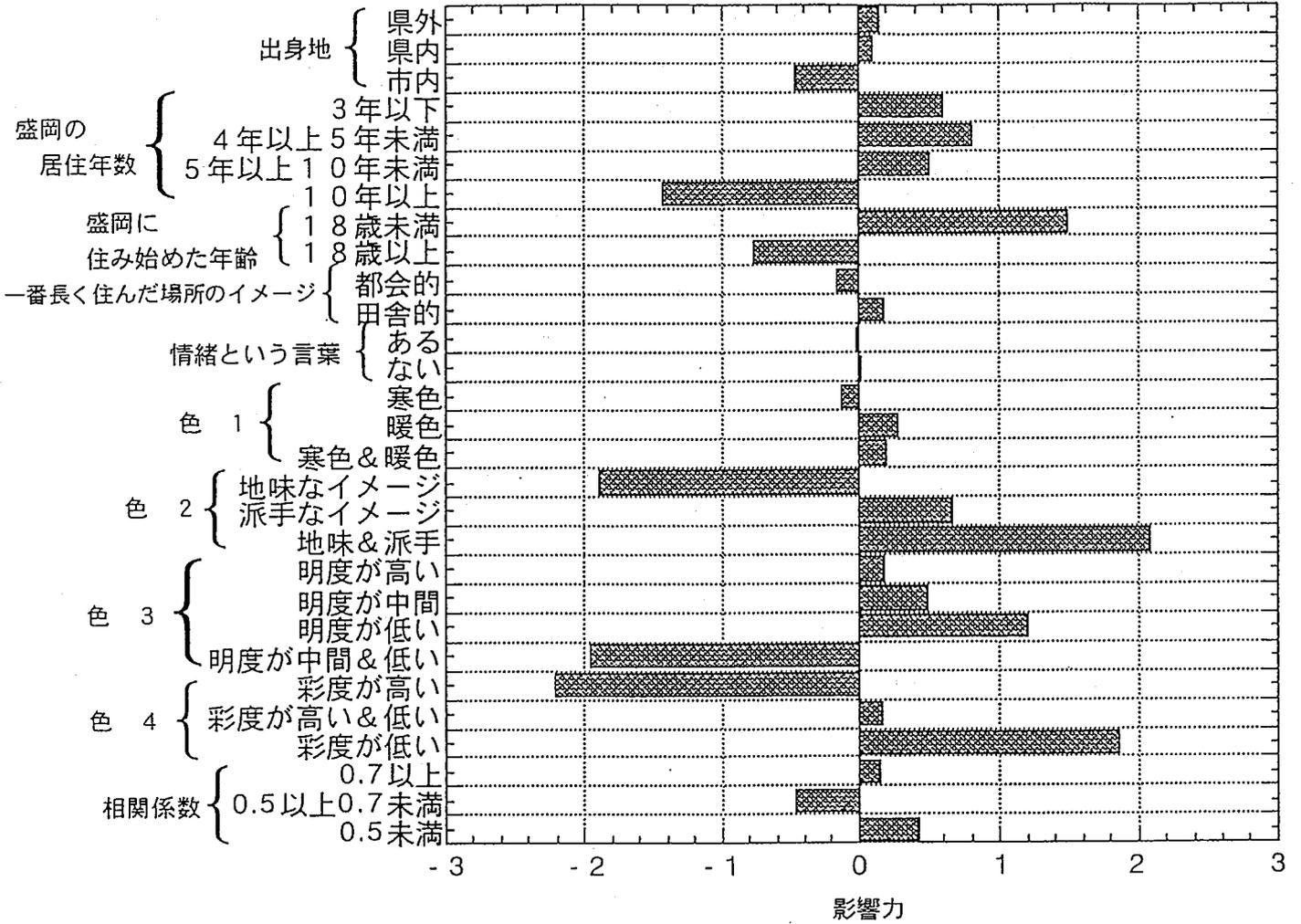
ITEM



図II-3j

写真 K

CATEGORY



ITEM

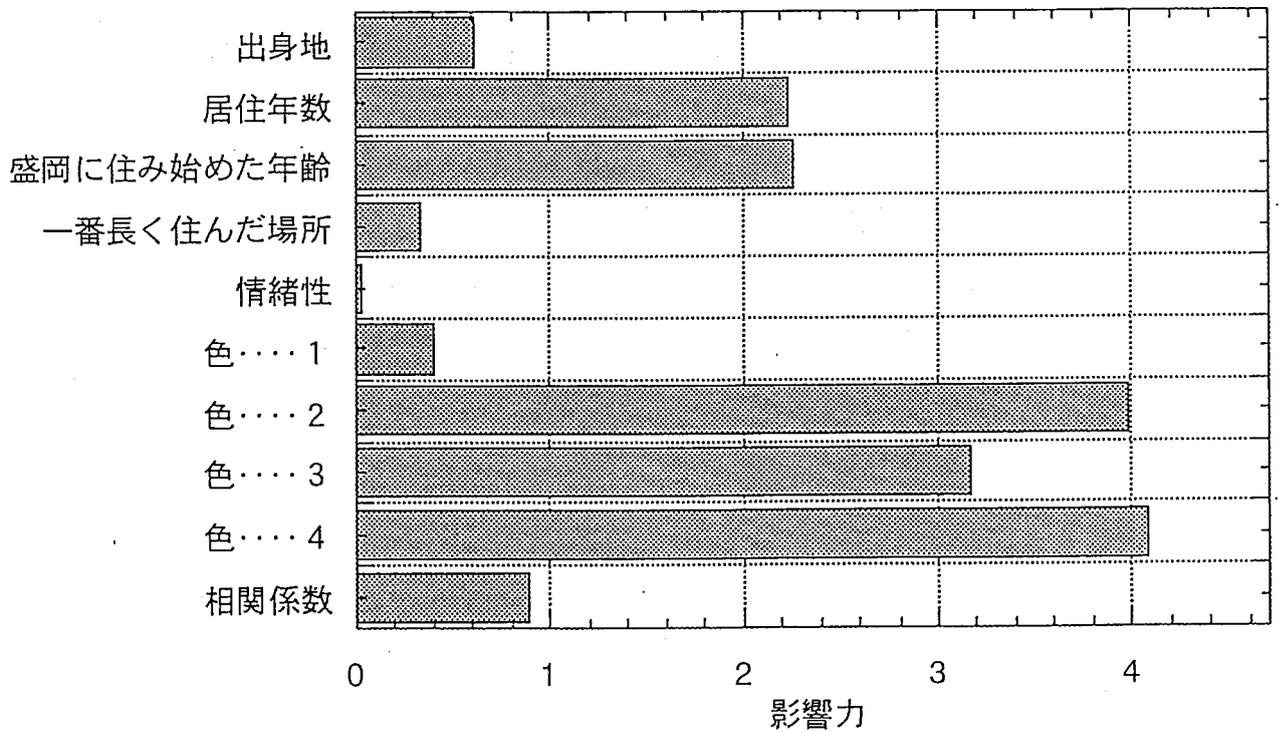
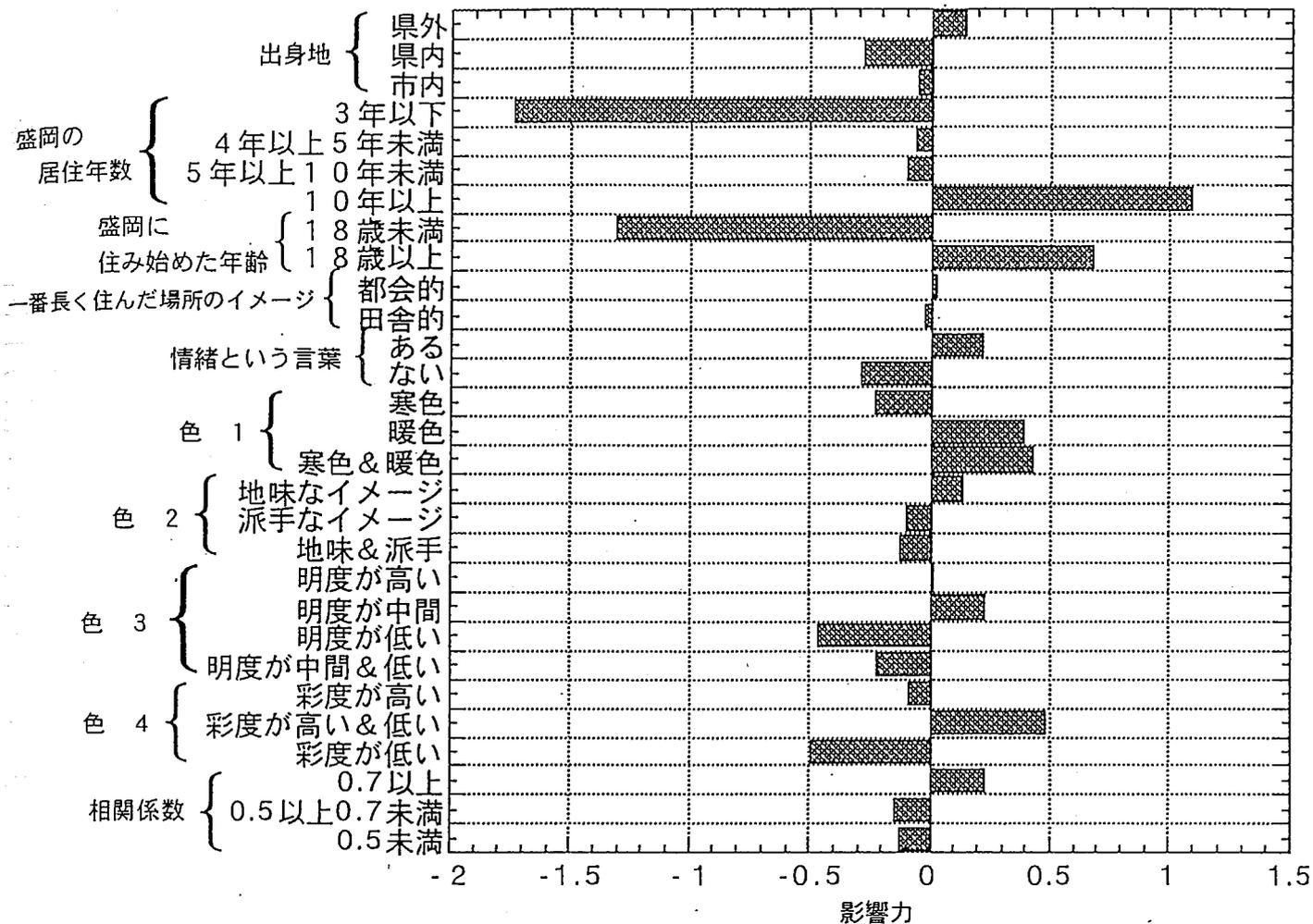


図 II - 3k

写真 L

CATEGORY



ITEM

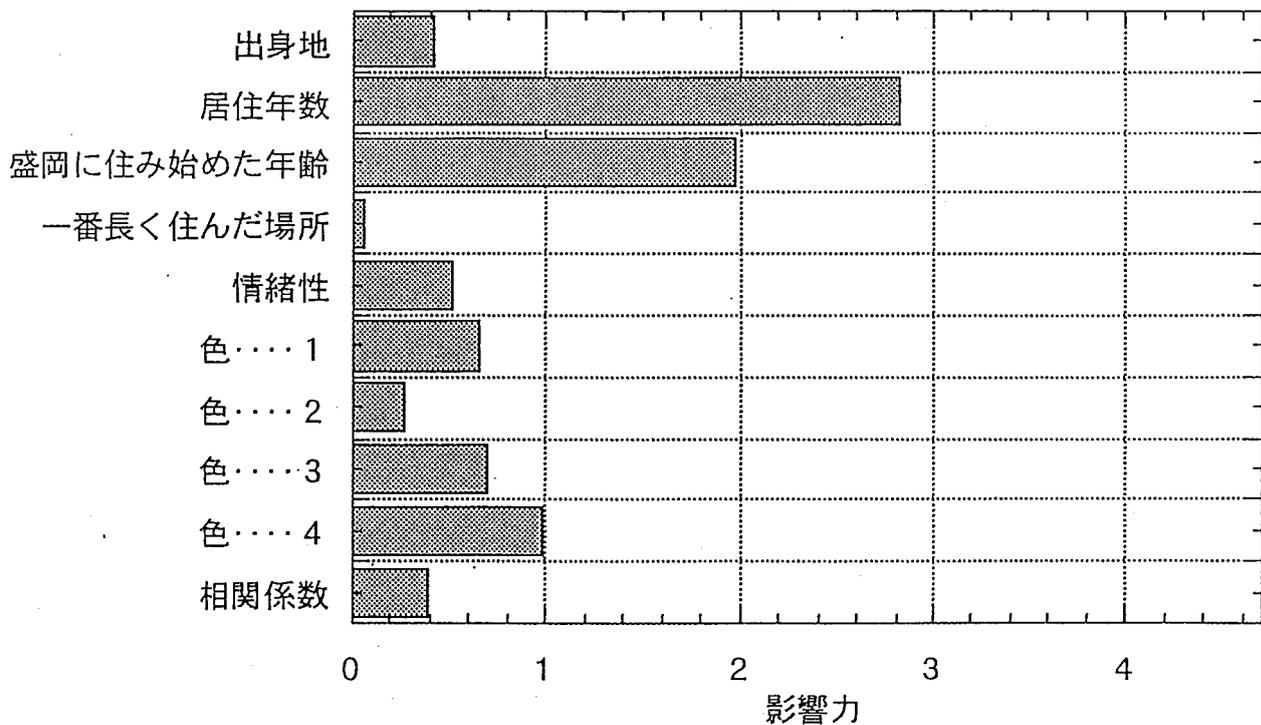


図 II - 31

写真 M

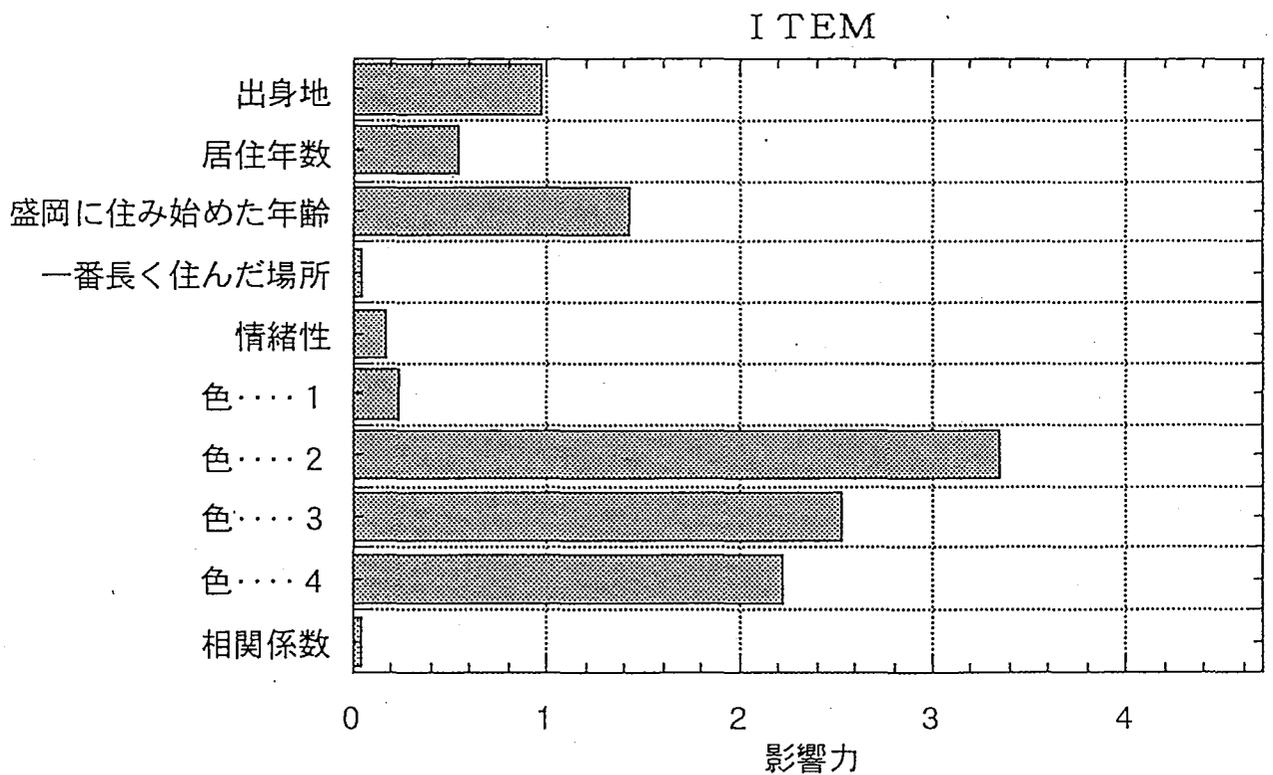
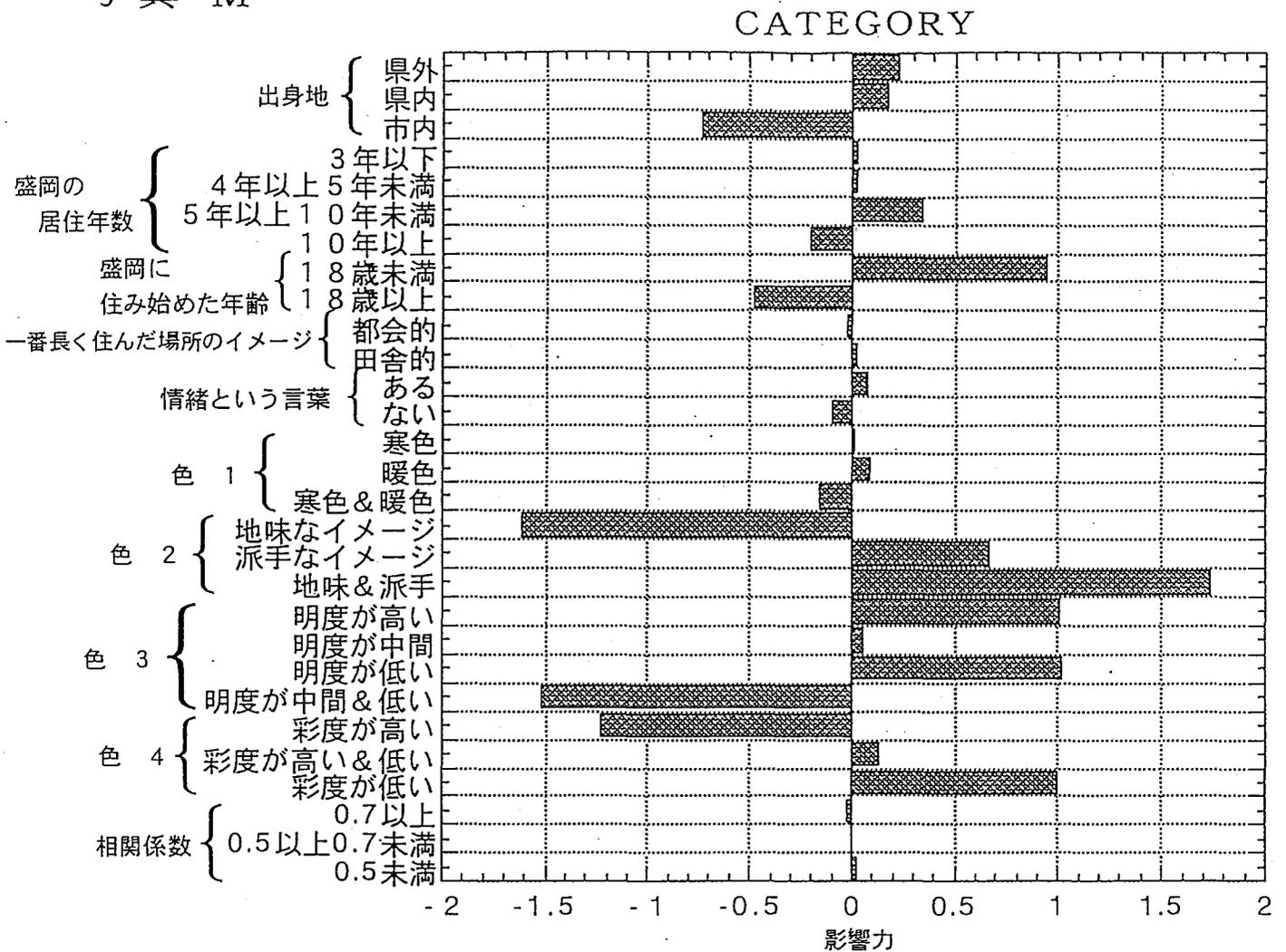
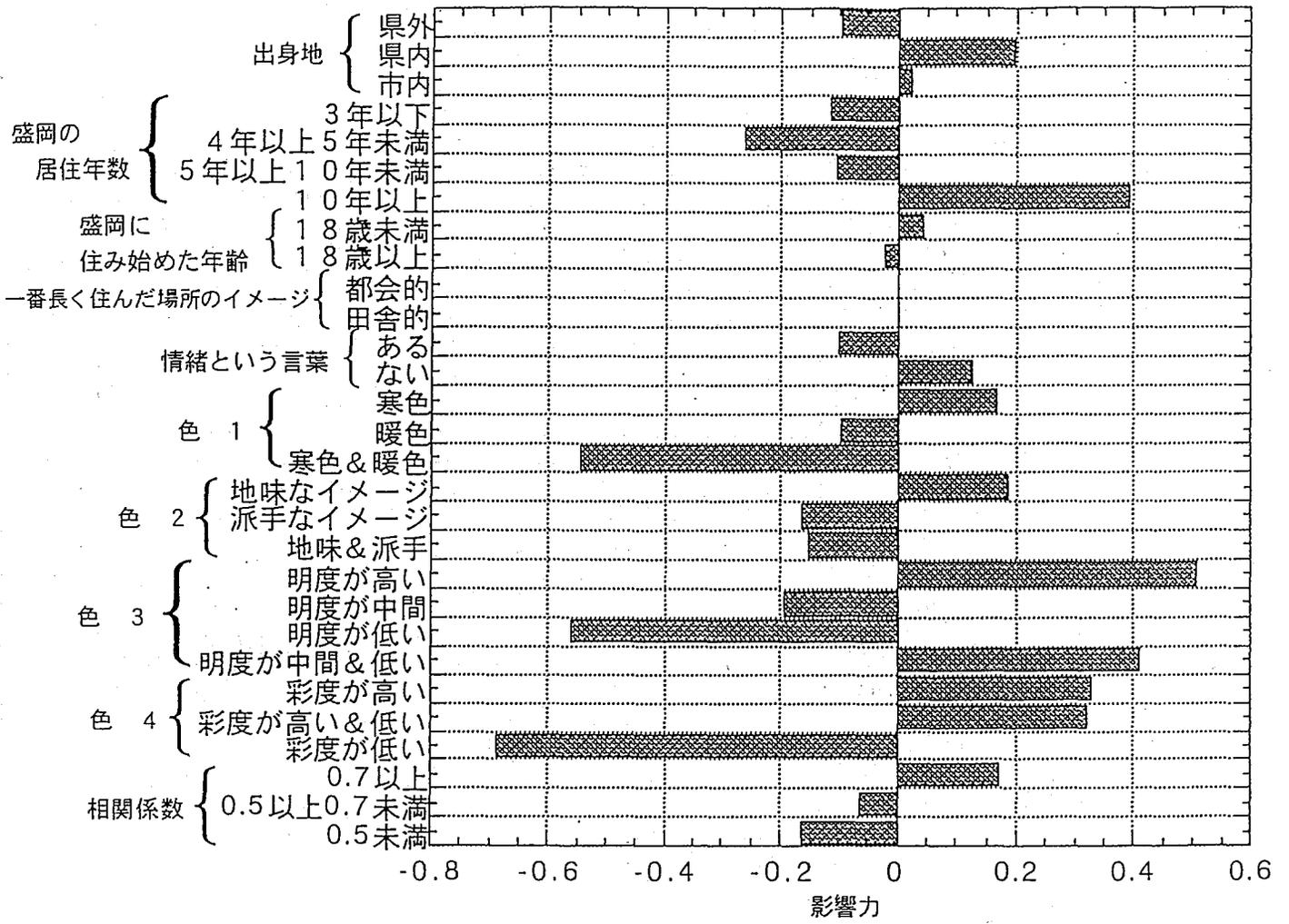
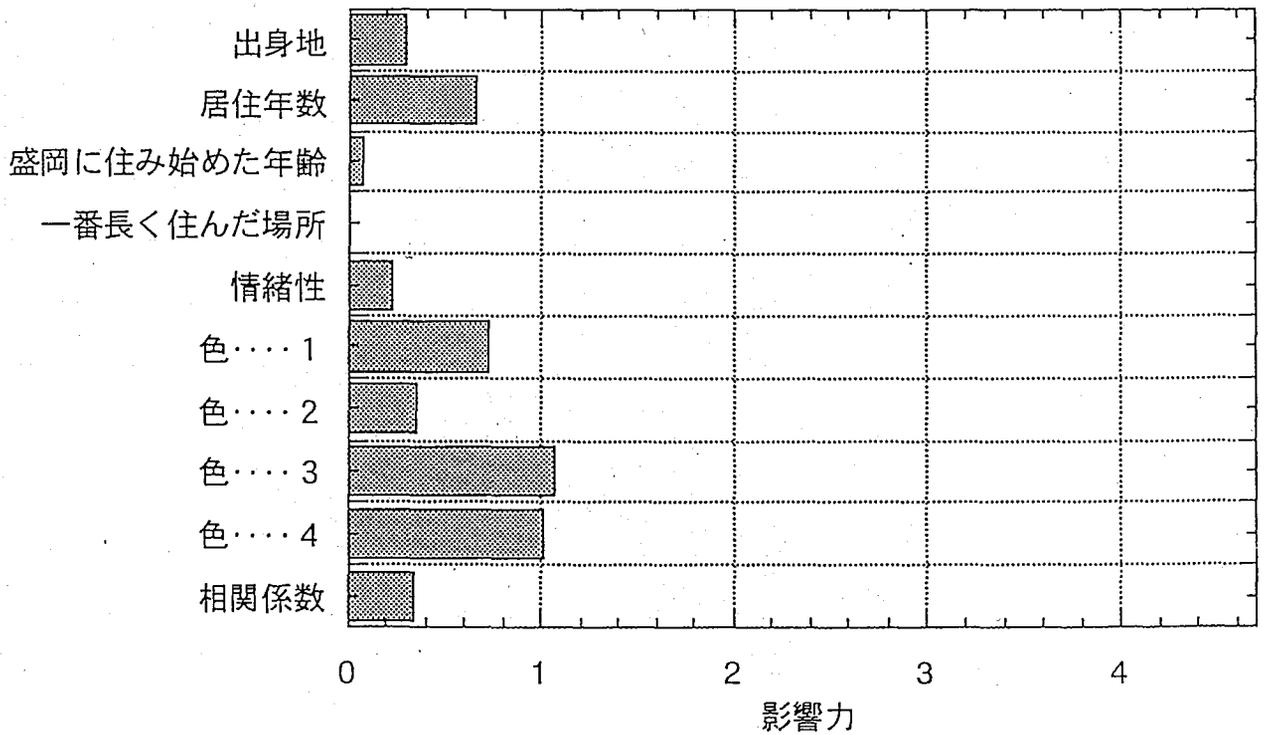


図 II - 3m

CATEGORY

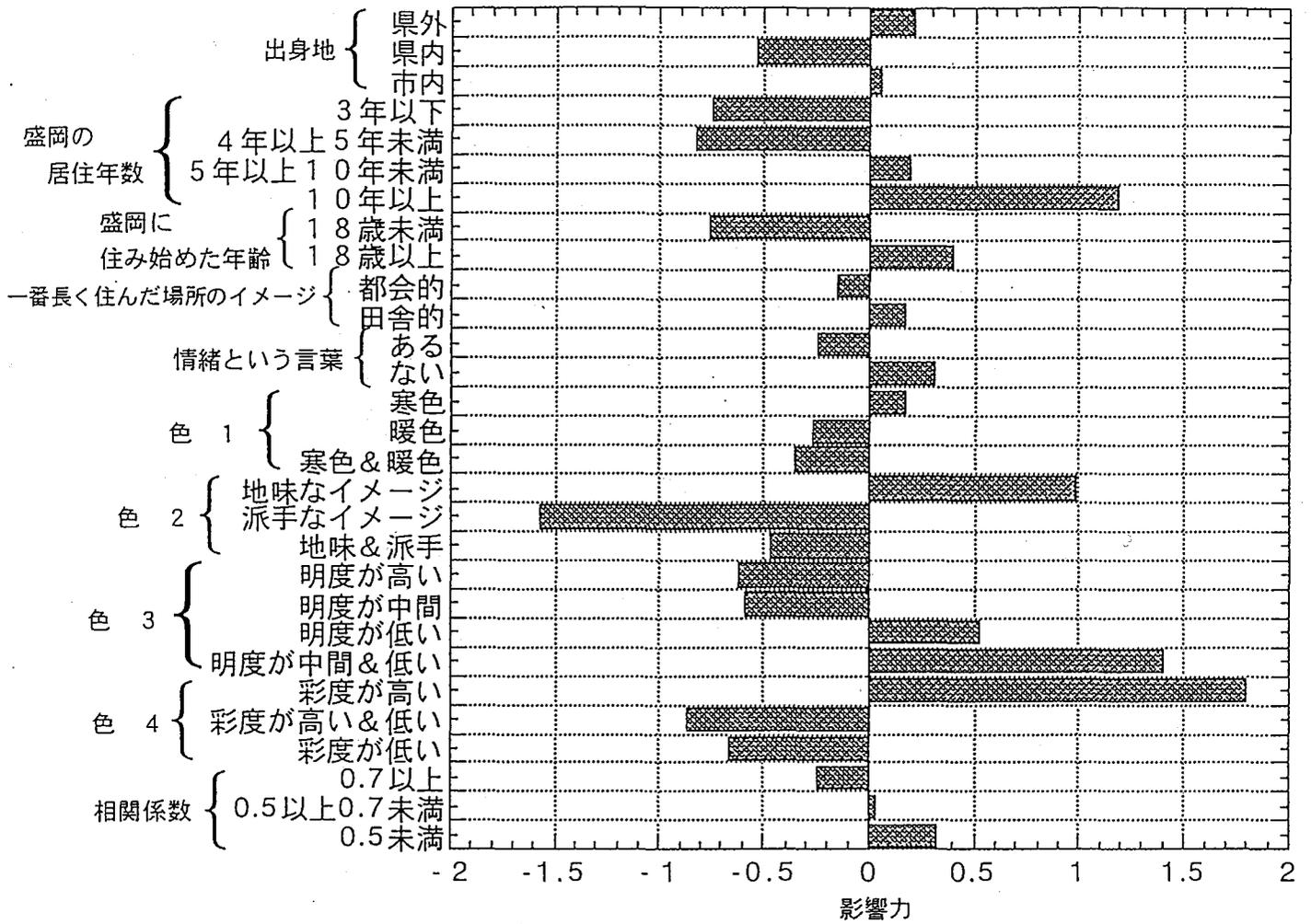


ITEM

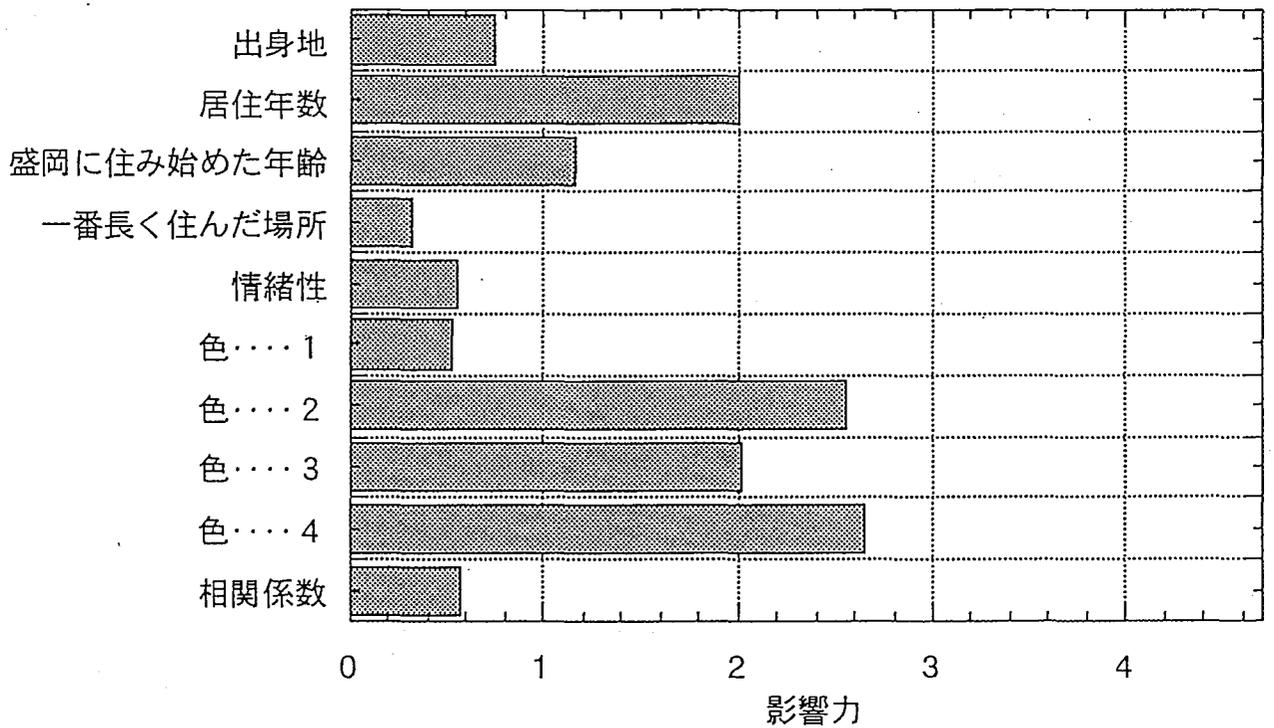


図II-3n

CATEGORY

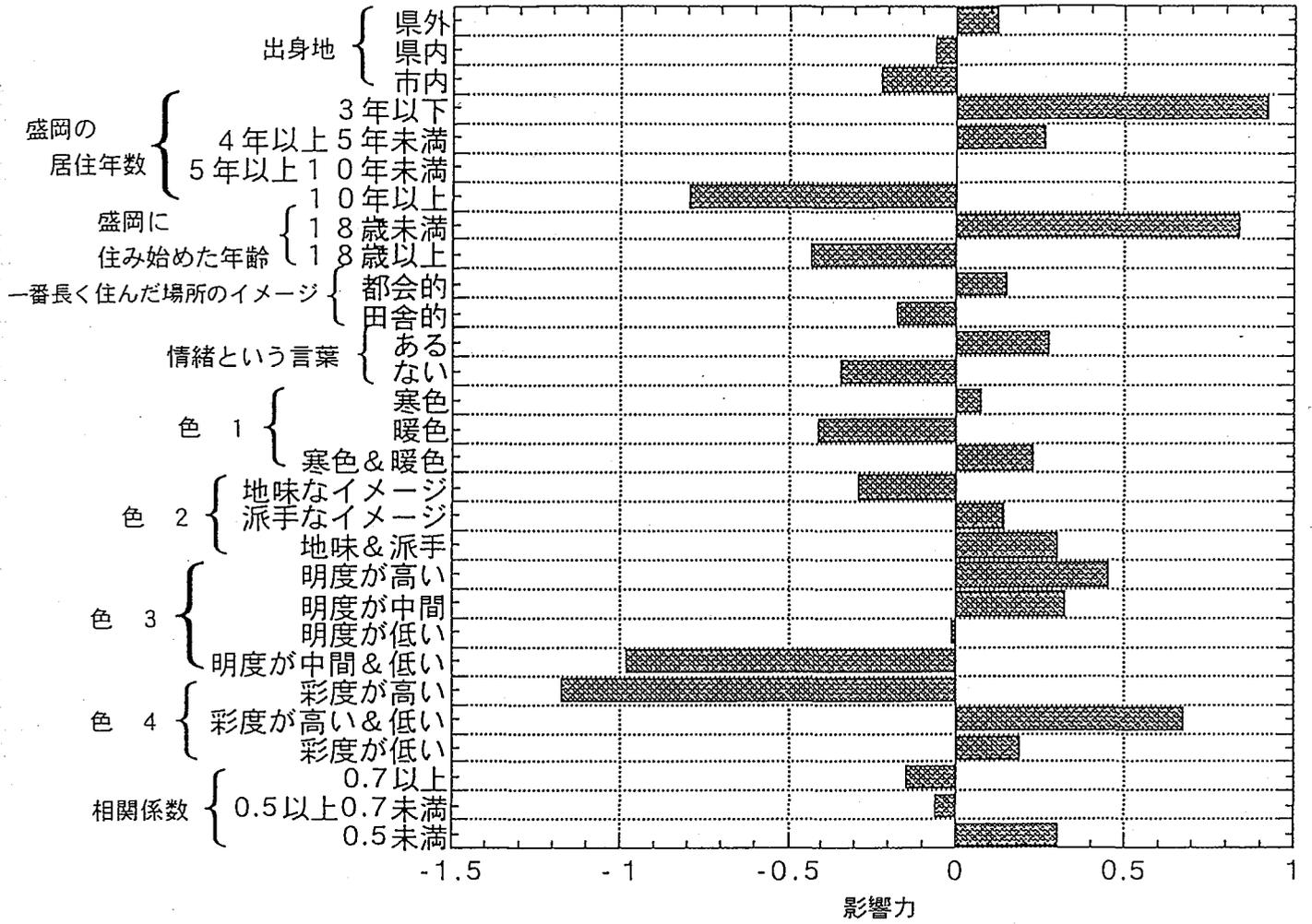


ITEM

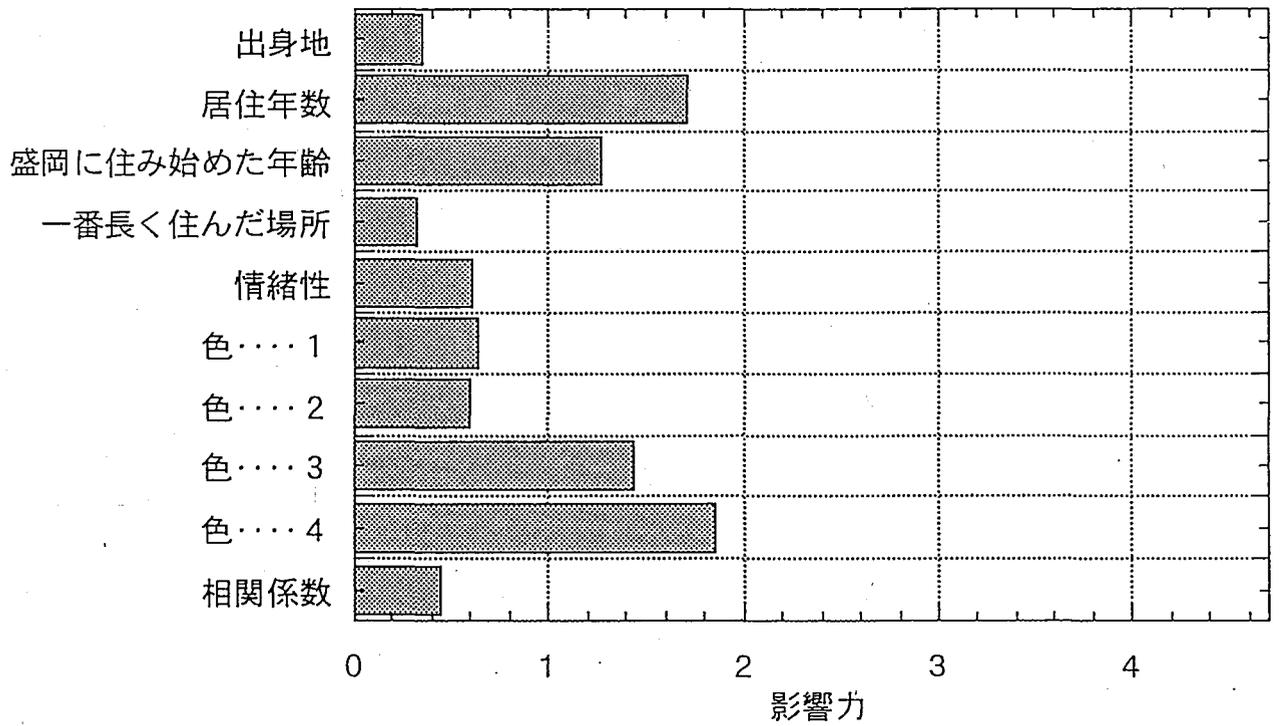


図Ⅱ-30

CATEGORY



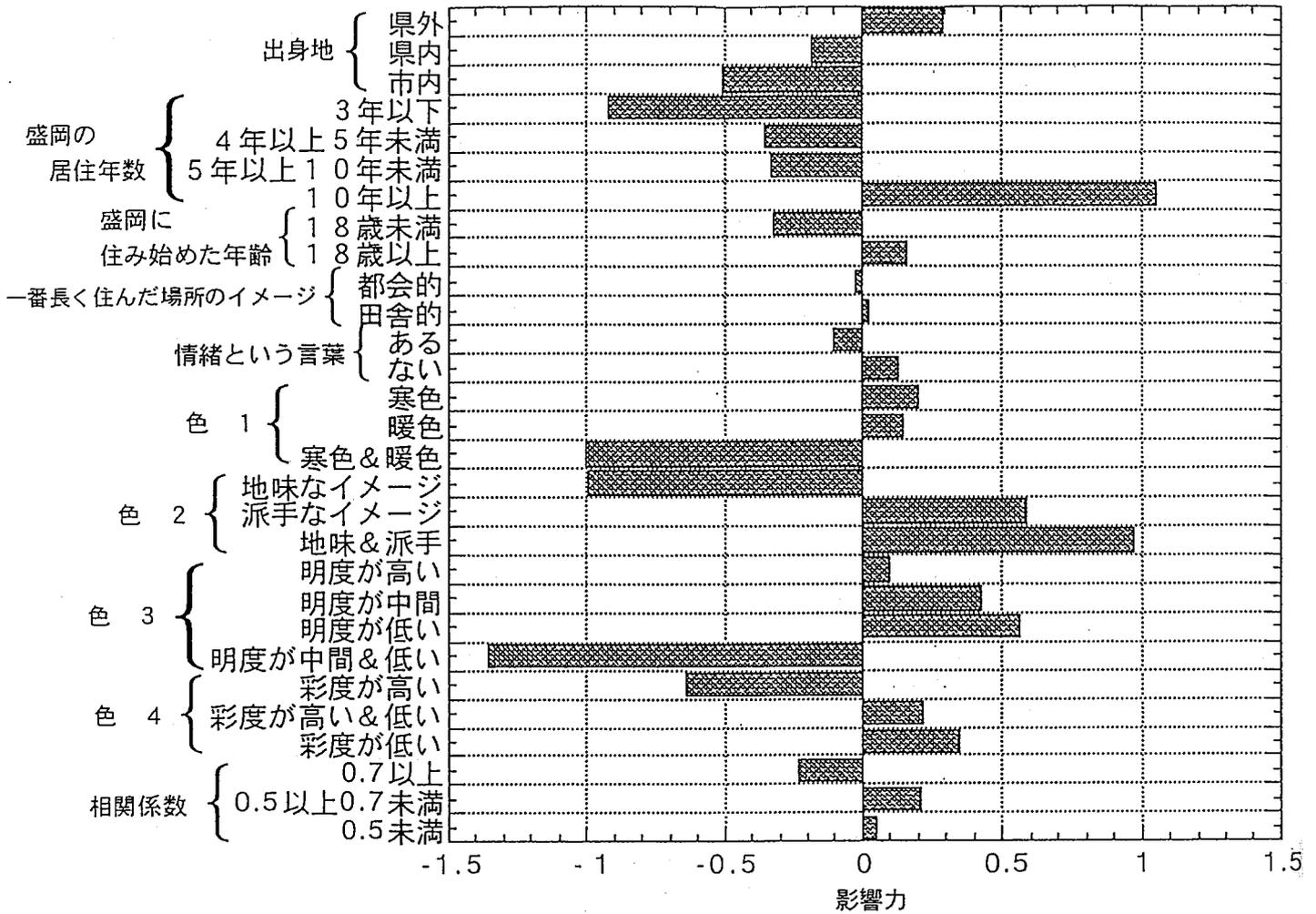
ITEM



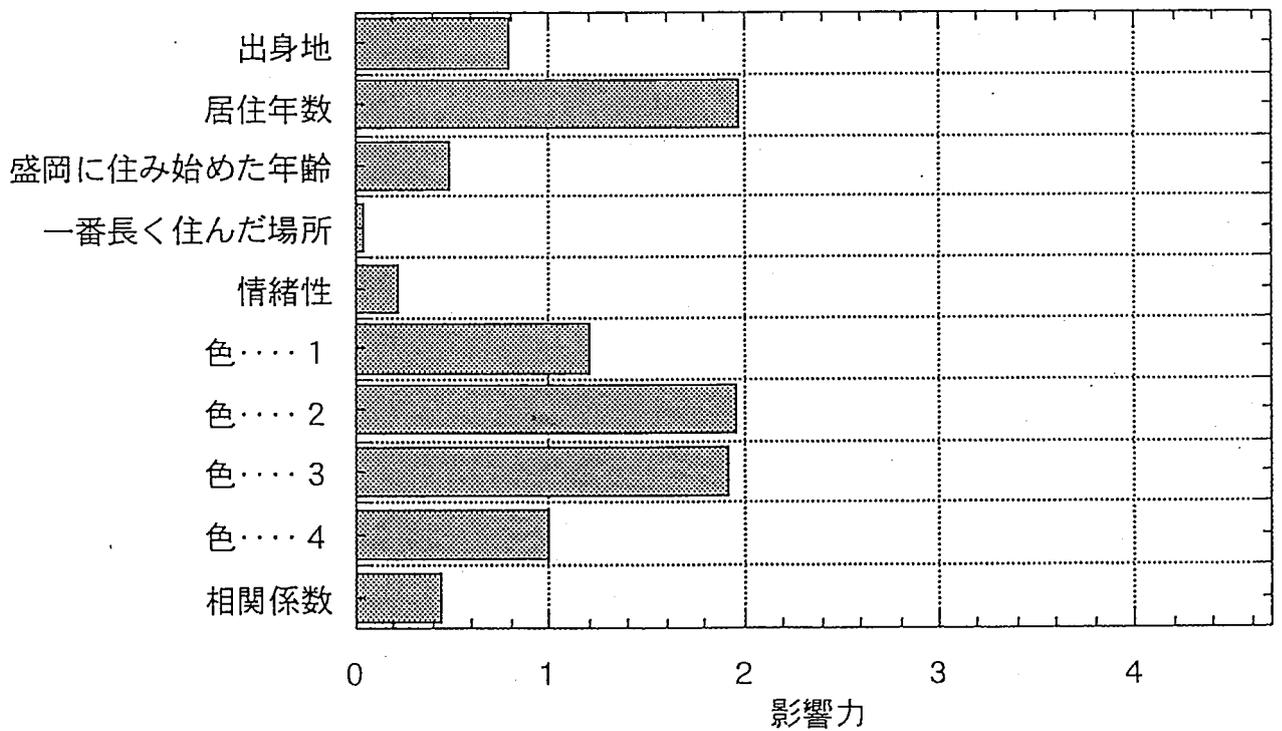
図II-3p

写真 Q

CATEGORY

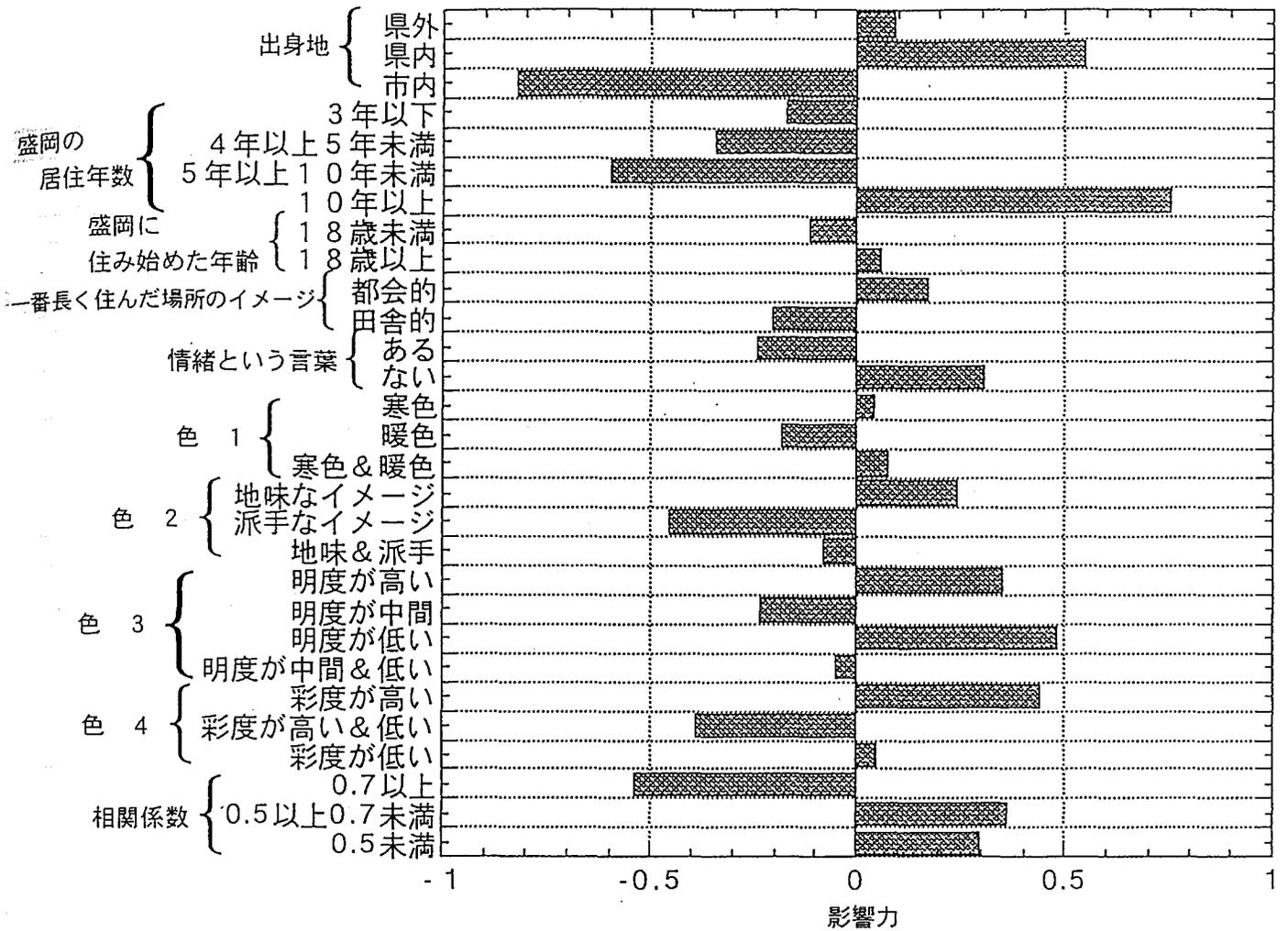


ITEM

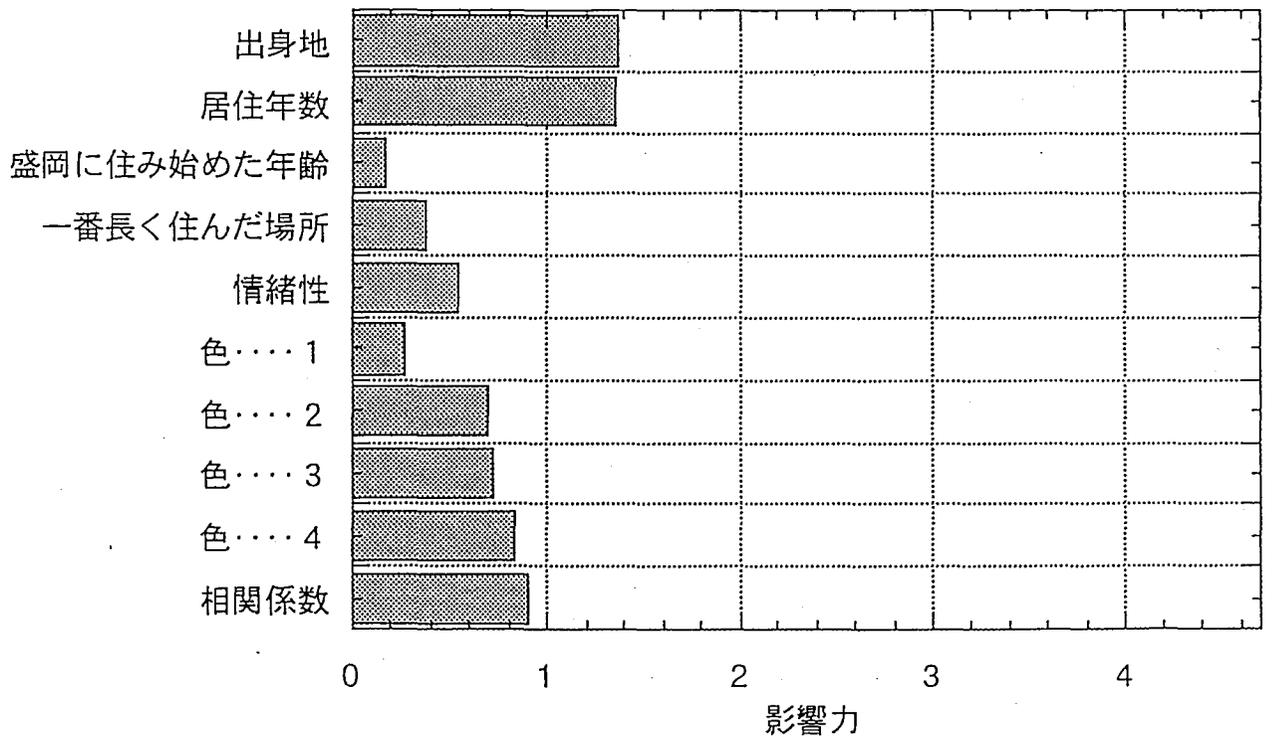


図II-3q

CATEGORY

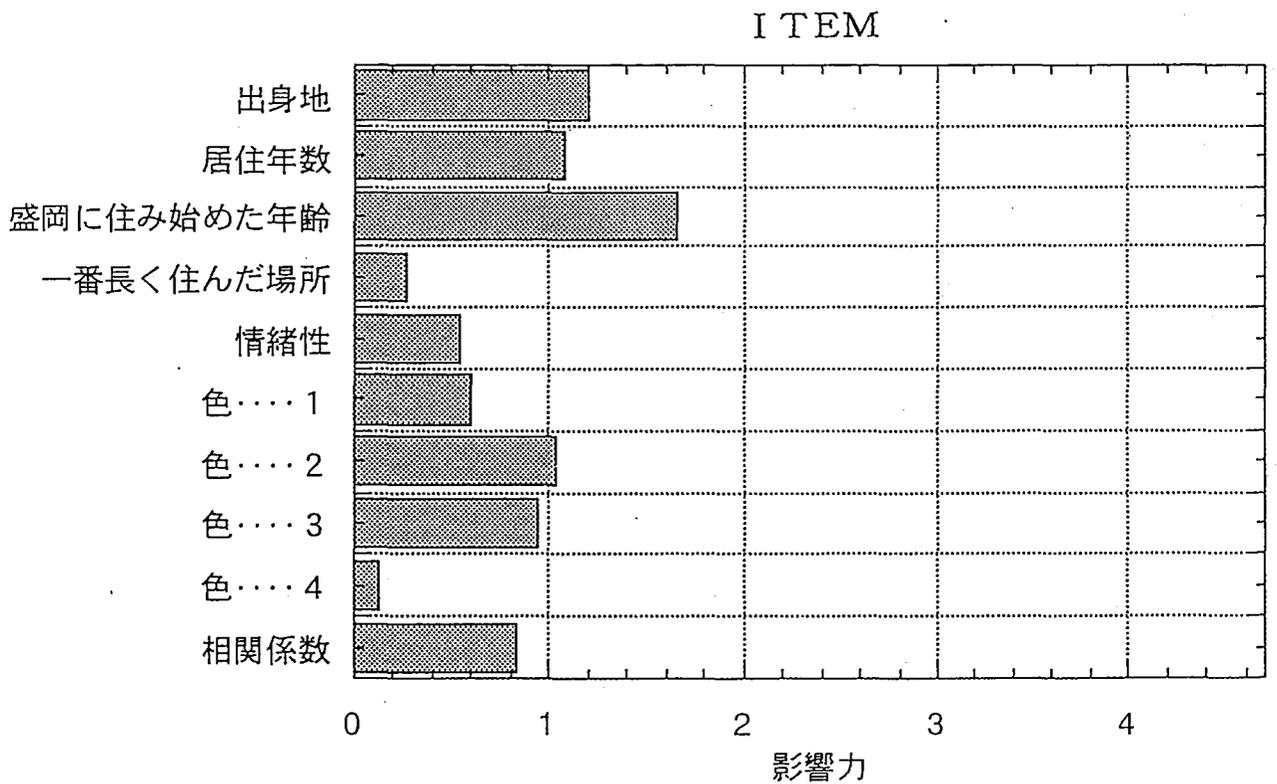
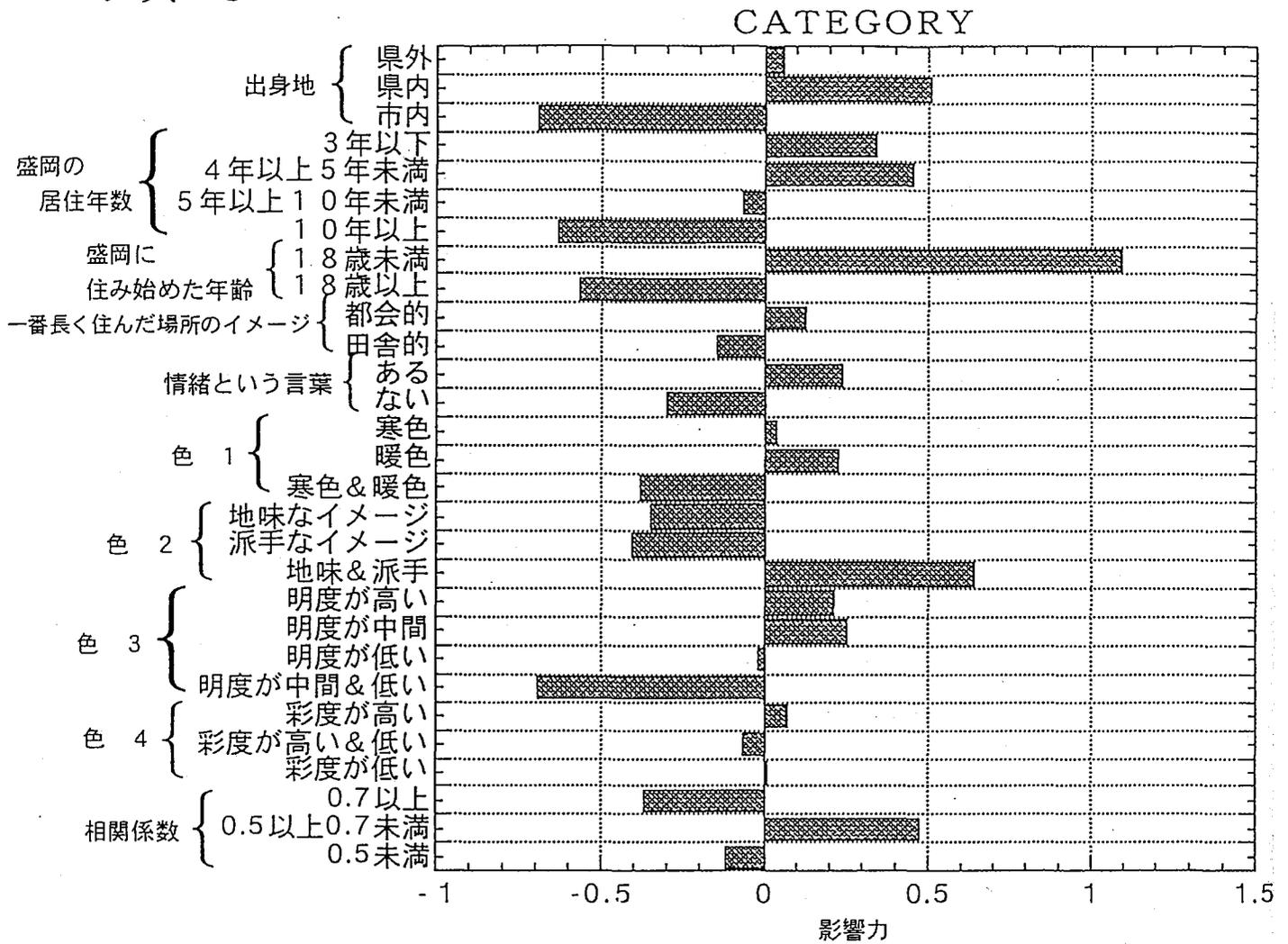


ITEM



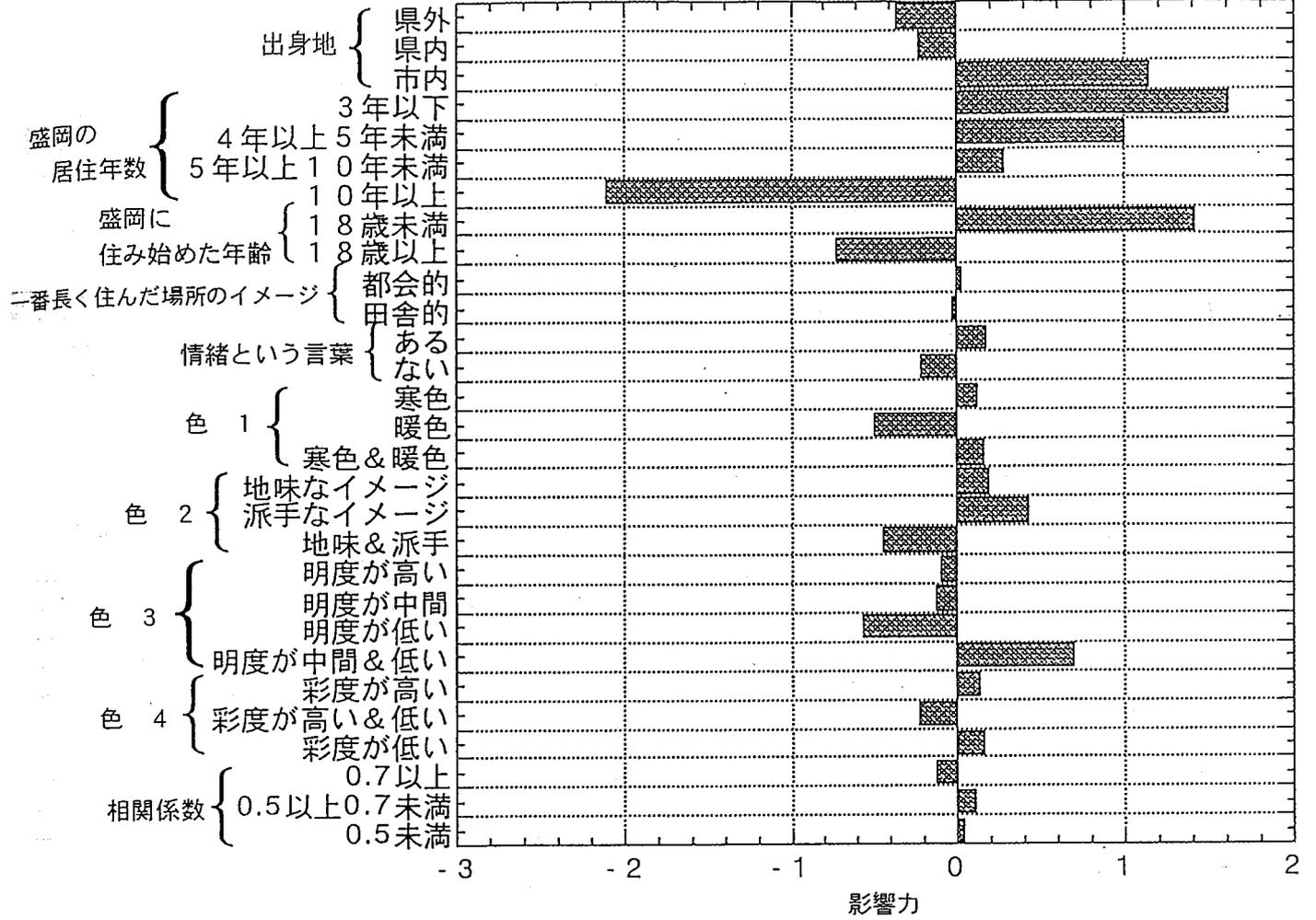
図II-3r

写真 S



図II-3s

CATEGORY



ITEM

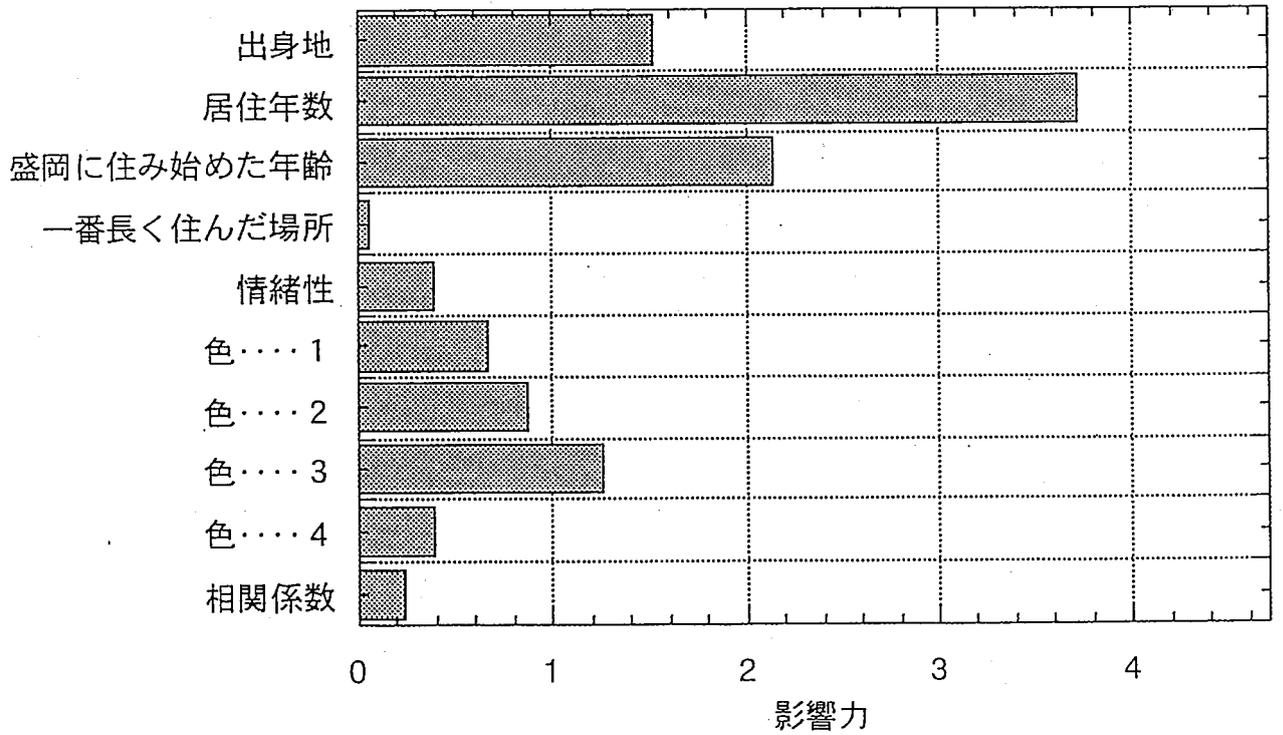
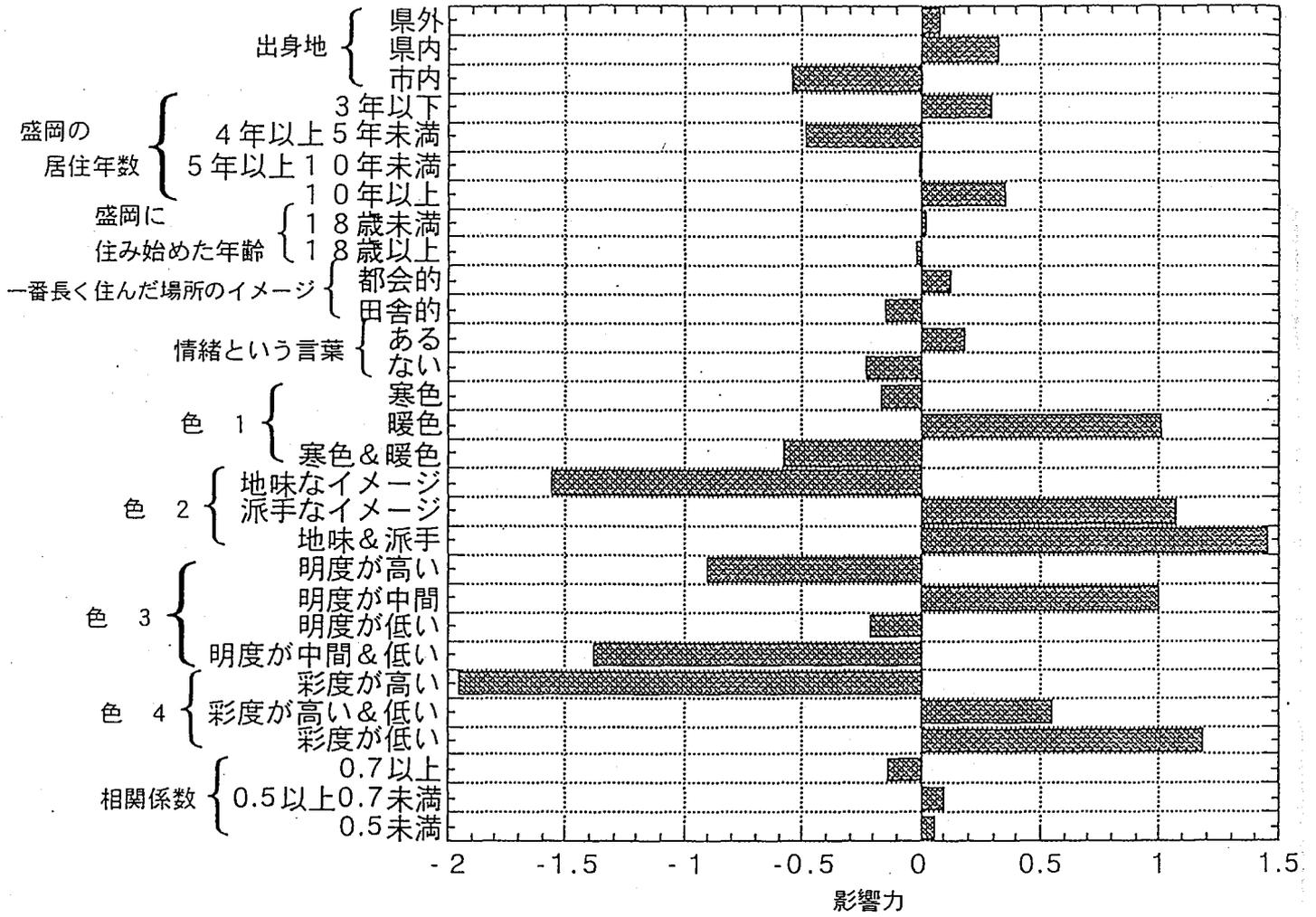


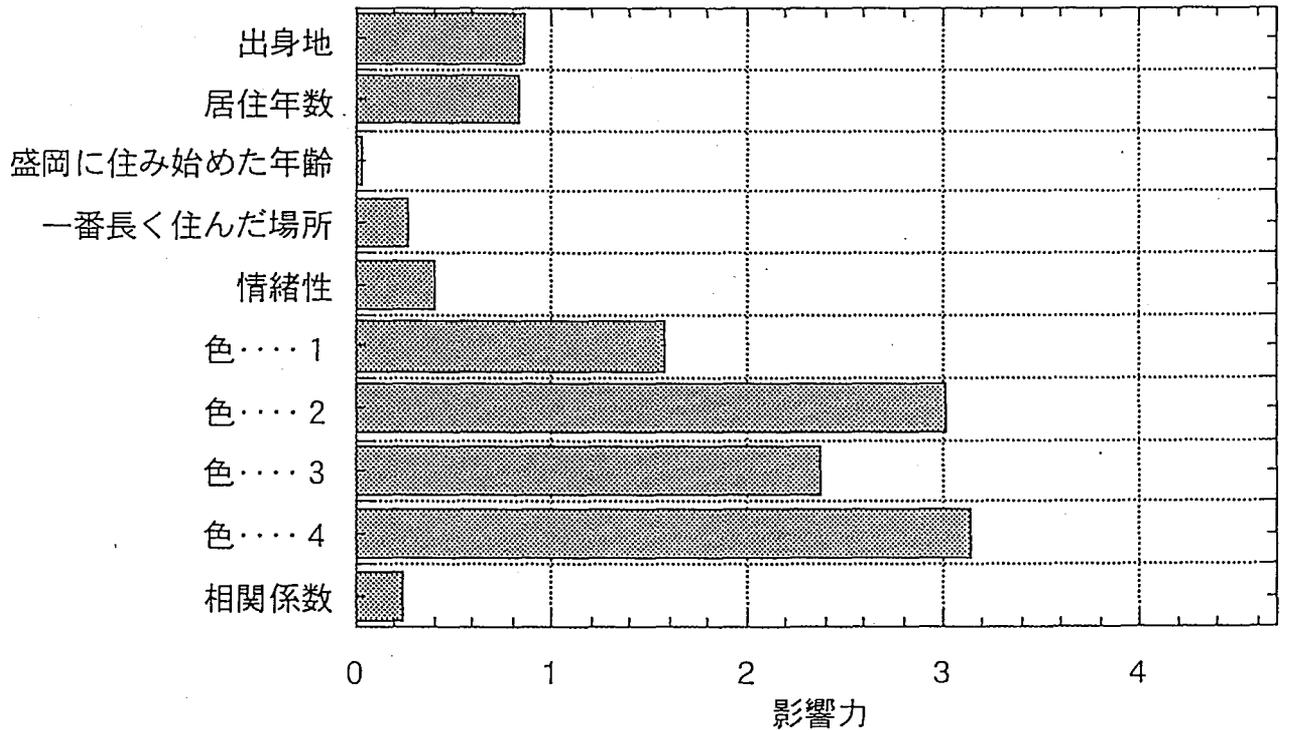
図 II - 3t

写真 U

CATEGORY



ITEM



図II-3u

(2) パーソナリティ特性の影響に関する全体的考察

写真A～Uの写真について、各アイテムのITEMRANGESUMと突出するアイテム(2.0以上)の第一カテゴリー(プラスに影響を与えているもの)を抜き出し、一覧表を作成した。(表Ⅱ-4)。写真A、B、C、E、F、I、M、Uは色彩の評価の影響が大きい写真であり、写真H、J、K、Oは社会的属性と色彩が大きな影響を与えている写真、写真L、Tは社会的属性が評価に大きな影響を与えている写真であると考えられる。以下、各アイテムごとにみていく。

①出身地は突出するアイテムがなく、他のアイテムと比較すると影響が小さい要因であると思われる。

②盛岡の居住年数は、写真H(莫産九の白壁)、J(大通り商店街)、L(大慈清水)、O(旧井弥商店とコーポ長岡)において居住年数10年以上の影響が大きく、特に写真Jでの影響が大きい。写真Jの大通りは盛岡に長く住んでいる人にとって愛着が大きいと考えられ、一方写真H、L、Oは、盛岡らしく情緒が豊かで文化的なところが高く評価されていると考えられる。また、写真T(材木町)においては居住年数3年以下の影響が大きい。写真Tはアパート居住者にとって居住地周辺であることや、盛岡に通学している人の通学路である点で、愛着が大きく評価に影響していると考えられる。

③盛岡に住み始めた年齢は、写真H(莫産九の白壁)、J(大通り商店街)において18歳以上の影響が大きい。写真Jは大学生がよく行く場所で馴染み深いために評価が高くなったと考えられる。また、写真K(善隣館)、T(材木町)では18歳未満の影響が大きい。

④一番長く住んだ場所のイメージは、アイテムレンジが突出して大きくなることなく、他のアイテムと比較すると影響がほとんどない要因であった。

⑤情緒という言葉の有無も、④と同様にアイテムレンジが突出して大きくなることなく他のアイテムと比較すると影響が小さい要因であった。しかし、その中では、写真I(寺の下)が比較的影響が大きい。写真Iでは、昔ながらの印象の強い日本的な雰囲気が評価され、それが評価の一因となっているためと考えられる。

⑥色の組み合わせ1は、写真J(大通り商店街)において寒色&暖色の影響が大きい。具体例の寒色&暖色の色の組み合わせからもわかるように雑然とした印象の評価が大きく影響したと考えられる。

⑦色の組み合わせ2は、写真B(旭橋)、E(中の橋)、K(善隣館)、M(中央公民館)、U(県合同庁舎のユリノキ・ケヤキ群)において地味&派手なイメージの影響が大きく、特に写真Kでの影響が大きい。写真B、Mは色の組み合わせの濃淡が鮮明なものの評価が影響したと考えられ、写真Eは川や橋の色そのものの青色が評価に影響したと考えられる。また、写真Kは、教会という建物の持つ清廉なイメージが色

の持つイメージと合致していることが評価に影響したと考えられ、写真Uは色の持つさわやかな印象が評価に影響したと考えられる。さらに、写真H（莫薩九の白壁）、I（寺の下）においては派手なイメージの影響が大きい。写真H、Iは日本的な色彩の組み合わせの評価が影響を及ぼしたと考えられる。写真O（旧井弥商店とコーポ長岡）においては地味なイメージの影響が大きい。色の持つ落ち着いた印象が評価に影響したと考えられる。

⑧色の組み合わせ3は、写真A（高松の池）、B（旭橋）、K（善隣館）、M（中央公民館）において明度が低いものの影響が大きい。写真Aは日本的な色彩の組み合わせや茶系の色彩の評価が影響したと考えられる。写真C（下の橋）においては、明度が高いものの影響が大きい。これは、淡い色の組み合わせや茶系の色の組み合わせが評価に影響したと考えられる、写真F（中津川）、O（旧井弥商店とコーポ長岡）においては明度が中間&低いものの影響が大きい。写真Fは、川の色が評価に影響したと考えられ、写真Oは色の濃淡の組み合わせの鮮明さが影響している。写真H（莫薩九の白壁）、U（県合同庁舎のユリノキ・ケヤキ群）においては明度が中間のもの、影響が大きい。写真Hでは川の色の評価や日本的な色の組み合わせの評価が影響し、写真Uでは葉の緑色の評価や石畳の色彩が評価されたと考えられる。

⑨色の組み合わせ4は、写真A（高松の池）、B（旭橋）、E（中の橋）、H（莫薩九の白壁）、K（善隣館）、M（中央公民館）、U（県合同庁舎のユリノキ・ケヤキ群）において彩度が低いものの影響が大きく、特に写真Hでの影響が大きい。この中の写真A、Hでは池や川の水色の評価や茶系の色彩の評価が影響していると考えられ、写真B、Mでは⑧と同様に黒色とその周囲の淡い色彩のビビッドな組み合わせが評価されていると考えられる。また、写真K、Uでは茶系の色彩の評価や緑色の葉の色の評価が影響し、写真Eでは、橋の周囲の暗い色彩や橋の奥の淡い色彩が評価に影響していると考えられる。さらに、写真F（中津川）、O（旧井弥商店とコーポ長岡）においては彩度が高いものの影響が大きい。写真Fは川の色の評価、写真Oは日本的な色彩の評価が影響していると考えられる。写真C（下の橋）においては彩度が高い&低いものの影響が大きい。川に代表される水色の評価や茶色と緑色の組み合わせの評価が影響しているためと考えられる。

⑩相関係数は、アイテムレンジが突出して大きくなることなく、他のアイテムと比較すると影響が小さい要因であった。相関係数の中だけでみると、写真D（盛岡駅）、F（中津川）、I（寺の下）、K（善隣館）、S（寺町通り）の影響が比較的大きい。

表Ⅱ-4

数量化Ⅰ類 データ

	写真 A	写真 B	写真 C	写真 D	写真 E	写真 F	写真 G	写真 H	写真 I	写真 J
①出身地	0.78755	0.20435	0.88631	0.52433	0.51097	0.15859	0.60672	1.18914	0.23496	1.14034
②盛岡の 居住年数	1.20133	0.82079	0.29262	1.53563	0.96619	1.29724	1.99544	2.14964	0.40137	3.13209
								10年以上		10年以上
③盛岡に 住み始めた 年 齢	1.13024	0.62757	0.44820	1.44781	0.38197	0.27217	1.90758	2.47455	0.19757	2.15588
								18歳以上		18歳以上
④一番長く 住んだ場所 のイメージ	0.51965	0.44912	0.38810	0.01996	0.00935	0.12825	0.70577	0.12200	0.26595	0.01650
⑤情緒とい う言葉の 有 無	0.44647	0.12317	0.01494	0.10710	0.08120	0.20323	0.14315	0.64519	1.30359	0.10254
⑥色の組み 合わせ 1 寒色暖色	0.51025	0.38404	1.01871	1.33108	1.03716	1.00444	0.49046	1.41480	0.95000	2.12582
										寒色&暖色
⑦色の組み 合わせ 2 イメージ	1.71000	3.54029	1.57093	0.98072	3.22604	1.61926	1.69110	3.30635	2.66884	1.31465
		地味&派手			地味&派手			派手な イメージ	派手な イメージ	
⑧色の組み 合わせ 3 (明度)	2.19042	4.58770	2.43517	1.74709	1.99773	2.04550	1.13916	2.25945	0.97237	1.83684
	明度が低い	明度が低い	明度が高い			中間&低い		明度が中間		
⑨色の組み 合わせ 4 (彩度)	2.61474	2.41350	2.06426	1.22916	3.50065	2.00177	1.42543	3.72015	1.93189	0.60099
	彩度が低い	彩度が低い	高い&低い		彩度が低い	彩度が高い		彩度が低い		
⑩ 相関係数	0.65668	0.32519	0.47534	0.88160	0.47449	0.94902	0.61128	0.51334	0.94145	0.10685

写真 K	写真 L	写真 M	写真 N	写真 O	写真 P	写真 Q	写真 R	写真 S	写真 T	写真 U
0.61129	0.42061	0.96506	0.29228	0.75315	0.34154	0.79110	1.36684	1.19954	1.51462	0.86046
2.23353	2.82265	0.54253	0.65212	2.00912	1.71657	1.97390	1.35247	1.07960	3.72105	0.82710
4年以上 5年未満	10年以上			10年以上					3年以下	
2.26312	1.98131	1.42484	0.06698	1.15544	1.27351	0.47992	0.16934	1.65605	2.13959	0.03439
18歳未満									18歳未満	
0.32875	0.05259	0.03909	0.00066	0.32071	0.32211	0.04723	0.37760	0.26555	0.05061	0.26472
0.02363	0.50721	0.16591	0.22451	0.55834	0.61227	0.22734	0.54336	0.53633	0.38905	0.40587
0.40189	0.64778	0.23922	0.71389	0.52071	0.63476	1.20780	0.26093	0.59992	0.65987	1.58149
3.98258	0.26736	3.34833	0.34792	2.55829	0.59037	1.96208	0.69853	1.04214	0.87476	3.01128
地味&派手		地味&派手		地味な イメージ						地味&派手
3.16582	0.69493	2.53620	1.06701	2.02386	1.43304	1.91789	0.71385	0.94372	1.25493	2.38370
明度が低い		明度が低い		中間&低い						明度が中間
4.07740	0.97827	2.22135	1.01154	2.66000	1.84714	0.99331	0.82910	0.13083	0.38139	3.13426
彩度が低い		彩度が低い		彩度が高い						彩度が低い
0.88522	0.38227	0.04321	0.33670	0.56648	0.44293	0.43713	0.89743	0.83245	0.23425	0.23521

III. 個人別態度構造分析の方法

1. PAC分析の理論⁹⁾

PAC分析のPACはPersonal Attitude Construct（個人別態度構造）の略称であり、“パック”と発音される。現在では、利用の仕方によっては認知やイメージの構造、心理的場、アンビバレンツ、コンプレックスまで測定できることが確認されているが、その名称が示すように、元来は個人別に態度構造を測定するために内藤哲雄氏（1993）によって開発されたものである。この分析法は、当該テーマに関する自由連想（アクセス）、連想項目感の類似度評定、類似度行列によるクラスター分析、被験者によるクラスター構造のイメージや解釈の報告、実験者による総合的解釈を通じて、個人ごとに態度やイメージの構造を分析する方法である。

今日の社会心理学では抽象的・平均値的な人間を描き続け、対象の独自の問題や個性が欠落している実感を拭いきれない。これに対し臨床においてカウンセリングは何ひとつ手に持たず個別の対象や現象に肉薄している。内藤氏は「そのように社会心理学でも個別の対象や現象に鋭く迫ることはできないか」と考え、その問題意識が彼をPAC分析開発に向かわしめている。こうして、臨床の実験においてもそうであるように、被験者は1名で平均値も分散も必須条件ではなく、繰り返しデータも必要ない、そして個人や単一集団の独自性や特有性、個のもつ豊饒を分析でき、しかも個々の要因分析ではなく、全体の構造を捉えた技法の開発を始めた。これができれば長期間にわたる膨大な個別事例の情報を、直感を駆使しながら分析していく従来の事例研究法（Allport, G.W., 1942）から個性記述的研究を開放でき、膨大な変数が総合的に関与する事例の操作的科学的な研究の道を切り開くことができる。そのような目的からPAC分析の技法開発に着手することとなり、関連技法との比較を含めた理論的考察が続いた。技法の開発と洗練、実証研究の学会等での発表は1991年に開始された。

PAC分析は技法の中に実験社会心理学的アプローチと臨床心理学的アプローチが融合されている。換言すれば、操作的・実験的・（記述）統計学的手法と、間主観的・カウンセリング的・事例記述的手法の両者が包含されている。「個」へのアプローチが法則定立的研究に取って代わることができるのか、全ての面で優れているというのではない。集団の平均・分散による量的・確率的な分析と個別の事例による質的・記述的な分析は車の車輪のような相互補完的な関係にある。2つのアプローチを対置させることで、現実の人間行動を幅広く相対化させることができる。それにもかかわらず、前者のみが強調され、それだけが科学のようで万能であるかのように信じ込まれている風潮を憂い、また後者の操作的・科学的な技法の開発とそれを支える理論の創出が蔑ろにされ、遅滞していることを実感するがゆえに、後者のアプローチの有効性を強調し、

提唱されたものである。理論の詳細については内藤氏の著述を参考にされたい。

2. 実験方法

(1) 刺激写真および被験者の選定

刺激写真の選定においては、予備的研究として行った「盛岡市の景観評価に関する要因分析」における数量化Ⅰ類による要因分析の結果を参考とした。(Ⅱ章5節参照)

本研究では、10項目のアイテムの中で被験者のパーソナリティ特性が景観評価における個人差として顕在化しやすい「盛岡の居住年数」に注目することとした。そのアイテムレンジが大きく、景観評価への影響が顕著に認められた写真エレメントは、写真G、H、J、K、L、O、Q、Tの8枚であったが、さらにそれらのカテゴリースコアに注目し、「居住年数が10年以上で影響力がプラスに働き、居住年数の減少に伴って影響力がマイナスに働いていく」傾向を示す写真、およびその逆の「居住年数が10年以上で影響力がマイナスに働き、居住年数の減少に伴って影響力がプラスに働いていく」傾向を示す写真を選定することとした。その結果、写真G(開運橋—開運橋より岩手山を望む)、J(大通り商店街—さわや書店付近)、L(大慈清水—鉦屋町、盛岡十大清水のひとつ)、T(材木町—『音座』付近)の4枚を刺激写真の候補として選定した。これら4枚の写真を用い、盛岡の居住年数10年以上と3.5年の被験者2名(いずれも学部4年生)を被験者としてPAC分析による予備実験を行った。その結果、各写真において居住年数による評価の違いが認められたため、この4枚の写真を提示刺激として用いることとした。

被験者の選定においては、居住年数が2年、10年で居住による影響が評価に顕在化することが明らかになっていることから居住年数2年、10年を軸として被験者を選定することとした。被験者の概要を表Ⅲ-1に示す。

表Ⅲ-1 被験者の概要

居住年数	被験者	年齢	現在の居住歴	今までの居住地	盛岡市でよく行く場所	主な交通手段
1. 5年	A (A. T)	21歳	盛岡市上田	0~18歳 宮城県名取市 18~21歳 岩手県盛岡市	大通り 市立図書館	徒歩 自転車
	B (O. M)	20歳	盛岡市桜台	0~2歳 盛岡市箱清水 2~17歳 宮城県登米郡 17~18歳 宮城県仙台市 18~20歳 盛岡市桜台	大通り 映画館通り	バス
	C (S. M)	19歳	盛岡市高松	0~18歳 山形県南陽市	青山、みたけ方面	自転車
3. 5年	D (K. T)	22歳	盛岡市高松	0~18歳 青森県八戸市	大通り 仙北町	車 自転車
	E (H. K)	23歳	盛岡市上田	0~19歳 青森県青森市 19~23歳 岩手県盛岡市	大通り 上田 高松 川徳 館向	車、徒歩 自転車 原付
	F (S. M)	21歳	盛岡市前九年	0~15歳 宮城県仙台市 15~18歳 秋田県秋田市 18~21歳 岩手県盛岡市	大通り 材木町	自転車
10年以上	G (O. F)	21歳	盛岡市高松	0歳 盛岡市山王町 1~8歳 盛岡市西松園 9~12歳 岩手県大船渡 13~19歳 盛岡市北松園 20~21歳 盛岡市高松	大通り 駅前近辺 松園 高松 上田	バス 自転車
	H (K. I)	22歳	盛岡市黒石野	0~3歳 大阪市堺市 3~22歳 岩手県盛岡市	ドトールコーヒー ジョイス 学校	自転車
	I (Y. M)	24歳	盛岡市東山	0~24歳 岩手県盛岡市	大通り	自転車

(2) 実験手続き

予備実験により言葉の刺激の方がより豊かなイメージの想起が可能であることが確認されたため、写真刺激との比較および被験者個々の盛岡の街並みに対するイメージ把握を目的とし、写真呈示に先立って「盛岡の街並み」を言葉の刺激とする実験を行うこととした。したがって実験は計5回/人、盛岡の街並み、大通り、岩手山、材木町、大慈清水の順序で行うこととした。

1) 実験開始時の教示

はじめに、連想刺激として以下のような文章を口頭で読み上げて教示し、写真呈示の場合には同時に呈示する。

(盛岡市の街並の場合)

「あなたは、「盛岡市の街並」という言葉を聞いたときにどのようなことが思い浮かびますか。頭に浮かんできたイメージを、短い文章で、思い浮かんだ順にカードの裏に番号を付けて記入して下さい。」

(刺激写真を使った場合)

「あなたは、この写真を見てどのようなことが思い浮かびますか。頭に浮かんできたイメージを、短い文章で、思い浮かんだ順にカードの裏に番号を付けて記入して下さい。」

ついで、おおよそ縦3 cm、横9 cmの大きさのカードを40枚程度被験者の前に置き、頭に浮かばなくなるまで自由連想させ記入させる。

このあと、「今度は、言葉の意味やイメージがプラスであるかマイナスであるかの方向には関係なく、あなたにとって重要と感じられる順にカードを並べ換えて、カードの表に番号を記入してください。」と教示する。

2) 類似度評定に関する教示

項目間の類似度距離行列としてマトリックス(表Ⅲ-2)を作成するために、カードの全ての対を選びながら、以下の教示と7段階の評定尺度に基づいて類似度を評定させる。教示は下記の〈評定尺度〉が印刷された用紙を被験者に呈示しながら、以下のような文章を口頭で読み上げる。

「あなたが盛岡市の街並という言葉から(この写真から)関連するものとしてあげたイメージや言葉の組み合わせが、言葉の意味ではなく、直感的イメージの上でどの程度似ているかを判断し、その近さの程度を評定尺度の該当する番号でグラフ用紙に記入してください。」

〈評定尺度〉

非常に近い・・・・・・・・1	いくぶん遠い・・・・・・・・5
かなり近い・・・・・・・・2	かなり遠い・・・・・・・・6
いくぶん近い・・・・・・・・3	非常に遠い・・・・・・・・7
どちらともいえない・・4	

表Ⅲ-2 連想項目間の類似度距離行列

	想起順	4	13	1	6	5	7	8	10	9	3	2	11	12
想起順	重要順	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
4	1													
13	2	5												
1	3	1	3											
6	4	5	3	5										
5	5	6	4	5	5									
7	6	6	4	3	5	1								
8	7	3	5	5	3	5	5							
10	8	3	3	2	5	1	2	6						
9	9	5	2	2	5	1	2	5	3					
3	10	5	5	7	2	4	4	3	6	5				
2	11	5	5	6	2	2	4	3	4	4	2			
11	12	5	5	5	2	2	4	3	3	3	3	2		
12	13	5	6	3	4	2	3	4	3	3	3	2	1	

3) クラスタ分析

上記の評定尺度により作成された類似度距離行列（表Ⅲ-1）に基づき、ウォード法でクラスタ分析する。

以下に、統計ソフト“HALWIN”（HALBAU Ver.5 for Windows, 現代数学社）によるクラスタ分析の方法を示す。

●クラスタ分析のキー入力の方法

HALWINの設定画面でメニューバーにある「方法の設定（M）」をクリックし、[キーボード入力による分析（O）]をクリックする。

[分析方法の指定のメニュー]画面が表示され、キーボード入力による解析方法の一覧が表示される。[11. クラスタ分析]をダブルクリックするか、クリック後に[設定]ボタンをクリックする。

[クラスタ分析（キー入力）]画面が表示されるので、以下のような設定、およびデータの入力を行う。

●行列の種類指定

入力するデータが何を示すものなのかを指定する。[◎相関係数]、[○平方距離]、[○距離]の中から、[○距離]をマウスでポイントし、クリックして指定する。

●行列の大きさの指定

入力するデータ行列の大きさを必ず指定する。黄色の[行列の大きさ]枠の下側にあるボックスに数値をキー入力することで指定する。数値の入力後、[Enter]キーを

必ず押す。

● データの入力

実際のデータは、[データ入力] 枠の下側にあるボックス内に数値をキー入力することで行う。データ行列のどこの位置に入力されるかは、セル位置がボックスの左側に表示されるとともに、データグリッド上の対応するセルの色が青色で表示される。

なお、距離行列や相関係数行列は対称行列なので、対角成分以外の要素のデータを入力すると対称的な位置のセルにも同一のデータが表示される。例えば、(1, 2)の位置のセルにデータを入力すると、(2, 1)のセルにもデータが表示される。また、対角成分は指定する必要はない。

● ファイルの操作

メニューバーには「ファイル (F)」があるので、キー入力したデータはディスク上にHALWIN用のテキストファイルとして保存できる。

保存したファイルは、読み込んで再度分析に使用することができる。ファイル (F) をクリックすると、メニューリストが表示される。

- ・ 読み込み (L) : 保存したデータ行列 (HALWIN形式) を読み込む。
- ・ 保存 (S) : キー入力したデータ行列をHALWIN形式で保存する。
- ・ 閉じる (C) : このメニューを終了する。

ファイルの指定方法は通常の方法と同様である。

● 分析の開始

データを全て指定したならば[分析の開始] ボタンをクリックする。通常の[クラスター分析] 画面が表示されるので、[クラスター併合後の距離計算] を[ウォード法] と指定し、[結果の出力] を[クラスター併合の過程] と指定する。

[分析実行] ボタンをクリックすると、分析を開始し、[クラスター併合過程] と[デンドログラム] が表示される。(表Ⅲ-2参照) メニューバーの「印刷 (F)」をクリックし、[プリンター出力 (P)] をクリックすると、印刷ができる。[終了] ボタンをクリックすると、キー入力の画面に戻る。

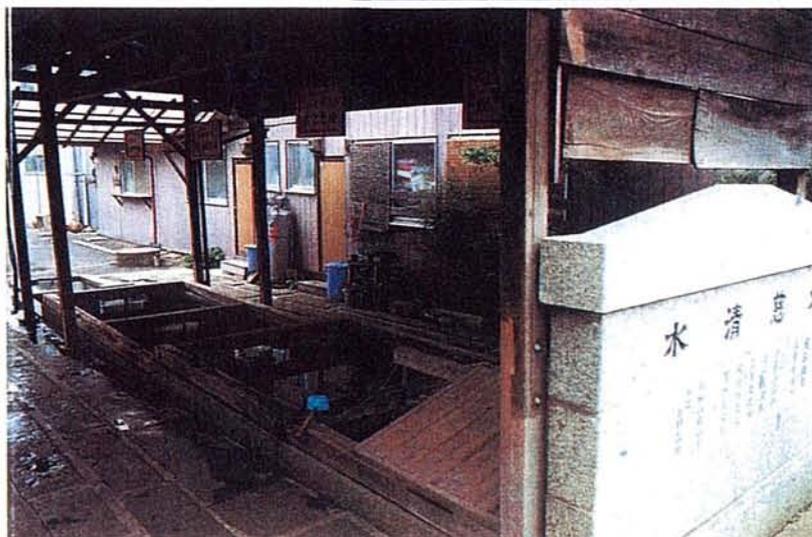
キー入力画面で[終了] ボタンをクリックすると、クラスター分析 (キー入力) 画面を終了し、HALWINの設定画面に戻る。

大通り



岩手山

材木町



大慈清水

IV. 記述項目にみる居住経験別評価

1. イメージ項目数による比較

5つの刺激に対する各被験者のカード記述項目数およびそのイメージの性格付け(+0-)を整理した結果を表IV-1に示す。分析対象となった総項目数は631項目であり、盛岡市の街並に関する項目数が圧倒的に多く、言葉による刺激の方が、より豊かなイメージ想起が可能であることを確認できる。

さらに刺激ごとにみていくと、「盛岡の街並」および「大慈清水」では居住年数による言葉の想起数に大きな差は認められないが、「大通り」では居住年数が長くなるほどプラス項目数が減少し、マイナス項目数は1.5年群と3.5年群を境に増加する傾向が明らかである。同じく街路としての材木町に注目すると、大通りと同じ傾向を示し、1.5年群と3.5年群を境に居住年数が長くなるとプラスが減少し、マイナスが増加する傾向がみられた。一方、「岩手山」では逆の傾向がみられ、同じく1.5年群と3.5年群を境に1.5年群でプラスが大幅に減少し、マイナスが増加する傾向を示した。

したがって、予備的研究における数量化Ⅰ類による分析で得られた結果との一致は、「材木町」における居住年数の長さでプラス項目の減少・マイナス項目の増加にのみ認められ、大通りおよび岩手山に関してはむしろ逆の傾向を示している。しかしながら、先行研究では、大通りなどの街路において居住年数の増加に伴って洗練性が顕著に減少にする傾向が2年、10年を境に認められることから、記述項目数の性格付けの結果との一致がみられる。したがって、予備的研究における21枚の総合的な順位付けには、個々の景観評価にみられる評価プロセスとは異なる価値判断が加わると考えられる。例えば、大通りの場合を例にみるならば、景観としての評価のプロセスでは居住年数が増すことでイメージの低下がみられるものの、総合的な好ましさを評価においてプラスへ動かす要因が加わることを示している。一方、逆に岩手山の場合には、総合的な好ましさを評価においてマイナスに動かす要因が存在することを示し、居住年数に伴う景観評価の変化プロセスと総合的な評価とは区別して考えるべきものであることを示唆している。本研究ではあくまでも、前者を追求の対象とすることを明確にしておく必要がある。

表IV-1

PAC項目構成一覽 (刺激別・居住年数別：総項目数631)

ことば 写真	1.5年群				3.5年群				10年以上群				総計		
	被験者	+	0	-	小計	被験者	+	0	-	小計	被験者	+		0	-
盛岡の街並	A	12	6	9	27	D	4	1	8	13	G	7	13	12	32
	B	14	0	11	25	E	7	0	7	14	H	9	4	4	17
	C	2	6	8	16	F	14	1	5	20	I	9	0	3	12
	計	28	12	28	68	計	25	2	20	47	計	25	17	19	61
	%	(41.2)	(17.6)	(41.2)	(100)	%	(53.2)	(4.3)	(42.6)	(100)	%	(41.0)	(27.9)	(31.1)	(100)
大通り	A	9	4	9	22	D	1	0	12	13	G	0	6	3	9
	B	4	1	4	9	E	2	0	6	8	H	1	0	12	13
	C	2	2	8	12	F	5	5	6	16	I	1	3	7	11
	計	15	7	21	43	計	8	5	24	37	計	2	9	22	33
	%	(34.9)	(16.3)	(48.8)	(100)	%	(21.6)	(13.5)	(64.9)	(100)	%	(6.1)	(27.3)	(66.7)	(100)
岩手山	A	1	2	12	15	D	11	0	2	13	G	4	5	2	11
	B	8	0	1	9	E	4	3	2	9	H	9	0	4	13
	C	4	2	6	12	F	7	4	4	15	I	7	2	0	9
	計	13	4	19	36	計	22	7	8	37	計	20	7	6	33
	%	(36.1)	(11.1)	(52.8)	(100)	%	(59.5)	(18.9)	(21.6)	(100)	%	(60.6)	(21.2)	(18.2)	(100)
材木町	A	18	2	0	20	D	16	0	0	16	G	9	2	0	11
	B	13	0	2	15	E	6	3	8	17	H	7	0	8	15
	C	9	1	3	13	F	10	3	1	14	I	8	2	1	11
	計	40	3	5	48	計	32	6	9	47	計	24	4	9	37
	%	(83.3)	(6.3)	(10.4)	(100)	%	(68.1)	(12.8)	(19.1)	(100)	%	(64.9)	(10.8)	(24.3)	(100)
大慈清水	A	7	8	0	15	D	13	0	2	15	G	2	5	0	7
	B	6	0	4	10	E	3	6	3	12	H	12	0	1	13
	C	6	2	2	10	F	9	2	3	14	I	2	2	4	8
	計	19	10	6	35	計	25	8	8	41	計	16	7	5	28
	%	(54.3)	(28.6)	(17.1)	(100)	%	(61.0)	(19.5)	(19.5)	(100)	%	(57.1)	(25.0)	(17.9)	(100)

2. KJ法による項目内容分類に基づく比較

記述項目の内容をKJ法によって分類し、居住年数別に整理した結果を表IV-2a～表IV-2eに示す。

(1) 盛岡市の街並の場合 (表IV-2a)

1.5年群、3.5年群では「個別的な街並の印象」に関する項目がプラス、マイナスの両イメージとして捉えられている。この事実は、居住年数が短い被験者の場合には「盛岡市の街並」のことは刺激によって想起する空間が、個人にとって印象の強い場所に限定されることを示している。とりわけ、1.5年群では「街としての全体の印象」「建物の用途」「家並み」「利便性」などについて細部をイメージしている。

一方、10年以上群では、「自然環境」「建物全般」「総合評価」「交通開発」に関する項目が全体的イメージとして捉えられている。これらの項目は盛岡市の街並全体に対するイメージであり、1.5年群にみられる個人的で限定的なイメージ想起とは明らかに異なる。したがって、居住年数が長くなるに伴ってイメージされる範囲が拡大し、細部のイメージが埋没して総合的なイメージが形成されていくプロセスが明らかに存在することを確認できる。

しかしながら、唯一「道路」に関する記述は居住経験による差が認められない。この事実は、「道路」がリンチによる都市のイメージ構造の輪郭をなすものとして、居住経験を経ても埋没しないことを示すものであり、ここに都市空間における人間の生活行為を規定する第一次的な空間としての道路の存在を確認できる。誰しものが日常的に利用するものとしての不便さの指摘がなぜ道路に集中するかは、道路が空間認識を誘導する道具空間として存在することの意味の重要性を示すものである。

(2) 大通りの場合 (表IV-2b)

1.5年群では「自転車の様態」「疑問」「歩道、車道」に関する項目がマイナスイメージとして捉えられている。同時に「光、ガラス」「アーケード」「道路標識、看板、街灯、水飲み場」をプラスイメージと捉えており、居住年数が短いほどモノやデザインの細部が意識化されやすい傾向が明らかである。また3.5年群でも「歩道、車道」に関する項目をマイナスイメージ、「アーケード」「道路標識、看板、街灯、水飲み場」をプラスとして捉える傾向は、1.5年群ほどではないが認められる。

さらに3.5年群以上では、「建物」「店」「活気、にぎやかさ」に関する記述が多くみられる特徴を示す。自転車や道路から建物への視点の移動は、水平面に垂直面が取り込まれる空間認識のプロセスを示すものであり、さらに「活気、にぎやかさ」に関する記述の出現は、空間として限定的にその雰囲気認知が可能になっていることを示している。そして、それがさらに「大通り＝商店街」という認識に高まることで、商店街としてあるべき姿とのギャップがマイナスイメージとして捉える結果をもたらすと考えられる。

10年以上群では、3.5年群のその傾向がやや残るものの、街路全体の総合的な雰囲気に関する記述が圧倒的に多く、プラス項目はほとんど認められない。

したがって、大通りの景観評価においては、自転車・道路・細部のデザインから建物、活気へ、さらには総合評価への認識プロセスが明確に認められる。加えて10年以上群の被験者の場合には、「刺激写真」からのイメージではなく、「自分の中にある大通り」をイメージしていることが明らかである。開放的な街路に比較し、アーケードは内部空間を限定することから、よりイメージの固定化が促進されやすいと考えることができる。したがって、アーケードのデザインを変えた程度では、長年の居住者のイメージ刷新は望めないことが明らかであるが、前述総合評価においてプラスに動かす要因が愛着であるとするならば、限界性認知を揺さぶるイメージ刷新の危険をそこに確認できる。

(3) 岩手山の場合 (表Ⅳ-2c)

1.5年群では「河川敷」「全体の印象」「山と建物」についてのイメージ項目が多い。「河川敷」については自然を生かす整備をプラスイメージと捉えているが、山と建物の全体の構図を調和していないとして、絵はがきをみるかのような客観的な捉えかたをしている。3.5年群になると、「岩手山」「橋」「季節」「北上川と岩手山」「建物」「個別的要素」がプラスまたはマイナスと捉えられ、山および川が岩手山・北上川と固有名詞に変わっていく。すなわち、1.5年群に比べて盛岡らしさの視点が加わり、景観を構成するより広い範囲の要素に対する価値付けがみられる。さらに10年以上群では、「総合評価」として全体の雰囲気を形容詞として表現する記述が圧倒的に多く、プラスとして捉えられえている。3.5年群における岩手山および北上川に対する盛岡の象徴としての価値づけに注目するならば、10年以上群は写真全体を価値付けた評価と捉えることができる。

したがって、観光客に近い傍観者としての評価姿勢を持つ1.5年群に対し、居住年数が長くなるとともに価値づけの対象が景観構成要素から全体へと変容するプロセスをこの景観評価の特徴として捉えられることができる。

(4) 材木町の場合 (表Ⅳ-2d)

1.5年群では「街並の構成」「歩道・車道」「構成要素のデザイン・配置(街灯)」に関する多くの項目がプラスイメージとして捉えられ、街路の細部に注目する特徴を示す。これに対し3.5年群、10年以上群では「親近感・温かみ」「全体のイメージ」に関する多くの項目をプラスイメージと捉えており、大通りに似た評価パターンがみられる。大通りとの違いはいずれの居住年数群もプラスイメージが大半を占める点に認められるが、10年以上群ではプラスイメージを持ちつつも、整備された街並に「人工的過ぎる」という違和感を覚えている。この事実は、大通りの場合と同様に、10年以上群の持つ旧来の街並イメージが新しいイメージの受け入れを抑制する働きを持つこ

とを示すと考えられる。

したがって、大通りの場合と同じように居住経験が浅いと道路を中心とした細部を視点し、居住経験が深まるにつれ、空間全体の雰囲気意識が向くようになってくる傾向を確認できる。

(5) 大慈清水の場合 (表IV-2e)

1.5年群では「興味・関心」「木・石畳・水」に関する項目をプラスイメージと捉える一方で、「疑問」が特徴的項目としてみられる。さらに3.5年群では「管理・機能」「コミュニティー」をプラスイメージと捉え、また3.5年群と10年以上群では「情緒的雰囲気」に関する多くの項目がプラスイメージとして捉えられている。

前述の場合と同様に、居住経験が深まるにつれ、評価対象が視覚的に捉えられる物から雰囲気のような感覚的に捉えられるものへと向けられていく傾向は認められるが、来訪頻度がいずれの居住年数群においても高くないことから、居住年数による顕著な差は認められない。しかし、居住年数が高くなるほど井戸の文化的価値の認知が評価姿勢に影響する傾向がみられる点は、岩手山の場合と共通する特徴として位置づけられる。

表IV-2a

刺激：ことば<盛岡の街なみ>

	項目内容	記述内容	1.5年群			3.5年群			10年以上群			計
			+	0	-	+	0	-	+	0	-	
1	個別の街並みの印象	映画館通り、材木町、市役所・県民会館界限、中央病院前、開運橋周辺、緑ヶ丘・黒石野、青山町、松園、岩手公園、中三周辺、菜園、上田・高松、二高周辺、大通り、マースの通り、4号線沿い、肴町、駅周辺	13		10	5		7	1	1	2	39
2	街としての全体の印象	岩山からの景色がきれい、街が清潔できれい、全体的にきれいな街、国分町みたいのがなくて明るい、40~50代も楽しめる、宮澤賢二のイメージが強い、こだわりを感じる、こげ茶や藍色のイメージ、淡々とした生活が出ている、学生が多く気取っていない、高齢者をよくみる	5	2		3			2			12
3	建物の用途	アパートが多い、公園が多い、個人商店が多い、高層ビルがない、娯楽施設が不足、マンションが多い、寺が多い、パン屋・喫茶店が多い、映画館がたくさん、ブランドを扱う店がある、公共施設	5	2		2	1	1	2	6	1	20
4	家(住宅)	家が小さい、庭や畑がない、空き地がない、一つ一つがバラバラ、木造が多い、近代的な家がない、庭がうるさい	1	2	3			1				7
5	家並み	ごちゃごちゃした感じ、家が密集、大きな道の奥は混んで暗い、こみあっている		1	3			2				6
6	道路	道路が整備されていない、坂が多い、道が曲りくねっている、狭い、一方通行が多い、複雑なところがある、地下道は便利、大きい道路が少ない、細道がいっぱい、坂道が少ない、歩道の段差が多い、メインの通り少なくこちゃこちゃ、凹凸多い		3	6	5	1	7			4	26
7	利便性	ファーストフードが多くて楽、必要な店がわかりやすいところがない、コンビニが多い、店が点在、閉店時間が早い	1		3	1						5
8	川・橋	川がきれい、北上川がいい、北上川が流れている、川がたくさんある、橋が多い、川と橋が多い		1		4			2			7
9	自然環境	自然が少ない、猫やからすが多い、樹木が多い植物が少ない、緑が多い、四季を感じられる、緑は多いが花は少ない、岩手山が雄大で美しい、冬がすごい、街路樹をみかける	1		2	2		1	4		2	12
10	建物全般	建物が低い、高い建物がない、新しい建物と古い建物が混在、古い建物が多い、同じような建物が少ない、建物がゴミゴミしている、ビルが多い、昔ながらの店が残っている、近代的なデザインの建物が少ない、	2			2			6	2	2	14
11	総合評価	庶民的、やわらかな、明るいところと暗いところが分かれている、趣深い、落ち着いた雰囲気、派手ではない、活気がない、栄えてない、さっぱり							6	2	2	10
12	交通・開発	交通の便がよくない、交通機関が未発達、移動距離が長い、バスをよくみる、開発されている所と未開発の所の差が大きい、新興住宅地が増えている、街以外は山か田んぼ						1	1	4	6	12
13	その他	これから注目される可能性あり、物価が高い、自然災害が少ない、スキー場が多い、大きな観光スポットがない、旬の食べ物がない		1	1	1			1	2		6
計			28	12	28	25	2	20	25	17	19	176

表Ⅳ-2b

刺激：写真<大通り>

分類項目	記述内容	1.5年群			3.5年群			10年以上群			計
		+	0	-	+	0	-	+	0	-	
1	自転車の様態	1	2	5							8
2	疑問			6							6
3	歩道、車道	1		7	1		6				15
4	街路樹	1		2	1	1	2		1	1	9
5	光、ガラス	4									4
6	アーケード	4	1		2		2				9
7	道路標識、看板 街灯、水飲み場	1	2	1	3	1					8
8	色彩	1						1			2
9	イメージのズレ		1				1				2
10	自転車や歩行者 の存在		1				4		3		8
11	建物	1				2	3		1	3	10
	店						3				
12	活気、賑やかさ				1		3			3	7
13	総合評価							1	3	15	19
14	その他	1				1			1		3
計		15	7	21	8	5	24	2	9	22	113

表Ⅳ-2c

刺激：写真<岩手山>

	項目内容	記述内容	1.5年群			3.5年群			10年以上群			計
			+	0	-	+	0	-	+	0	-	
1	河川敷	整備されている、地域の人がきれいにしている、ゴミがなく花が人工的に植えられている、きれいな堤防が整備されている、堤防が自然的、堤防がきれい、花は何なのか、近くに住みたいようで住みたくない、花がもっと欲しい、歩いてみたい、花壇がきれい、花壇が人工的	8		1	3	2				1	15
2	全体の印象	たんたんとしたたずまい、何も伝わってこない、合成写真か、30年前の旅館の絵はがきのような、田舎か都会か、人の日常が見えない、盛岡に似合う、シンボル化している、盛岡らしい、絵はがきのような		1	6	3			2			12
3	山と建物	調和してない、背景を考えて建ててない、山はのびのび建物は混みあっている、どちらもパラパラ			4						1	5
4	岩手山	きれい、ただあるだけ、きれいなのか、いい感じ、大きい、登ってみたい、きれいに見える	1		2	4						7
5	橋	見た目がいい、あまりにシンプル、川とセット橋の上から見たい、旭橋が見える、もう少し趣深い方がいい	1		1	3					1	6
6	季節	早く桜が咲いて欲しい、春に歩きたい、季節を感じる、季節の風景が楽しめそう、四季の移り変わりを感ぜられそう				3			2			5
7	北上川	川の近くまで行ける、川幅が狭い、水が藍色、思ったより深そう、噴火しないでほしい、斎藤先生、水が澄んでいる、増水したら心配	2		1	1	1	3	1	1		10
8	建物	バラバラ、見栄えが悪い、桜顔のビルが邪魔、しっくりこない、込み合っている、マンションが多い、少し邪魔			2			4			1	7
9	個別的要素	雲が低い、橋近くの柳がおもしろい、電信柱が倒れそう、右側の道路が狭くてごちゃごちゃ、河原近くの白い小屋は何か、左上の青い光は何か				1	4	1				6
10	自然	自然があると落ち着く、自然が多くあるわりに古い民家がない、自然があふれている、緑・水・山のバランスがとれている	1	1					2			4
11	人・車・看板	企業がたくさん、人がたくさん住んでいる、電柱が多い、ネオンは少なそう、車が多い、人も車も少なそう		2	2					2		6
12	総合評価	身近か、きれい、晴れ晴れとした気分、落ち着く気分、広々とした感じ、圧迫されない、疲れない、整っている、のんびり、ゆったり、物静か自然的、混雑した雰囲気ない、風が吹いてくる感じ				4			11	1		16
13	場所評価	自然が多い場所、山々に囲まれた街、落ち着ける場所							2	1		3
14	不満・期待	周りに店が少なそう、人が安らげる場がほしい									2	2
15	その他	高い建物から景観がよさそう、右左で差がある								2		2
計			13	4	19	22	7	8	20	7	6	106

表Ⅳ-2d

刺激：写真<材木町>

	項目内容	記述内容	1.5年群			3.5年群			10年以上群			計	
			+	0	-	+	0	-	+	0	-		
1	街並の構成	建物や道路などが調和、舗装が街並と調和、電線が多い、古さと新しさの合わせ方うまく、色合いがいい、目ざわりなものない、建物と街の一体感、解説っぽいのは要らない、整っている、整備されている、コンクリートの占める割合が多い、昔の街並みと現代的なものとの融合	6			2	1			2		1	12
2	歩道・車道	歩道が広い、道路が広い、段差が小さく自転車や車イスが通りやすい、歩きやすい、つながり方がいい、さっぱり、石畳が人工的過ぎない、ゴミと落ちてない、きれいで、整頓されてる、ちゃんとして広い、石畳の道路、車道は途中から普通の道路、幅が広く見える、段差小さい	6				4		1	1	1		15
3	構成要素のデザイン・配置	街灯：街並を考慮して作っている、形と配置が面白い、素敵、デザインがよい、おしゃれ、夜に楽しそう、配置がおしゃれ、夜に映えそう ベンチっぽいのが趣ある、低い木のポール不思議	5				3			1			9
		チェロ：街並を考えた飾り、素敵、街灯とモニュメントのチェロの配置いい、オブジェおしゃれ、なぜチェロがあるのか、配置がおしゃれ		3			1	1		1			
4	街並の印象	きれいな街並、まとまりがあって落ち着く、こぎれい、空間的に落ち着く、メインストリート以外大したことない、作られた人工美、きれいで新しい、人工的、アパート代や地代が高そう、お金持ちが住むらしい	4			1	1	1	1	3		3	14
5	人・車	車が少なく、人通りが多くない、ゴミゴミしてなくてすっきり、車通りも激しくなくよい、車があり通らない、人気なくてさみしい、活気がない、人がいない	4				1		4			1	10
6	店	存在感を感じる、古めかしい、大好きな店がたくさん、入りやすい、マルイチが小さい、マルメばつとしない、左側が昔ながら、商店街が強そう	2			2	1	2	1				8
7	建物	高さがまちまち、中には高めのビルがあって残念、新しいきれいな建物多い、左側に高い建物多い、レンガ調の建物かわいい、街並と高いビルにギャップ、アパート・マンションがありそう、高さを感じさせない、今と昔の建物				2	2	1		3	1	1	10
8	親近感・温かさ	住みやすい街、愛情がわく、便利だけど冷たくない、近くに住みたい、よ市、人が集まりそう、だんごがあう、行ったことある、友だちが住んでる、春休みにバイトの予定、冷たい雰囲気、人の温かみがない、世代を問わず利用しやすい	3				7			1		2	13
9	全体のイメージ	雨の日も似合いそう、映画や物語になりそう、散歩コース、雰囲気がいい、日本っぽい、馬が似合う、異世界に行った感じ、写真を撮りたくなる、さわやか、すっきり、圧迫感がない、広い、遠くまで見える、ゴミゴミしてない、ゆったり、のんびり、疲れない	2				6			8	2		18
10	個性	賢治の街という良さが出ている、他の地域と違う、宮澤賢治っぽい	1				1	1		1			4
11	街路樹	人の手で整えられている、清潔な感じ、整備されている、緑が少ない、緑が映えている	2				1			1		1	5
12	期待	街並みのあり方を学べそう、こういう方向で街が発展して欲しい、誰が計画したのだろう	3										3
13	観光	観光案内みたいのがある、観光客に喜ばれそう						1		1			2
14	その他	天気がいい、夏かな、まずいカレーを食べた、					2		1				3
計			40	3	5	32	6	9	24	4	9	132	

表IV-2e

刺激：写真<大慈清水>

分類項目	記述内容	1.5年群			3.5年群			10年以上群			計
		+	0	-	+	0	-	+	0	-	
1	興味・関心	5			3			1			9
2	木・石畳・水	4						1			5
3	疑問		6		3	1					
4	管理・機能	3	1		5						9
5	コミュニティ	2	1		4						7
6	情緒的雰囲気				6			7	1		14
7	雰囲気			2	1			3	1	4	11
8	周囲の様子	1		2	1	3	2	2		1	12
9	否定的評価			2			2		1		5
10	利用実態		2				1		2		5
11	水	1			1	1	1	2	1		
12	客観的描写	1			3						4
13	全体構成	2							1		3
	その他				1	1	1				
計		19	10	6	25	8	8	16	7	5	104

V. クラスタ解釈・布置にみる居住経験別評価

1. 呈示刺激別分析

被験者のことばによるクラスタ解釈とクラスタ布置の特徴を、居住年数群ごとに整理した結果を表V-1a～表V-1eに示す。

以下、呈示刺激別にクラスタ解釈およびクラスタ布置の特徴を取り上げる。

(1) 盛岡市の街並の場合 (表V-1a)

ことばによる想起の特徴として、被験者により「街並」の捉え方が異なるため、イメージする内容は異なる。しかし1.5年群では、いずれも自分自身にとって身近かな思い入れのある個別的な空間から想起し始めており、1.5年群の第一クラスタは3.5年群では第二クラスタ以下に位置づいている。したがって、明らかに居住年数による違いがクラスタの位置づけに表れている。一方、3.5年群の第一クラスタは、街並景観を構成する主要な要因として共通し、10年以上群では個別的な空間の出現は、被験者Gの第一クラスタに見られるだけである。しかしながら、被験者Gの第一クラスタは現在の居住地への不満としてあり、クラスタ構成をみても特殊な想起として位置づくと思われる。したがって被験者H・Iにみられる抽象的な想起形態が10年以上群においては一般的であると考えられる。

上位クラスタから下位クラスタへの流れ、すなわちクラスタの布置を視点を軸としてみると、①上位クラスタから下位クラスタにかけて視点が狭くなっていく場合、②上位クラスタから下位クラスタにかけて視点が分散していく場合、③上位クラスタから下位クラスタにかけて視点が変らない場合の3通りに分類される。また、プラスとマイナス評価をセットで位置づけるタイプなども居住年数に関係なく認められる。

(2) 大通りの場合 (表V-1b)

1.5年群に特徴的に認められるプラス評価を含むクラスタの位置づけに共通性は認められないが、3.5年群ではプラスのクラスタは明らかに下位に位置づき、ここでも明らかに居住年数による違いがクラスタの位置づけに表れている。10年以上群では、他都市との比較や好きではない理由などのことばにも表れているように、頭の中で想起したイメージによる評価がなされていることが明らかである。3.5年群の被験者Eでは、「自分が持っていたイメージとの比較」がそのままクラスタを形成しているが、やはり下位クラスタとして10年以上群との位置づけの違いが認められる。

大通りの場合には、盛岡の街並のように視点の移動が拡大・狭小という方向性をもって行われる傾向は認められず、記述項目数による重みの違いはあるものの、内容的には並列クラスタとして位置づく場合が多い。

(3) 岩手山の場合 (表V-1c)

1.5年群では山や川・河畔などの自然と周辺のモノとの対比をいずれの被験者も第一クラスターの視点とする点で共通する。一方3.5年群では、被験者D・Fがいずれも盛岡のシンボルあるいは自分の中の岩手山を第一クラスターとし、第二クラスターが川や橋に限定される点で共通し、明らかに岩手山や北上川に対する価値付けが認められる。しかし、北上川との比較で言うならば、岩手山への価値付けが優位に位置づいている。被験者Eの場合には、被験者Bと似た想起形態を示すが、下位クラスターに空想的な想起がみられることから、1.5年群と3.5年群の中間に位置づく評価パターンを示すと考えられる。したがって、居住年数がほぼ等しくとも評価プロセスの発達段階への位置づけには当然のこととして個人差が認められる。さらに10年以上群では固有名詞はすでに認められず、共通して景観全体を受け入れた状態でのプラスの雰囲気評価が第一クラスターを形成している。

クラスターの布置に関しては、上位クラスターで自然について触れる場合が多く、次に①建物に視点を移行させて自然と対比させる場合と、②完全に建物のみ視点に移行させる場合があるが、いずれも居住年数群に関係なく認められるものの、居住年数が長くなると②のクラスターは、より下位のクラスターに位置づく傾向を示す。

(4) 材木町の場合 (表V-1d)

1.5年群では共通して第一クラスターの項目数が多く、プラスイメージとして捉えられている。自分の好みが高位に位置づく傾向は他の写真同様であり、大通りにおける自転車やアーケードのデザインへの注目と同様に、街路のオブジェへの注目が高位に位置づいている。一方、3.5年群におけるオブジェのクラスターは1.5年群より下位に位置づく。10年以上群では、被験者H・Iに従来のイメージとの葛藤を示す人工美のクラスターがみられ、大通りの場合に比較し、居住年数が長くても細部が図となる可能性があることを示している。全体を雰囲気として抽象的に捉えるクラスターは、やはり必ず含まれる。

したがって、大通りと材木町の共通性の中に、街路評価に関するイメージ想起の発達プロセスをかなり鮮やかに捉えることができたと考える。

(5) 大慈清水の場合 (表V-1e)

1.5年群では井戸そのものに対する価値付けが自分の好みに基づくものとしてあり、周囲のモノが視点となってクラスターを形成している。しかしながら、3.5年群においても10年以上群においても後ろの建物がクラスターを形成しており、居住年数が長くなることでモノが図になりにくくなる傾向は大慈清水では明確に捉えられない。例えば、観光名所としての価値を明確に認識している被験者Hの場合でも、クラスターDに後ろの建物が出現している。大慈清水の場合には、いずれの居住年数群においても来訪頻度に大きな差がなく、10年以上群においてさえ形成されたイメージが希薄であ

ることから、モノの埋没がみられないと考えられる。生活感やコミュニティの視点によるクラスターの形成に関しても、居住年数による差は明確ではない。

したがって、居住年数による影響は対象空間との接触頻度とかかわることが明らかであり、いずれの呈示刺激においても認められたイメージ想起の抽象化は、いわゆる「Filter-out」現象を示すものとして捉えられる。

表V-1a

クラスター解釈比較（盛岡の街並）

居住年数	被験者	cluster A	cluster B	cluster C	cluster D	cluster E	clu.F	clu.G	clu.H	clu.I	clu.J	clu.K	clu.L
1.5年群	A 27	自分の思い入れのある通りや店、盛岡への期待感	情緒がある盛岡らしさへの好みによる好意的評価	分かりにくさ、道路への不満	細い路地からの想起、生活感								
	B 25	個別的街並みにおける建物の印象	個別的街並みの雰囲気、心理的・感覚的印象	中心市街地の経験に基づく評価、生動的視点がある	中心市街地以外の自分が入り込めない雰囲気								
	C 16	都市の家、大学付近の一人暮らしの多い住宅を想起	公的に整備されていない道、大学付近通学路を想起	昔ながらの家、家族の住む一般的な家・住宅地を想起									
	D 13	家が込み合っている印象	道路の狭さや分かりにくさへの不便	大学周辺の建物、市街地建物の一般的な印象	川や橋などの盛岡らしい景色、風景	最近話題の街並みのきれいな歩道の印象深さ							
3.5年群	E 14	主要な通りの道路の印象	大学周辺の環境、施設の印象	地下道路の利便さ（上田交差点）	自分の街並みのイメージから肴町を想起	自分の街並みのイメージから北上川を想起							
	F 20	山や川などの自然を想起	近辺の街並み全体の印象	気に入っている個別的街並みや店、趣きが好き	盛岡のいやなところ、不便な点								
	G 32	自分の居住地周辺の一般的な印象、不満	市街地の外縁部を想起、目に付くもの	大学そのもの、大学生に欠かせないコンビニ	市域の拡大を意識、居住地と反対の南方面	街全体の雰囲気としての印象	高齢者の存在、施設	道路	自然	食べ物	分かりにくさ	興味のある趣深い店	山のふもとの家
10年以上群	H 17	気に入っている盛岡らしい自然	不満、改善すれば近代的（道路、自然、観光）	情緒が感じられるところ、残ってほしい雰囲気、店	古さと新しさを視点とした建物の印象、両者の共存	全体の雰囲気（活気がない）							
	I 12	人工的ではなく自然なもの印象	建物の印象、主として古い建物の高さに注目	古い建物と新しい建物が混在	建物と道路との関係に基づく心理的感覚、不満								

表V-1b

クラスター解釈比較（大通り）

居住年数	被験者	cluster A	cluster B	cluster C	cluster D	cluster E	
1.5年群	A 22	空が開けて下から 見上げた時のきれ いな様子	疑問、わからない こと、改善点、可 能性	機能に対する疑問 (アーケード、水 飲み場)	発展しない理由と 自分が利用しきれ ない理由	交通の便とその影 響による交通手段 の混乱	
		8	4	2	6	2	
	B 9	モノに対して見た ままの感想(自転 車、車道、歩道)	写真から心理的に 感じる事、フォ ーマルな印象だか ら木や光に注目				
		5	4				
	C 12	アーケード街とし て自転車や車の施 設が不備な問題点	自転車などを除く 問題点(自然、道 路)	外観から受けるデ ザインなどの良さ			
		8	2	2			
3.5年群	D 13	人と自転車によっ て込み合う狭さ	店の印象、置き方 ・並べ方も雰囲気 も魅力的でない	道路状況と利用し にくさ(歩道の凹 凸、車道の区別)	古い、アーケード が低い感じでデザ インも好かない	全体的な雰囲気と して古さをイメ ージ	
		3	4	3	2	1	
	E 8	自転車の多さ、邪 魔・迷惑	路上駐車、自分が 迷惑・邪魔と感じ 生理的嫌悪感	自分が持っていた イメージと比較し た写真の雰囲気	アーケードの評価 (写真を見て気が ついたこと含む)	人工的過ぎない街 路樹に対する好意 的評価	
		2	1	2	2	1	
	F 16	統一感なし、さび れた(自分が持つ イメージ)	写真を見てそのま まの感想(自転車 、街路樹など)	細かく見てデザ インとして面白いと 感じたところ			
		7	4	5			
10年以上群	G 9	全体のイメージと しての活気の欠如 (他都市と比較)	自転車の多さ(乗 っている人より止 まっている印象)	街路樹の緑が生き ていない、違和感	高い建物がないイ メージ(他の通り や都市と比較)		
		5	2	1	1		
	H 13	いろいろなものが 混在、統一感の欠 如(好きではない 理由1)	全体的雰囲気とし ての盛岡らしさの 欠如(好きではな い理由2)	近代的な美しさの 欠如による雰囲気 、中途半端(好き ではない理由3)			
		2	5	6			
	I 11	建物から想起、自 分が前から持って いたイメージ	実際に街路に立っ た自分を想定した イメージ				
		8	3				

表V-1c

クラスター解釈比較（岩手山）

居住年数	被験者	cluster A	cluster B	cluster C	cluster D	cluster E	clu.F
1.5年群	A	山が物体としか見えないから魅力がない	違和感ある構図、とってつけた印象（絵はがきの様）	背景となる自然と新しい建物が合わない	人々の生活が見えない不自然さ	自然と人工物がバラバラ、影響しあってない	電線だけが現実的
	15	5	3	2	2	2	1
	B	自然を背景として合っているモノの印象（堤防、橋）	自分のイメージに合わない建物の印象				
	9	8	1				
	C	風景として自然と建物が不調和	整備されてない街の印象（地域や行政の責任）	河畔の整備されたきれいさ（地域の人が守る自然）			
	12	3	4	5			
3.5年群	D	盛岡のシンボルとしての岩手山の印象（全体の印象）	川と橋に限定した印象	岩手山を見たときの気持ち・気分	岩手山の最近の話題（噴火）	岩手山そのものに対する感想、存在感	
	13	3	2	4	2	2	
	E	景観のいい部分として川・河畔だけに注目	自然を背景として建物に違和感がある	岩手山の印象、ぼんやりしている岩手山がいい	北上川から空想的に想起（深さ）		
	9	5	2	1	1		
	F	常に自分の中にある岩手山のイメージ	写真を見た雲・川原・橋などの感想	その時の思いつきで不安に思ったこと（川の増水）	右側の街に関して思ったこと（建物、道路）	提示された写真で疑問に思ったこと（青い光？）	
	15	2	7	1	4	1	
10年以上群	G	自然に囲まれた環境で感じる自分の心境	自然の多さに対比した車や人、建物の少なさ	目立っている高い建物			
	11	6	2	3			
	H	盛岡らしさとしての自然、いやし、安らぎ	自然に対比させた人工的部分への感想、期待				
	13	8	5				
	I	広々した印象に基づく全体の雰囲気	実際にその場にいることを想定した感じ				
	9	5	4				

表V-1 d

クラスター解釈比較（材木町）

居住年数	被験者	cluster A	cluster B	cluster C	cluster D	cluster E
1.5年群	A 20	いい点（別格と言えるほどお気に入り、愛着がある）	オブジェの評価			
		18	2			
	B 15	個々を見たときに自分の好みでいいと思うこと	交通状況、圧迫感がなく開放的	街並の統一感を損ねている建物	道路の清潔感	違和感があって目に付くもの
		9	3	1	1	1
	C 13	きれいな街並のいい点、条件（道路やエレメントと景色との調和）	行った時、見た時に感じたいい点、問題点			
		9	4			
3.5年群	D 16	実際に行ったときの全体のイメージや様子	ちゃぐちゃぐ馬つ子を想起（休憩する馬を見た）	像から宮澤賢治を想起、観光名所的魅力	親しみがあり利用しやすい大好きな店のこと	よ市に出かけた時を想起
		5	2	3	3	3
	E 17	アルバイトの経験による親しみ	バイトで昼食を食べたときの感想	写真をみた感想、（活気がない、車や人が少ない）	写真を見ながら自分の経験を確認、疑問（オブジェ）	写真から感じとった天気や季節
		3	4	3	5	2
	F 14	広くてきれいな印象（整頓、清潔、きれい）	普段思っていたこと、写真で改めて気がついたこと	自分が好きなところ（オブジェ、街灯、レンガ、歩道）		
		5	4	5		
10年以上群	G 11	写真を見て感じた道路や造りのイメージ	周りの建物のこと（新しい建物、マンション）	景観として整っていいところ（街灯、緑）	商店街の存在感（よ市、組合）	
		3	2	4	2	
	H 15	人工美、作られた美しさ（新しさ、整備、街灯、オブジェ）	人工的に造った結果としていい印象ではない（冷たい、緑が少ない）	日頃感じている率直な意見（観光、宮澤賢治、活気がない）		
		5	6	4		
	I 11	自分がその場において周りの建物から感じること	全体の客観的な雰囲気（ゆったり、のんびり）	建物やその場所にあるもの（人工的、今と昔）		
		6	3	2		

表V-1e

クラスター解釈比較（大慈清水）

居住年数	被験者	cluster A	cluster B	cluster C	cluster D	cluster E
1.5年群	A	自分の好みに合うこと から思うこと	行ってみたいという 期待感	維持管理に関する 興味・関心	ここと住む人との 関わり方に関する 興味・関心	そのものの仕組み に関する疑問
	15	4	2	3	5	1
	B	ある部分に着目し た時のいいところ (柱。看板)	全体を見渡した時 のマイナスイメー ジ	一つのスクリーン として見た全体と 部分のバランス		
	10	5	3	2		
	C	昔の共同水場の状 況（ルール、井戸 端会議）	共同水場の現状と これからの展望			
	10	6	4			
3.5年群	D	古い感じとその価 値、残したい	知った驚きや珍し さ	生活感が漂うこと による身近かな感 じ、温かさ、便利	水の効能、感触	
	15	4	2	7	2	
	E	写真の水飲み場を みた客観的な記述	水飲み場以外から 感じたこと（季節 、後ろの建物）			
	12	9	3			
	F：坂田	最初の印象「古い 」から派生する思 い	実際に使っている ことを思い、使い 方や人の利用	後ろの家を見て感 じたこと		
	14	8	3	3		
10年以上群	G	井戸の古さと周り の印象、昔と今を 比べて想起	現在の使用と水へ の不安			
	7	5	2			
	H	CMの印象として 自分の好み（生活 感、温かさ）	写真の雰囲気、盛 岡はこうあってほ しいという思い	水から想起するこ と（音、清涼感）	後ろの民家に関す るみたまの感想	
	13	3	7	2	1	
	I	その場にいたくな い思い（狭さ、圧迫 、ごちゃごちゃ）	人が集まらない印 象から想起した雰 囲気	みんなが大切に してきた感じ（庶 民的、昔ながら）		
	8	4	2	2		

2. 景観評価のパーソナリティ特性（被験者別分析）

前述クラスター解釈を被験者個人別にまとめて整理した結果を表V-2a～表V-2iに示す。なお、PAC分析の過程で得られた詳細な聴き取り内容に関する記述は、本報告では省略することとし、本報告ではクラスター関連資料に基づく資料を中心に考察を試みる。

●被験者A（表V-2a）

第一クラスターには、対象がモノであろうとソフト面であろうと、本人の鋭い感性に基づく思い入れが顕著に表れており、第二クラスターは共通して第一クラスターから派生する感情がクラスターを形成している。連続性が途絶えて新たなクラスターが形成された場合にも、続くクラスターは同様に前クラスターから派生する感情によって形成される特徴を持つ。

記述項目数がきわめて多く、独自の美的感覚を明確に持つことから好みが鮮明に出ている。アンティーク・モダンを好むことから、情緒的な古さやデザインが図になりやすい特質が認められる。

●被験者B（表V-2b）

第一クラスターは、呈示写真にみられるモノから受ける印象によって形成される。第二クラスターは、第一クラスターがプラスの場合には対となるマイナス評価がクラスターを形成する場合と心理的評価がクラスターとなる場合に分かれる。心理的な評価がプラスの場合には、続いてマイナスの心理的評価がクラスターを形成する傾向を示す。個別的なクラスターから全体的な印象へ広がりを見せ、さらに下位クラスターが存在する場合には細部に戻ると思われる。

●被験者C（表V-2c）

クラスター数が少ない特徴をもち、第一クラスターは街並の調和を視点とする内容で構成され、第二クラスターではそこから派生する問題点を見出し、下位クラスターに例外なくプラスイメージを含む傾向が明らかである。居住年数が浅い場合の特徴の一つとして、客観的に（傍観者的に）評価しようとする姿勢がみられる。

●被験者D（表V-2d）

第一クラスターと連続性をもって後続クラスターが形成されていく傾向が明らかであり、クラスターの規模も片寄りがなく並列的にクラスターが形成されていく特徴がある。

●被験者E（表V-2e）

第一クラスターが自分自身の実体験に基づいて形成される特徴をもつ。大慈清水は来訪経験がないことから他とは異なる内容で形成されている。続いて写真から直接的に感じ取れる内容がクラスターを形成し、前クラスターと連続性をもって下位クラスターが形成されていく。景観から離れた記述に自己中心性が認められ、3.5年群であり

ながら1.5年群に近い評価プロセスを示す傾向には、この自己中心性が影響している可能性がある。

●被験者F（表V-2f）

第一クラスターが共通して全体的な自分のイメージで構成されており、下位クラスターに移行するにつれ、写真から感じ取るイメージに対する感情（好きな、面白い、いやな）が含まれていく傾向を示す。下位クラスターに共通して写真からの直接的イメージが位置づくところに3.5年群独自の特徴がみられる。

●被験者G（表V-2g）

居住年数が長い被験者でありながら、写真をみた直接的な印象が含まれるなど、景観評価における一貫した特徴が捉えにくい。

●被験者H（表V-2h）

上位クラスターに「盛岡らしさ」「盛岡はこうあって欲しい」という思いが強く表われる傾向があり、全体的に抽象的な全体の雰囲気に関する記述が多い。盛岡らしさを自然との共存、古さと新しさの共存として捉えていることが明らかであり、長年の居住者をもつ一般的な評価傾向を示すと思われる。長い居住年数によって形成されたイメージが評価を大きく左右している傾向も明らかである。

●被験者I（表V-2i）

上位クラスターに自分がその場にいると想定したときの印象によって構成されるクラスターが必ず含まれる。自然に対する思い入れが強いことから、空間の開放性を求め、建物を圧迫感を与えるものとして捉える傾向がある。常に車を交通手段としている実態が、クラスター数・記述項目数ともに少ない評価傾向と関連する可能性がある。歩行者としての実体験の少なさが、その場にいる自分を想起するクラスターの形成にかかわっている可能性もある。

表V-2a

被験者A (A. T)

提示刺激	cluster A	cluster B	cluster C	cluster D	cluster E	clu.F
盛岡の街並 27	自分の思い入れのある通りや店、盛岡への期待感 8	情緒がある盛岡らしさへの好みによる好意的評価 7	分かりにくさ、道路への不満 6	細い路地からの想起、生活感 6		
大通り 22	空が開けて下から見上げた時のきれいな様子 8	疑問、わからないこと、改善点、可能性 4	機能に対する疑問（アーケード、水飲み場） 2	発展しない理由と自分が利用しきれない理由 6	交通の便とその影響による交通手段の混乱 2	
岩手山 15	山が物体としか見えないから魅力がない 5	違和感ある構図、とってつけた印象（絵はがきの様） 3	背景となる自然と新しい建物が合わない 2	人々の生活が見えない不自然さ 2	自然と人工物がバラバラ、影響しあっていない 2	電線だけが現実的 1
材木町 20	いい点（別格と言えるほどお気に入り、愛着がある） 18	オブジェの評価 2				
大慈清水 15	自分の好みに合うことから思うこと 4	行ってみたいという期待感 2	維持管理に関する興味・関心 3	ここと住む人との関わり方に関する興味・関心 5	そのものの仕組みに関する疑問 1	

表V-2b

被験者B (O. M)

提示刺激	cluster A	cluster B	cluster C	cluster D	cluster E
盛岡の街並 25	個別的街並みにおける建物の印象 4	個別的街並みの雰囲気、心理的・感覚的印象 6	中心市街地の経験に基づく評価、生活的視点がある 4	中心市街地以外の自分が入り込めない雰囲気 11	
大通り 9	モノに対して見たままの感想（自転車、車道、歩道） 5	写真から心理的に感じることにフォーメーションな印象だから木や光に注目 4			
岩手山 9	自然を背景として合っているモノの印象（堤防、橋） 8	自分のイメージに合わない建物の印象 1			
材木町 15	個々を見たときに自分の好みでいいと思うこと 9	交通状況、圧迫感がなく開放的 3	街並の統一感を損ねている建物 1	道路の清潔感 1	違和感があって目に付くもの 1
大慈清水 10	ある部分に着目した時のいいところ（柱、看板） 5	全体を見渡した時のマイナスイメージ 3	一つのスクリーンとして見た全体と部分のバランス 2		

表V-2c

被験者C (S. M)

提示刺激	cluster A	cluster B	cluster C
盛岡の街並 16	都市の家、大学付近の一人暮らしの多い住宅を想起	公的に整備されていない道、大学付近通学路を想起	昔ながらの家、家族の住む一般的な家・住宅地を想起
	7	4	5
大通り 12	アーケード街として自転車や車の施設が不備な問題点	自転車などを除く問題点（自然、道路）	外観から受けるデザインなどの良さ
	8	2	2
岩手山 12	風景として自然と建物が不調和	整備されていない街の印象（地域や行政の責任）	河畔の整備されたきれいさ（地域の人が守る自然）
	3	4	5
材木町 13	きれいな街並のよい点、条件（道路やエレメントと景色との調和）	行った時、見た時に感じたい点、問題点	
	9	4	
大慈清水 10	昔の共同水場の状況（ルール、井戸端会議）	共同水場の現状とこれからの展望	
	6	4	

表V-2d

被験者D (K. T)

提示刺激	cluster A	cluster B	cluster C	cluster D	cluster E
盛岡の街並 13	家が込み合っている印象	道路の狭さや分かりにくさへの不便	大学周辺の建物、市街地建物の一般的な印象	川や橋などの盛岡らしい景色、風景	最近話題の街並みのきれいな歩道の印象深さ
	3	2	2	5	1
大通り 13	盛岡のシンボルとしての岩手山の印象（全体の印象）	川と橋に限定した印象	岩手山を見たときの気持ち・気分	岩手山の最近の話題（噴火）	岩手山そのものに対する感想、存在感
	3	2	4	2	2
岩手山 13	人と自転車によって込み合う狭さ	店の印象、置き方・並べ方も雰囲気も魅力的でない	道路状況と利用しにくさ（歩道の凹凸、車道の区別）	古い、アーケードが低い感じでデザインも好かない	全体的な雰囲気として古さをイメージ
	3	4	3	2	1
材木町 16	実際に行ったときの全体のイメージや様子	ちゃぐちゃぐ馬つ子を想起（休憩する馬を見た）	像から宮澤賢治を想起、観光名所の魅力	親しみがあり利用しやすい大好きな店のこと	よ市に出かけた時を想起
	5	2	3	3	3
大慈清水 15	古い感じとその価値、残したい	知った驚きや珍しさ	生活感が漂うことによる身近かな感じ、温かさ、便利	水の効能、感触	
	4	2	7	2	

表V-2e

被験者E (H. Y)

提示刺激	cluster A	cluster B	cluster C	cluster D	cluster E
盛岡の街並	主要な通りの道路の印象	大学周辺の環境、施設の印象	地下道路の便利さ(上田交差点)	自分の街並みのイメージから着町を想起	自分の街並みのイメージから北上川を想起
14	3	3	3	4	1
大通り	自転車の多さ、邪魔・迷惑	路上駐車、自分が迷惑・邪魔と感じ生理的嫌悪感	自分が持っていたイメージと比較した写真の雰囲気	アーケードの評価(写真を見て気がついたこと含む)	人工的過ぎない街路樹に対する好意的評価
8	2	1	2	2	1
岩手山	景観のいい部分として川・河畔だけに注目	自然を背景として建物に違和感がある	岩手山の印象、ぼんやりしている岩手山がいい	北上川から空想的に想起(深さ)	
9	5	2	1	1	
材木町	アルバイトの経験による親しみ	バイトで昼食を食べたときの感想	写真をみた感想、(活気がない、車や人が少ない)	写真を見ながら自分の経験を確認、疑問(オブジェ)	写真から感じとった天気や季節
17	3	4	3	5	2
大慈清水	写真の水飲み場をみた客観的な記述	水飲み場以外から感じたこと(季節、後ろの建物)			
12	9	3			

表V-2f

被験者F (S. M)

提示刺激	cluster A	cluster B	cluster C	cluster D	cluster E
盛岡の街並	山や川などの自然を想起	近辺の街並み全体の印象	気に入っている個別的街並みや店、趣きが好き	盛岡のいやなところ、不便な点	
20	3	7	6	4	
大通り	統一感なし、さびれた(自分が持つイメージ)	写真を見てそのままの感想(自転車、街路樹など)	細かく見てデザインとして面白いと感じたところ		
16	7	4	5		
岩手山	常に自分の中にある岩手山のイメージ	写真を見た雲・川原・橋などの感想	その時の思いつきで不安に思ったこと(川の増水)	右側の街に関して思ったこと(建物、道路)	提示された写真で疑問に思ったこと(青い光?)
15	2	7	1	4	1
材木町	広くてきれいな印象(整頓、清潔、きれい)	普段思っていたこと、写真で改めて気がついたこと	自分が好きなお店(オブジェ、街灯、レンガ、歩道)		
14	5	4	5		
大慈清水	最初の印象「古い」から派生する思い	実際に使っていることを思い、使い方や人の利用	後ろの家を見て感じたこと		
14	8	3	3		

表V-2g

被験者G (O. F)

提示刺激	cluster A	cluster B	cluster C	cluster D	cluster E	clu.F	clu.G	clu.H	clu.I	clu.J	clu.K	clu.L
盛岡の街並	自分の居住地周辺の一般的な印象、不満	市街地の外縁部を想起、目に付くもの	大学そのもの、大學生に欠かせないコンビニ	地域の拡大を意識、居住地と反対の南方面	街全体の雰囲気としての印象	高齢者の存在、施設	道路	自然	食べ物	分かりにくさ	興味のある趣深い店	山のふもとの家
32	5	5	2	3	3	2	1	2	1	2	5	1
大通り	全体のイメージとしての活気の欠如(他都市と比較)	自転車の多さ(乗っている人より止まっている印象)	街路樹の緑が活きていない、違和感	高い建物がないイメージ(他の通りや都市と比較)								
9	5	2	1	1								
岩手山	自然に囲まれた環境で感じる自分の心境	自然の多さに対比した車や人、建物の少なさ	目立っている高い建物									
11	6	2	3									
材木町	写真を見て感じた道路や通りのイメージ	周りの建物のこと(新しい建物、マンション)	景観として整っているところ(街灯、緑)	商店街の存在感(よ市、組合)								
11	3	2	4	2								
大慈清水	井戸の古さと周りの印象、昔と今を比べて想起	現在の使用と水への不安										
7	5	2										

表V-2h

被験者H (K. I)

提示刺激	cluster A	cluster B	cluster C	cluster D
盛岡の街並	気に入っている盛岡らしい自然	不満、改善すれば近代的（道路、自然、観光）	情緒が感じられるところ、残ってほしい雰囲気、店	古さと新しさを視点とした建物の印象、両者の共存
17	4	5	4	4
大通り	いろいろなものが混在、統一感の欠如（好きではない理由1）	全体的雰囲気としての盛岡らしさの欠如（好きではない理由2）	近代的な美しさの欠如による雰囲気、中途半端（好きではない理由3）	
13	2	5	6	
岩手山	盛岡らしさとしての自然、いやし、安らぎ	自然に対比させた人工的部分への感想、期待		
13	8	5		
材木町	人工美、作られた美しさ（新しさ、整備、街灯、オブジェ）	人工的に造った結果としていい印象ではない（冷たい、緑が少ない）	日頃感じている率直な意見（観光、宮澤賢治、活気がない）	
15	5	6	4	
大慈清水	CMの印象として自分の好み（生活感、温かさ）	写真の雰囲気、盛岡はこうあってほしいという思い	水から想起すること（音、清涼感）	後ろの民家に関するみたまの感想
13	3	7	2	1

表V-2i

被験者I (Y. M)

提示刺激	cluster A	cluster B	cluster C	cluster D
盛岡の街並	人工的ではなく自然なもの印象	建物の印象、主として古い建物の高さ注目	古い建物と新しい建物が混在	建物と道路との関係に基づく心理的感覚、不満
12	3	2	4	3
大通り	建物から想起、自分が前から持っていたイメージ	実際に街路に立った自分を想定したイメージ		
11	8	3		
岩手山	広々した印象に基づく全体の雰囲気	実際にその場にいることを想定した感じ		
9	5	4		
材木町	自分がその場において周りの建物から感じる事	全体の客観的な雰囲気（ゆったり、のんびり）	建物やその場所にあるもの（人工的、今と昔）	
11	6	3	2	
大慈清水	その場にいたくない思い（狭さ、圧迫、ごちゃごちゃ）	人が集まらない印象から想起した雰囲気	みんなが大切にしてきた感じ（庶民的、昔ながら）	
8	4	2	2	

VI. 予期図式に基づく景観評価のモデル化

U.NAISSERによる「予期図式」の概念を以上のPAC分析によって得られた居住年数を軸とした分析結果に適用し、景観評価プロセスのモデルの図式化を試みた結果を図VI-1に示す。図VI-1のモデルは、景観評価におけるイメージの発達プロセスを予期図式を説明概念として位置づけることで説明しようとするものである。

モデル化にあたり前提となったのは、「空間認知は人々が心的イメージとして過去の空間体験に基づいて形成してきた予期図式の修正である」とする考え方である。この考え方を適用すると、居住年数が高い被験者の場合には、対象空間の予期図式は対象空間と接触するたびに幾度にもわたって修正された結果として存在することになる。すなわち、幾度にもわたり取捨選択された新たな情報によって図式が塗り替えられた結果として現在の予期図式が形成されたと考えることができる。人々が対象空間との接触を重ね、対象空間がいわゆる見慣れた空間となったとき、人々にとって空間は意識化されにくいものになっていく。これは「Filter-out現象」と言われ、新たな情報として認知される対象とならない情報は、見慣れた者の認知フィルターを透過してしまう現象として説明される。例えば、突然身体機能に損傷が生じ、歩行行為がこれまでのようにできなくなったとき、人はこれまで意識していなかった段差を意識するようになる現象などは、この現象を説明するものとしてある。

本研究は、この「Filter-out現象」における認知フィルターの透過を、予期図式概念に基づく逆の発想で説明しようとするものである。図VI-1のモデルにおける1.5年、3.5年、10年以上居住群の空間の「地」は、予期図式の塗り替えが重ねられた結果として徐々に濃くなっていくことを示している。一方、中央の小さいマスは、対象空間における対象物としてのモノが新たな情報として認知の対象となり、「図」が形成されることを意味している。さらに、対象空間が場所性をもって明確に認知された空間となっていく過程は、空間の輪郭の線の太さで示されている。1.5年群では、対象空間のイメージがまだ鮮明に形成されていないことから、輪郭は点線で示される。

以下、刺激写真別にモデル図式を取り上げ、予期図式概念を適用することで分析知見を具体的に説明する。

●大通りの場合

1.5年群では、居住経験が浅いことから「地」が希薄であり、マイナスイメージとしての自転車やプラスイメージとしてのアーケードのデザイン・看板・水飲み場・光などが「図」として意識されている。3.5年群では「地」がやや濃くなり、自分なりに大通りのイメージを想起できる状態にあり、イメージと写真との比較をしようとしてい

た。「図」は形成されているものの、1.5年群ほど鮮明ではない。実際、3.5年群ではまだプラスイメージとして「図」が形成されている。一方、10年以上群の場合には、居住経験が長いことから予期図式の塗り替えが重ねられた結果として「地」は濃さを増し、すでに大通りに対して自分なりにできあがったイメージを持っている。「地」が濃さを増すことで予期図式の中において「図」は形成されにくい。実際、10年以上群では自転車やアーケードのデザインさえも記述対象とはなっていない。記述されているのは、被験者個人にとっての「地」のイメージだけであった。

●材木町の場合

材木町の場合には、大通りと同じく商店街としての街路であっても、大幅改修が行われ、整備された新たなイメージをもつ街路として生まれ変わっている。3.5年群以下の被験者にとっては、改修による新しさではなく、全く新たに経験する街路としてあることから、大通りと同じモデルとなる。街灯やチェロのオブジェ、石畳の路面など、すべてが「図」を形成しやすい。一方、10年以上群の場合には、改修による新たな図式の塗り替えが行われた結果として、従来のイメージは輪郭として残っても「地」は色あせている。したがって「図」は大通りに比較して形成されやすく、オブジェも意識されている。

●岩手山の場合

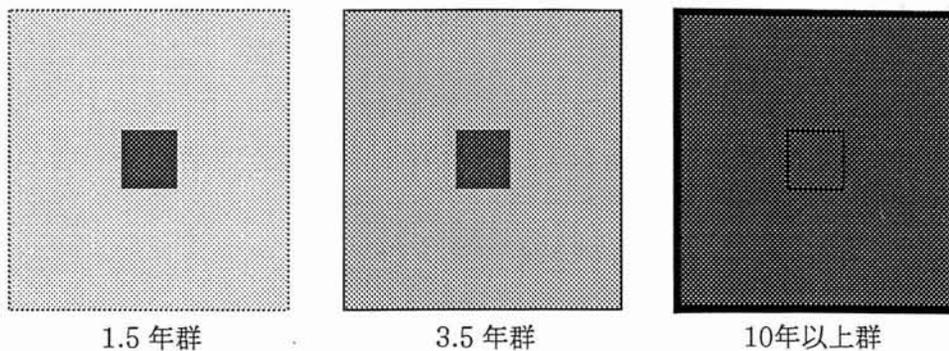
3.5年群における二重のマスの外側の太線は、岩手山+ α に対する予期図式修正の結果としての価値付けを示している。河川敷や北上川・橋など何が+ α として価値付けに取り込まれるかは、個人によって異なる。1.5年群では、背景となる山や川いずれに対しても価値付けが希薄であるため、周辺のモノが「図」を形成しやすく、前述の街路とほとんど同じモデルとなる。3.5年群では、前述のように岩手山を盛岡らしさのシンボルとして価値付けている結果、岩手山+ α の価値付けが取り込むモノは1.5年に比較して「図」になりにくい。岩手山の価値付けとかわらない周辺の「地」の部分では、建物などが「図」となりやすい。一方、10年以上群の場合には、景観全体に対する価値付けがあり、すでに被験者それぞれのイメージができあがっていることから、大通りと同じく「地」全体のイメージに関する記述が主となっている。それでもなお周辺の建物が「図」となっている事実は、景観上の違和感がきわめて大きいことを示していると思われる。

●大慈清水の場合

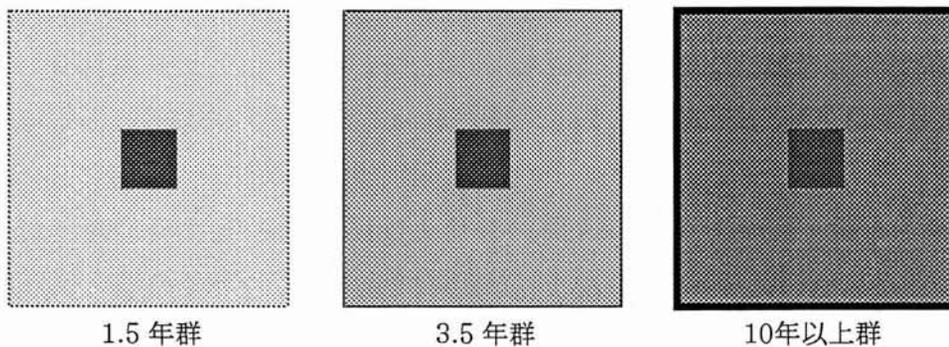
居住年数による「地」の形成に大きな差がないことから、岩手山と同じく井戸に対する価値付けが前面にあり、居住経験による差は明確ではない。10年以上群の場合、

場所性は獲得されていることから輪郭は太線で示されるが、来訪経験は市内居住者でも少なく、「地」の形成に至っていない。したがって、いずれの場合にも周囲の建物は「図」となっている。ただし、周囲の建物は、「地」が形成されていてもなおかつ違和感あるモノとして「図」になる可能性はある。井戸に対する価値付けは、岩手山とは異なって予期図式の修正によるものではなく、被験者の嗜好性や観光情報やCMなどにより強化されたものとしてあるため、居住経験とは直接的に関係しない。

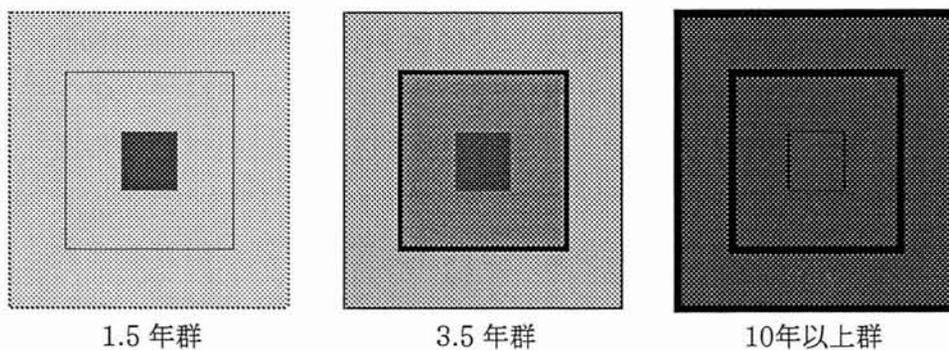
大通りの場合



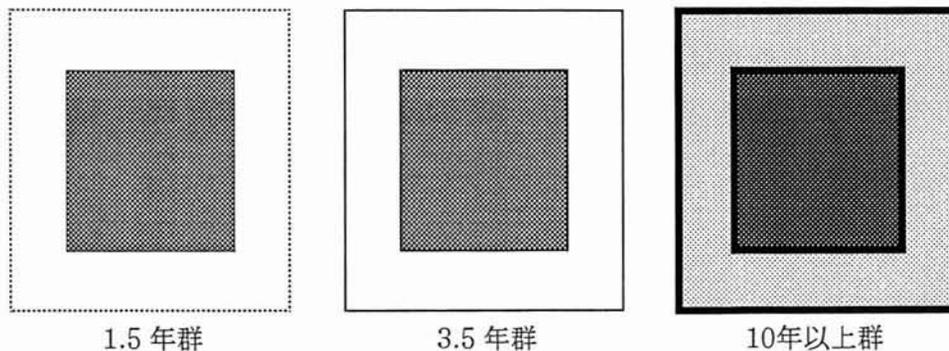
材木町の場合



岩手山の場合



大慈清水の場合



図VI-1 予期図式に基づくモデル図

VII. 総括

本研究は、空間評価における個人差形成に関する研究の一環として、これまでの研究において残されてきた課題に迫るべく、「なぜそれらが個人差の形成要因となりうるか」を解明する手がかりを得ることを目的とするものである。個人差研究の新たな技法としてPAC分析に注目し、さらに、認知心理学的立場から U.NAISSER による「予期図式」の概念を適用し、予期図式を説明概念として位置づけることで得られた研究知見の説明を試みることにした。

以下、空間評価における個人差形成のプロセスとかかわって得られた研究知見は、以下のように要約される。

(1) 大通りや材木町などの街路空間評価においては、居住経験が1.5年程度の場合、景観構成要素そのものやそのデザインなどが個別的に「図」となりやすい。マイナス要因は共通に「図」を形成しやすいが、プラス要因には被験者の趣向性が反映され、それが個人差となって表れる。一方、居住経験が10年以上の場合は、視覚的刺激より自分自身の中で形成された空間イメージが優先し、街路のモノがほとんど「図」を形成しない。自分自身のイメージを形成する過程で、何を「図」として取り込むかは異なることから、形成されたイメージは個人差そのものであり、イメージ表現では形容詞が多用される。居住経験が3.5年と中間的な場合には、上述の評価特性においても中間に位置づくことから、居住経験を重ねることによる一定の空間評価プロセスを見いだすことができた。これは「イメージの発達過程」とも言うべきものとして位置づけられる。

(2) 地域を象徴する景観としての岩手山の評価では、景観構成要素としての岩手山に対する「価値付け」が評価を大きく左右していた。居住経験によって形成される価値づけは視覚的刺激より優先し、価値付けの範囲が何を取り込んでいくかに個人差が見られる。居住経験が10年以上の場合は、価値付けが絶対的なものとなって、刺激全体が価値付けの対象となる。したがって、自然や文化的価値を含む景観の場合にも、前述イメージの発達過程を確認できた。

(3) 10年以上の居住経験をもつ場合、街路の改修はその程度によってイメージ形成に影響を及ぼすが、大通りでは「図」を形成しないことから、アーケード改修による影響は見られない。一方、材木町では「人工的な」の表現にみられるように新たなイメージとの不適応を生じながらも、オブジェなどが「図」を形成し、イメージ形成への影響が認められた。

(4) 上述の結果から、空間イメージの形成における個人差には「図」の形成が大きくかわることが明らかである。そこで「図」を成り立たしめる「地」の形成に「予

期図式概念」を適用することで、空間評価のプロセスをモデル図として示すことができた。

本研究においては、居住経験を分析軸としたことから「なぜ居住経験が空間評価における個人差の形成要因となりうるか」を明らかにすべく分析を重ねた。本報告において注目したPAC分析は、居住経験による評価の違い、さらには個人による評価プロセスの違いを鮮やかに描き出すものであった。そして、それらに現れた個人差の中に、共通性として、イメージの変容プロセスの存在を捉えることができた。この現象自体は「Filter-out」（意識されなくなる）として認められている現象である。しかし本研究では、いわゆるFilterを通過してしまう意味でこの現象を捉えるのではなく、逆にFilterの目地が詰まっていく過程として説明することを試みた。予期図式概念はこの説明概念としてきわめて有用であり、もし本研究で示した空間評価のモデル図が妥当であるとするならば、先の「なぜ形成要因になるか」の疑問に対して、一つの説明となりうる答えを提示したことになるであろう。

本研究における予期図式概念の適用によるモデル図が、空間イメージの発達過程として妥当であるか否かの判断は、関連する諸空間現象を同様に説明できるか否かにかかっている。今後、さらに分析軸を変え、本研究で提示した説明概念の妥当性に関する検証を重ねたいと考える。

最後に、本研究の実施にあたり、はじめてのPAC分析と取り組みつつデータ整理に協力してくれた岩手大学教育学部4年生千葉美樹さん、阿部真澄さんに感謝の意を表す。

<引用文献>

- 1-a) 長澤由喜子：生活経験としての音環境が空間イメージの形成に及ぼす影響（平成5～6年度科学研究費一般研究(C)：課題番号05680001），文部省科学研究費研究成果報告書，pp.1～126，1995.3
- 1-b) 長澤由喜子：空間評価における個人差の形成要因に関する研究（その2）—居住経験に伴う音想起を視点として—，日本建築学会大会学術講演梗概集（建築計画I）No.5318，pp.1083～1084，1996.9
- 2-a) 長澤由喜子：高齢者の身体的状況および日常的活動度が住空間評価の軸形成に及ぼす影響（平成7年度科学研究費一般研究(C)：課題番号05680002），1996.3
- 2-b) 長澤由喜子：空間評価における個人差の形成要因に関する研究（その1）—車いす使用者・高齢者におけるアクセス空間の評価を視点として—，日本建築学会大会学術講演梗概集（建築計画I）No.5542，pp.1083～1084，1994.9
- 2-c) 長澤由喜子：空間評価における個人差の形成要因に関する研究（その3）—高齢者の歩道空間評価を視点として—，日本建築学会大会学術講演梗概集（建築計画I）No.5429，pp.855～856，1997.9
- 3-a) 長澤由喜子：高齢者の視覚・聴覚的衰退が空間評価における軸形成に及ぼす影響（平成8年度科学研究費基盤研究(C)(2)：課題番号08680001），1997.3
- 3-b) 長澤由喜子：高齢者の日常的活動度と歩道空間評価の軸形成—空間評価における個人差の形成要因に関する研究（その4），日本建築学会大会学術講演梗概集（建築計画I）No.5496，pp.991～992，1998.9
- 3-c) 長澤由喜子：高齢者の視覚におけるコントラスト閾値の上昇が空間評価に及ぼす影響（平成9～10年度科学研究費基盤研究(C)(2)：課題番号09680003），文部省科学研究費報告書，pp.1～80，1999.3
- 4-a) 志水英樹・越田益生・鈴木信弘・雨宮正弥：都市空間におけるイメージの形成過程に関する研究（その1），日本建築学会大会学術講演梗概集（東北）No.5378，pp.755～756，1991.9
- 4-b) 越田益生・志水英樹・鈴木信弘・雨宮正弥：都市空間におけるイメージの形成過程に関する研究（その2），日本建築学会大会学術講演梗概集（東北）No.5379 pp.757～758，1991.9
- 5-a) 讚井純一郎・乾 正雄：レパートリー・グリッド発展手法による住環境評価構造の抽出—認知心理学に基づく住環境評価に関する研究(1)，日本建築学会計画系論文報告集，第367号，pp.15～21，1986
- 5-b) 讚井純一郎・乾 正雄：個人差および階層性を考慮した住環境構造のモデル化—認知心理学に基づく住環境評価に関する研究（2），日本建築学会計画系論文報告集，第374号，pp.54～59，1987
- 6-a) 松田好晴・志水隆之・大野隆造：予期図式概念と『落ち着き』評価の一般的分析—室内空間に対する予期図式と『落ち着き』評価に関する研究（その1），日本建築学会大会学術講演梗概集(関東) No.5388，pp.773～774，1997.9
- 6-b) 志水隆之・大野隆造：『落ち着き』評価の個人別分析—室内空間に対する予期図式と『落ち着き』評価に関する研究（その2），日本建築学会大会学術講演梗概集(関東) No.5389，pp.775～776，1997.9
- 7) 内藤哲雄：個人別態度構造の分析について，人文科学論集（信州大学人文学部），第27号，pp.43～69，1993

- 8) 長澤由喜子：街路空間イメージの及ぼす愛着度の影響，日本建築学会大会学術講演梗概集（都市計画）No.7190，pp.379～380，1992.8
- 9) 内藤哲雄：『PAC分析の理論－「個」を科学する新技法への招待』，ナカニシヤ出版，1997

<参考文献>

- 1) U.ナイサー/古崎 敬・村瀬 旻共訳：『認知の構図－人間は現実をどのようにとらえるか』，サイエンス社，pp. 53～82，1978
- 2) 讚井純一郎：空間の評価基準をとらえる，『建築・都市計画のための空間学』，日本建築学会，井上書院，p.52～64，1990
- 3) 宮本文人：環境の意味をとらえる，『建築・都市計画のための空間学』，日本建築学会，井上書院，pp. 90～102，1990
- 4) 稲田直樹・近江 隆・北原啓司・林田大作：河川景観評価構造の解明におけるレパートリー・グリッド法の有効性－認知心理学的手法を用いた河川景観評価構造の解明(その1)，日本建築学会大会学術講演梗概集(関東)No.7069，1993
- 5) 長谷川繁幸・山口満：長野市を事例とした“らしさ”に関するまなざしの研究，日本建築学会大会学術講演梗概集(関東)No.5385，1997
- 6) 小橋康章：『認知科学選書18、決定を支援する』，東京大学出版会，1998
- 7) 南 博・星野 命訳：『パーソナリティ 図説・現代の心理学1』，講談社，1976
- 8) ティヴィッド・カンター著，宮田紀元・内田 茂訳：『場所の心理学』，彰国社，1982
- 9) 大山 正・東 洋編：『認知心理学講座－特 認知と心理学』，東京大学出版会，1984
- 10) 中島義明・大野隆造編：『すまう－住行動の心理学』，朝倉書店，1996
- 11) O.F.ボルノー著/大塚恵一・池川健司・中村浩平訳：『人間と空間』，せりか書房，1988
- 12) 空間認知の発達研究会編：『空間に生きる－空間認知の発達の研究』，北大路書房，1995
- 13) 佐々木正人：『アフォーダンス－新しい認知の理論』(岩波科学ライブラリー12)，岩波書店，1994

資料

(PAC分析デンドログラム)

街並 A

		0	11.56	距離
2)X2	A	+	街が若者のためにあるのではなく、40~50代の人も楽しめる場所である	1.00
5)X5		+	宮澤賢治のイメージが強く、「きっと独特の場所なのだろう」という期待を抱かせる	1.00
9)X9		+	パン屋、cafe、喫茶店が多い。決して重厚な街である。	2.83
1)X1		0	これから次第では仙台よりも盛岡の方が注目される可能性を秘めている	3.32
7)X7		+	材木町は観光と生活が調和しているので、街のあり方として面白い	1.00
11)X11		-	大通りはビルなど新しく建て、発展させようとしているが、一歩間違えば失敗に終わりそう	5.17
15)X15		+	街の中に「こだわってます」という思いを感じる事がある	1.00
17)X17	+	映画館が沢山あって密集している	6.79	
4)X4	B	+	昔の素敵な建物が残っていて良いと思う	1.00
6)X6		+	紺屋町は街並が独特で良い	1.00
8)X8		0	盛岡のイメージはこげ茶色や藍色である	1.58
13)X13		0	淡々と生活していて、それが街並にも出ていて良いと思う	2.07
16)X16		+	空を広く感じられる場所の建物があまり高くないからそう感じる	3.59
3)X3		+	県立図書館や市立図書館のすぐそばに散歩を楽しめる場があり、そこに住む人はよく利用している	2.00
20)X20		0	川と橋が多い	11.56
10)X10	C	-	店が点在しているので少し利用しにくい。観光の人は一部の場所しか行けないと思う	1.00
12)X12		-	大通りから駅までの道は県外の人にとっては分かりにくい	5.55
14)X14		-	盛岡は自転車めぐりの街であるが、その割に歩道が狭い	1.00
18)X18		-	道路が凸凹していて利用しにくい	1.00
19)X19		-	車のすぐ脇を通るからほこりっぽさを感じる	4.06
21)X21		-	駅があまり栄えていなくて寂しさを感じる	8.39
25)X25		0	細い道路が入り組んでいる	2.00
26)X26	D	0	似た感じの店が小さくかたまっている	2.71
27)X27		+	県外者は知らないだろうが、ブランドを扱う店がけっこうある	9.54
22)X22		-	店の閉店時間が早い	2.00
23)X23		-	物価が高いので驚く	3.27
24)X24		+	学生が多く暮らしていて、しかも気取っていない	11.56

街並 B

		0	16.37	距離
1)X1	A	+	映画館通りはちょっと古風な感じで雰囲気的に和む	1.00
10)X10		+	統一的な部分が多い。材木町とか	2.89
7)X7		+	市役所とか県民会館とかある所はなんとなくフォーマルでしっかりした感じ	5.35
25)X25		+	中央病院前の通りはなんとなく"ふるさと"って感じで和む	8.74
4)X4	B	+	開運橋のあたりはバラツキを感じてさわやか	1.00
21)X21		+	緑ヶ丘や黒石野のあたりはバラツキしていてすっきりイメージ	2.89
23)X23		+	青山町とかもちょっと古めかしい感じがちょっと涼しい感じ	5.80
14)X14		+	結構木が多くてそれが街に散らばっていて気分が良い	1.00
15)X15	C	+	松園とかは北吹っぽい感じで新鮮さがある	1.00
20)X20		+	岩手公園付近はさすがに気分が落ち落ち	16.37
2)X2		+	高層ビルがあまりないので都会という気がしない	1.00
6)X6		+	あまり国分町みたいなのがないので明るいイメージ	7.75
11)X11	D	+	中三の周辺はうまい具合に店が揃っているので便利かんじ	3.00
17)X17		+	ちょっとしたファーストフード店が散らばっていて、歩き回るのが便利	11.34
3)X3		-	ちょっと大きな道を走ると混んだ感じで気分が悪い	1.00
5)X5		-	菜園は何が何かわからない感じ	3.00
13)X13	D	-	上田はまとまりのない街並といった感じで、混み混みしている	1.00
18)X18		-	高松の住宅地は混み混みしていて息苦しい感じ	5.77
9)X9		-	必要な店が分かりやすい場所になく不便な感じ。ドラッグストアとか	3.00
24)X24		-	二高のあたりは統一感のない街並といった感じ	8.45
8)X8	D	-	メインの通りが1つしかないせいか、店や建てものがごちゃっと建ってザッパリしていない	1.00
16)X16		-	大通りは路面店が多く入りにくい感じ	2.89
12)X12		-	駅前とか大通りとか、とにかく道路が狭い	8.08
19)X19		-	マースがあるあたりは大きい建物が広い敷地はあって、見た感じ重い	1.00
22)X22		-	4号線沿いは大きい店が多くて息苦しい感じ	16.37

街並 C

		0	9.36	距離
1) X1		-	ごちゃごちゃした感じがする	1.00
2) X2		0	一戸建てでも小さい	1.00
5) X5		-	庭や畑などがあまりない	4.74
11) X11	A	-	空き地がない	4.99
4) X4		-	家が密集している	1.00
9) X9		0	アパートが多い	2.24
13) X13		-	家が一つ一つがバラバラな感じがする	6.77
3) X3		-	道路が多く自然が少ない	1.00
6) X6		-	道路があまり整備されていない	3.74
7) X7	B	0	坂が多い	1.00
8) X8		0	道が曲がりくねっている	9.36
10) X10		+	公園が多い	2.00
12) X12		+	木造の家が多い	2.71
15) X15	C	+	猫やカラスが多い	7.71
14) X14		0	あまり近代的な家はない	2.00
16) X16		0	八百屋などの個人商店が多い	9.36

街並 D

		0	10.59	距離
3) X3		-	混み合っている	1.00
5) X5	A	-	家が密集している	2.89
2) X2		-		5.94
6) X6	B	-	庭がうるさい	3.00
7) X7		-	道路が狭い	7.86
12) X12	C	0	アパートが多い	6.00
13) X13		+	建物が低い	10.59
4) X4		+	川(河川敷)がきれい	3.00
11) X11		+	橋が多い	7.91
1) X1	D	-	曲がっている	5.00
10) X10		-	坂が多い	8.38
8) X8		-	植物(花)が多い	6.00
9) X9	E	+	映画館通りがきれい	10.59

街並 E

		0	10.15	距離
1) X1		-	一方通行が多すぎる	1.00
2) X2	A	-	道路が複雑な所がある	2.24
12) X12		-	大通りは良さそうで良くない	5.66
3) X3		-	もっと娛樂施設を作って欲しい	1.00
6) X6	B	-	上田通りが寂れている	1.73
7) X7		+	区画整理とかは結構良いと思う	7.63
5) X5		+	地下通路は便利	1.00
9) X9	C	+	地下通路は風雨を防げるので嬉しい	2.52
14) X14		+	地下通路のおかげで渋滞が無くなってよい	10.15
4) X4		+	着町にある岩手銀行が良い	2.00
11) X11	D	+	着町のどこかの昭和40~55年を彷彿させるような街並が良かった	3.00
8) X8		-	駅周辺しか街並がきれいではない	2.00
10) X10		-	着町のアーケード内は寂しくなる。何も無い気がする	8.66
13) X13	E	+	北上川が良い	10.15

街並 F

			0	11.10	距離
1) X1	A	+	岩手山が雄大で美しい		1.00
2) X2		+	北上川が流れている		4.04
7) X7		+		スキー場が多い	8.21
10) X10	B	+	緑が多い		1.00
13) X13		+	岩山からの景色がきれい		1.73
16) X16		+	全体的には公園が多い		3.54
12) X12		+		高い建物が少ない	5.93
15) X15		+	マンションが多い		3.00
18) X18		-		駅前が静かだ	6.82
19) X19	+			コンビニが沢山ある	11.10
4) X4	C	0	大きい道路が少ない		1.00
8) X8		+	紺屋町の街並が昔っぽくて良い		1.00
14) X14		+	細い道がいっぱいある		3.74
9) X9		+		材木町は宮澤賢治関係のオブジェがあって楽しい	2.00
17) X17		+		街が清潔、きれい	4.47
20) X20		+		坂道が少ない	8.54
3) X3	D	-	交通の便があまり良くない		2.00
11) X11		-	大通りは人と車が多くて面倒		3.39
5) X5		-		館坂橋の近くは事故が多くて怖い	2.00
6) X6		-		歩道の段差が多く、自転車が使いにくい	11.10

街並 G

			U	10.80	距離
3) X3	A	-	移動距離が長い		1.00
25) X25		0	バスを良く見かける		3.42
20) X20		-		遊ぶ所が集中している	4.62
6) X6		-	冬がすごい		2.00
13) X13		-		松園方面は急斜だ	7.51
4) X4	B	+	新興住宅地が増えている		1.00
18) X18		+	青山は頑張っている感じ		2.89
24) X24		+		街路樹を良く見かける	4.01
17) X17		0	スーパーのチェーン店を良く見る		3.00
28) X28		-		栄えようとしている街と衰えた街がはっきりしている	8.04
31) X31	C	-	24時間営業の店は上田か大通り		5.00
32) X32		-		市内に大学が少ない	10.80
7) X7	D	0	街以外は山か田んぼだ		1.00
19) X19		-	矢巾の方は田んぼだらけ		2.89
26) X26		-		南へ向かうほど平地	5.23
5) X5	E	0	公園が充実orやたら多い気がする		2.00
22) X22		0	街がすごい栄えているとは言えない		2.71
9) X9		0		全体的に街がサッパリしている	5.83
15) X15	F	0	高齢者が公共施設に集まっているのを良く見る		3.00
27) X27		+		全体的に高齢者も良く歩いている	3.70
29) X29	G	-		交通量の割に道路が狭い所がある	6.54
1) X1	H	+	川が市内を流れている		2.00
30) X30		+	自然災害、被害が少ない気がする(私が住んでいる間)		7.25
8) X8	I	0	あまり有名な旬の食べ物が少ない		8.30
2) X2	J	-	他の都市より街の位置とかわりにくい		2.00
12) X12		0	目立たない所にいい店がある		5.69
10) X10	K	+	風情のある店が多い		2.00
14) X14		0	すごい古い物を売っている店を見かける		3.00
11) X11		-	並んでいる店すべて開いているわけではない(商店街)		2.00
16) X16		0		着町は落ち着く	4.40
21) X21		0	小さい店がある		3.00
23) X23		L	0		山のふもとにも霧が結構ある

街並 H

		0	8.10	距離
1)X1		+	緑が沢山ある	1.00
3)X3	A	+	四季を感じられる	1.00
4)X4		+	全体的にきれいな街	2.24
6)X6		+	川(水)が沢山ある	6.67
15)X15		-	交通機関が未発達	1.00
16)X16	B	-	道路が狭い	3.42
12)X12		0	開発されている所と未開発の所の差が大きい	5.23
9)X9		-	緑は多いが花が少ない	4.00
13)X13		0	大きな観光スポットがない	8.10
2)X2	C	+	古い建物があり趣深い	1.00
5)X5		+	落ち着いた雰囲気	1.00
10)X10		+	寺が多い	1.00
11)X11		+	派手ではない	3.00
7)X7	D	+	昔ながらの店が残っている	1.00
17)X17		0	近代的なデザインの建物が少ない	1.73
8)X8	E	0	高い建物が少ない	3.35
14)X14		-	活気がない	8.10

街並 I

		0	10.43	距離
1)X1	A	+	緑が比較的多い	1.00
5)X5		+	庶民的な感じを受ける	1.00
12)X12		+	やわらかな感じを受ける	3.71
4)X4	B	+	建物からの圧迫感がない	1.00
10)X10		+	低い感じを受ける	6.09
6)X6	C	+	新しい建物と古い建物が混在している	1.00
9)X9		+	古い建物が多	2.83
7)X7		+	明るい感じの所と暗い感じの所がはっきり分かっている	2.00
8)X8		+	同じような建物がない	10.43
3)X3	D	-	建物がゴミゴミしている	1.00
11)X11		-	ビルが多い	3.61
2)X2		-	道幅が狭い	10.43

大通り A

		0	11.13	距離	
1)X1	A	+	あっさりした建て方なので光(空)がきれいだ	1.00	
4)X4		+	アーケードの光の入り具合がきれいだ	1.73	
13)X13		+	ガラスが多い	3.23	
2)X2		+	いい意味でアーケードのデザインが気になる	1.00	
8)X8		0	写真で見ると実際に通るとではずいぶん違う	2.41	
3)X3		+	色使いが落ち着いていて良い	1.00	
6)X6		+	道路標識が上から下がっているのが良い	1.73	
11)X11		0	看板が少ない(例外としてメガネのは目立つ)	5.19	
5)X5		B	+	自転車が無くなればおしゃれな街になりそうだ	1.00
9)X9			0	静かなたずまいのような感じがいいが、人がいない	1.73
7)X7			-	少し木があるが中途半端のような気がする	3.67
14)X14	C	-	電灯の光どんな色になるのか	8.00	
15)X15		+	アーケードは雨宿りとしての機能を果たしているのだろうか	3.00	
16)X16	0	水飲み場のような物は使用されているのだろうか	11.13		
12)X12	D	-	かっこ悪くはないが「ここに行きたい」と思わせる物もない	1.00	
18)X18		-	歩行者は何のためにここを通っているのだろうか	1.00	
22)X22		-	発展しているのかしていないのか	1.58	
21)X21		-	この場所はここ土地にとってどんな場なのか	4.49	
10)X10		-	2階より上にはどんなお店があるのだろうか	2.00	
17)X17	E	-	見にくい(お店の顔、看板、入口が見えてこない)	7.04	
19)X19		-	歩きにくそうだ	2.00	
20)X20		+	交通手段が多くある(バス、車、バイク、自転車)	11.13	

大通り B

		0	11.27	距離
1)X1	A	-	自転車が見苦しい	1.00
2)X2		-	無造作に自転車置きすぎ	7.00
7)X7		-	車道が狭い	1.00
8)X8		-	歩道も狭い	3.61
9)X9		+	歩道の模様がいい	11.27
4)X4	B	+	車道の上のアーケードがない	1.00
5)X5		+	光の射し込みがいい	2.89
3)X3		+	アーケードの屋根がかわいい	4.26
6)X6		+	木々がやすらぐ	11.27

大通り C

		0	9.65	距離	
1)X1	A	-	自転車がバラバラに置かれている	1.00	
2)X2		-	自転車が通る場所がない	1.00	
3)X3		-	歩道があまりない	1.00	
5)X5		-	車も自転車も整理されていない	5.05	
4)X4		-	駐輪場が無い	2.00	
6)X6		-	ごちゃごちゃして汚い感じがする	2.00	
11)X11		0	自転車が無くなればきれいな通りになると思う	2.55	
10)X10		0	放置されっぱなしの自転車もある	6.29	
7)X7		B	-	自然が少なく木も手入れされていない	1.00
8)X8			-	道路が狭い	9.65
9)X9	C	+	アーケードは近代的なデザインである	3.00	
12)X12		+	お店はきれいに並んでいる	9.65	

大通り D

			0	9.99	距離
1)X1		-	狭い		1.00
2)X2	A	-	混み合っている		1.73
3)X3		+	人が集まる		5.73
8)X8		-	細かい物が多い		1.00
9)X9	B	-	店に入りにくい		1.00
10)X10		-	見にくい		4.18
4)X4		-		統一感がない	9.30
11)X11		-	道が整っていない		1.00
12)X12	C	-	車が通りにくい		3.42
5)X5		-		木が邪魔	9.99
6)X6	D	-	全体的に低い感じがする		2.00
7)X7		-		アーケードがうるさい	8.00
13)X13	E	-		全体的に古い	9.99

大通り E

			0	10.44	距離
1)X1	A	-	自転車が多い		1.00
2)X2		-	自転車はあるけど人は少ない		3.42
3)X3	B	-		路上駐車車が邪魔そう	10.44
4)X4	C	-	もう少しきれいだと思っていた		1.00
6)X6		-	廃れているように見える		1.00
7)X7	D	-	アーケードの上はみずぼらしい		4.18
8)X8		+		アーケードが立派	5.91
5)X5	E	+		街路樹はいい感じ	10.44

大通り F

			0	10.56	距離
1)X1		-	あまり人がいない		1.00
2)X2		-	人がいないせいか寂れた商店街のように感じる		1.00
5)X5		-	楽しそうな街じゃない		5.00
4)X4	A	-	建物がゴチャゴチャしている		3.00
8)X8		0		"さわや書店"が古く感じる	7.24
3)X3		-	自転車が多い		3.00
6)X6		+		道路にゴミとかが落ちていてなくてきれい	9.40
7)X7		-	街路樹がまばら		1.00
14)X14	B	0	手前の街路樹の上部が赤く見える。紅葉かな		8.54
15)X15		0	盛岡レンズセンターは幅がないのに上に伸びている		7.00
16)X16		0	「炎立つ」がなつかしい		10.56
11)X11		0	アーケードの柱ごとに看板がついている		2.00
12)X12		+		標識が上から吊り下げられているのが面白い	5.00
9)X9	C	+	水飲み場がある。変わった形		3.00
13)X13		+		アーケードの形が面白い	5.18
10)X10		+		街灯がある	10.56

大通り G

		0	6.07	距離
1)X1	-	店が地味		1.00
2)X2	O	殺風景		1.00
3)X3	A	あまり栄えていない		2.00
5)X5	-	全体的にイメージが明るくない		3.03
4)X4	O	人が少ない		6.07
7)X7	O	車があまり通らなそう		2.00
9)X9	B	自転車がが多い		5.15
6)X6	C	緑がある		3.00
8)X8	D	割と高い建物は少ない		6.07

大通り H

		0	9.04	距離
1)X1	A	建物に統一感がない		1.00
3)X3	-	ごちゃごちゃ(混雑)している		6.62
5)X5	-	緑(自然)が少ない		1.00
6)X6	-	趣深さが感じられない		1.73
8)X8	B	美しい街並ではない		4.24
2)X2	-	人の温かみが感じられない		2.00
9)X9	-	人々が安らげるような空間ではない		9.04
12)X12	-	重苦しい雰囲気がある		1.00
13)X13	-	息苦しさをを感じる		4.06
4)X4	C	にぎやかな雰囲気(活気)は感じられない		2.00
10)X10	+	色彩的に落ち着いた		2.00
11)X11	-	暗い感じがする		3.39
7)X7	-	近代的な感じがしない		9.04

大通り I

		0	7.02	距離
2)X2	O	街を作り直した感じ		1.00
3)X3	O	全部が人工的な感じ		4.02
1)X1	-	せわしない感じ		2.00
8)X8	-	物がゴチャゴチャした感じ		3.54
4)X4	A	建物に圧迫されている感じ		2.00
9)X9	-	息苦しい感じ		5.48
6)X6	-	建物が高い感じ		6.78
10)X10	+	全体的に見た目が明るい感じ		7.02
5)X5	-	歩くと疲れる感じ		1.00
7)X7	B	物音がうるさい感じ		1.73
11)X11	O	人が多い感じ		7.02

岩手山 A

		0	8.33	距離
1)X1	-	淡々としたたずまいだ		1.00
2)X2	-	山がきれいなのだろうが、ただ「ある」という感じがするだけ		1.00
4)X4	A	何も伝わってこない		3.00
12)X12	-	山はきれいなのか		3.71
3)X3	+	川の水が藍色だ		5.78
5)X5	-	右側の花は一体何なのだろうか		1.00
6)X6	B	合成写真なのか		1.00
11)X11	-	30年前の旅館のお土産の絵ハガキのようだ		5.15
15)X15	C	自然が多くある割には古い民家がない		6.53
9)X9	O	この土地は「田舎」か「都会」か?		1.00
14)X14	D	どこの土地か分からない		2.24
8)X8	-	人の日常が見えてこない		8.33
7)X7	E	建物も自然もバラバラとある		2.00
10)X10	-	橋があまりにシンプル		7.44
13)X13	F	電柱の線が多い		8.33

岩手山 B

		0	8.94	距離
1)X1	+	堤防がきれいに整備されている		1.00
2)X2	+	堤防が自然的		1.00
6)X6	+	自然があると落ち着く		1.58
3)X3	+	堤防の見た目が気分良い		4.45
7)X7	A	川の近くまで行ける		2.00
8)X8	+	川幅が狭い		5.91
4)X4	+	橋の見た目が良い		1.00
5)X5	+	橋が自然とマッチしている		8.94
9)X9	B	右端の建物は見栄え悪い		8.94

岩手山 C

		0	11.49	距離
1)X1	-	山と建物が調和していない		1.00
2)X2	A	建物は背景に岩手山があることなど考えずに建てられた様だ		1.73
10)X10	-	自然はのびのびした感じがするが、建物の方は混み合っている感じがする		5.33
8)X8	-	建物がバラバラである		1.00
9)X9	B	車が多い		1.00
12)X12	O	企業がたくさんある		2.24
11)X11	O	人がたくさん住んでいる		11.49
3)X3	-	川辺はよく整備されているのに、道路はされていない		1.00
4)X4	+	川辺は地域の人々がきれいにしている様子がうかがえる		1.00
5)X5	C	川辺にはゴミもなく、花が人工的に植えられている		1.00
6)X6	+	川辺はきれいである		3.07
7)X7	+	山がきれい		11.49

岩手山 D

			0			11.40	距離
2) X2		+	盛岡に似合う				1.00
3) X3	A	+	シンボル化している				1.00
4) X4		+	身近なもの				7.71
5) X5		+	橋と川がセット				1.00
6) X6	B	+	橋の上から見たい				1.73
8) X8		+	きれいな				4.93
9) X9	C	+	晴れ晴れとした気分になる				2.00
10) X10		+	落ち着いた気分になる				4.47
7) X7		+				季節を感じるもの	11.40
12) X12		-	噴火しないで欲しい				1.00
13) X13	D	-	斉藤徳美先生				7.48
1) X1	E	+	大きい				2.00
11) X11		+				登ってみたい	11.40

岩手山 E

			0			7.26	距離
1) X1		+	早く桜が咲いて欲しい				1.00
2) X2		+	春になったら歩きたい				1.73
3) X3	A	+	北上川の河川敷がよい				2.37
4) X4		O	川側に住みたいようで、住みたくない				2.00
5) X5		O	河川敷に花がもっと欲しい				5.09
6) X6		-	桜顔のビルは景観を邪魔している				1.00
7) X7	B	-	全体的に川付近のビルはなんかしっくりこない			気がする	2.24
8) X8	C	+				岩手山がよい感じだ	7.26
9) X9	D	O	北上川は思ったより深そう				7.26

岩手山 F

			0			11.61	距離
1) X1		+	晴れていて気持ちがいい				1.00
2) X2	A	+	岩手山がきれいに見える				1.73
12) X12	B	O	雲が低い				7.57
3) X3		+	川原の花壇がきれい				1.00
4) X4		+	川の色が青く見えてとても澄んでいる川のような				1.73
7) X7		+	川原の道を歩いてみたい				2.74
6) X6	C	+	橋の近くの柳のような木が水面についている。面白い形				3.18
8) X8		+	旭橋が見える				6.86
10) X10		O	電信柱が倒れそう。斜めになっている気がする				5.00
11) X11	D	-	大雨で川の水が増水したら木や花がどうなるか不安				11.61
5) X5		-	建物がこみあっているように見える				1.00
9) X9	E	-	右側の道路が狭くてゴチャゴチャしていそう				1.00
13) X13		-	マンションが多く見える				5.52
14) X14		O	川原近くにある白い小屋が何なのか不思議				8.48
15) X15	F	O	写真左上の青い光みたいなのは何だろう				11.61

岩手山 G

		0	7.85	距離
1)X1		0	自然の多い場所	1.00
2)X2		+	山々に囲まれた街の気がする	1.73
8)X8		+	季節によって風景が楽しめそう	2.24
9)X9	A	+	落ち着ける場所	3.42
7)X7		+	川の水がきれいな気がする	1.00
10)X10		0	雨が降ったら水がすごく増えそう	7.85
3)X3		0	人気や車も少ない感じ	1.00
4)X4	B	-	川にまわりに店が少なそう	5.26
5)X5		-	アパートやマンションが多そう	1.00
6)X6	C	0	ネオンは少なそう	2.89
11)X11		0	高い建物からの景色がよさそう	7.85

岩手山 H

		0	8.32	距離
1)X1		+	盛岡らしい景色である	1.00
2)X2		+	緑と水、花、山、自然があふれている	1.00
3)X3		+	緑、水、山のバランスがとれている	2.83
4)X4		+	ゆったりとした雰囲気	2.00
7)X7	A	+	車や人の混雑した感じがしない	3.87
8)X8		+	四季の移り変わりを感ぜられそう	1.00
10)X10		+	風が吹いている感じが伝わってくる	1.73
9)X9		+	絵葉書のような	8.32
12)X12		-	花壇が人工的である	2.00
13)X13	右-左+	+	川の左右で差がある 右は人工的、左は自然のまま	5.51
5)X5	B	-	人が安らげる場が欲しい	4.00
6)X6		-	建造物が少し邪魔	4.00
11)X11		-	橋がもう少し趣深いものが良い	8.32

岩手山 I

		0	7.91	距離
2)X2		+	広々とした感じ	1.00
5)X5		+	周りから圧迫されない感じ	3.39
1)X1		+	気が落ち着く感じ	2.00
4)X4	A	+	歩いている疲れを感じない	5.75
3)X3		0	物が整っている感じ	7.91
6)X6		+	のんびりした感じ	2.00
7)X7		+	ゆったりした感じ	3.87
8)X8	B	+	自然的な感じ	2.00
9)X9		0	物静かな感じ	7.91

材木町 A

		0	6.75	距離
1)X1	+	古い物と新しいもののあわせ方が上手い		1.00
2)X2	+	非現実的な所もあるが、かえてそれが賢治の街という独特の良さを生み出している		1.00
3)X3	+	県外から盛岡に来た人も喜び、かつ地元の人にとっても住みやすい街だと思		1.00
7)X7	+	こういう方向で街が発展して欲しい		1.73
6)X6	+	雨の日も似合いそうな街だ		1.00
11)X11	+	ここからいろいろな街並の在り方を学べそう		2.77
4)X4	+	この街に愛情がわく		1.00
5)X5	+	「私の店はここにありますよ」という温かい存在感を感じる		1.00
10)X10	+	映画や物語になりそう(人や店も含めて)		3.32
8)X8	+	街並にまとまりがあつて落ち着く		1.00
9)X9	+	色合いが良い		2.89
19)X19	+	看板も目障りな物がほとんどないので良い		4.29
14)X14	+	歩きやすい		2.00
15)X15	+	こぎれいでよい		5.25
16)X16	+	建物も街に合せているかのように一体感が感じられる		2.00
17)X17	+	こういう風な街並にしようと企画したのは誰だろうか		2.00
18)X18	+	便利だけど、冷たいわけでもないというのが良いと思う		3.00
20)X20	+	道路と歩道のつながり方が良い		6.75
12)X12	0	ヴァイオリンが素敵		2.00
13)X13	0	電灯の形と配置が面白い		6.75

材木町 B

		0	10.36	距離
1)X1	+	ガス灯が素敵		1.00
2)X2	+	ガス灯とチェロのモニュメントの配置がいい		3.53
4)X4	+	街灯のデザインが良い		2.00
7)X7	+	古めかしい		2.71
8)X8	+	ベンチのような物が趣がある		4.58
3)X3	+	街路樹が整備されている		1.00
6)X6	+	街路がさっぱりしている		2.83
5)X5	+	石畳が人工的すぎない		1.00
9)X9	+	空間的に落ち着く		10.36
10)X10	+	人通りも少ない		1.00
11)X11	B	隠れこみしていないのですっきりしている		1.73
12)X12	+	車通りも激しくなくて良い		8.60
13)X13	C	中には少し高めのビルなどがあつて残念		7.00
14)X14	D	道にゴミとかが落ちていない		7.00
15)X15	E	解説っぽいのは不必要な気がする		10.36

材木町 C

		0	8.45	距離
1)X1	+	建物もきちんと揃っていて周りの景色と道路などが調和している		1.00
2)X2	+	電灯にしても「街並」ということを考えて作られている		1.00
3)X3	+	きれいな街並である		1.00
4)X4	+	歩道や道路の塗装も街と調和している		1.48
8)X8	+	草木が人の手によって植えられている		3.18
5)X5	+	歩道が広い		1.00
11)X11	0	ギターなどが飾られてあつて街並のことが考えられている		6.30
6)X6	+	道路が広い		4.00
12)X12	-	電線が多い		8.45
7)X7	+	道路と歩道の高さの差が小さいので自転車や車椅子などが通りやすい		1.00
10)X10	+	車が少ない		4.47
9)X9	+	アパート代や土地代が高そうだ		4.00
13)X13	-	建物の高さがまちまちである		8.45

材木町 D

			0	10.52	距離
2) X2		+	落ち着いた		1.00
7) X7		+	散歩コース		2.24
1) X1	A	+	雰囲気が良い		3.08
6) X6		+	整っている		5.22
16) X16		+	車があまり通らない		7.01
8) X8	B	+	日本っぽい		2.00
9) X9		+	馬が似合う		8.07
3) X3		+	宮澤賢治		1.00
4) X4	C	+	異世界に行った感じ		1.00
5) X5		+	写真を撮りたくなる		10.52
10) X10		+	近くに住みたい		1.00
11) X11	D	+	大好きな店がたくさんある		1.73
12) X12		+	各店入りやすい		5.89
13) X13		+	よ市		1.00
14) X14	E	+	人が集まりそう		2.52
15) X15		+	だんごが似合う		10.52

材木町 E

			0	12.40	距離
2) X2		+	行った事がある		1.00
3) X3	A	+	友達が住んでいる		1.00
4) X4		+	本屋で春休みにアルバイトをする予定		3.00
16) X16		-	マルイチが小さい		6.84
13) X13	B	-	まずいカレー(タイ風)を食べた		2.00
14) X14		-	メインストリート以外はたいしたことない		3.92
17) X17		-	マルメはあまりぱっとしなかった		10.40
10) X10		-	活気がない		1.00
11) X11	C	-	人がいない		1.00
12) X12		-	車も走っていない		12.40
7) X7		+	石畳の道路		1.00
8) X8		O	他の地域とは違う		1.00
15) X15	D	-	車道は途中から普通の道路		7.76
6) X6		O	お金持ちが住むらしい		3.00
9) X9		O	なぜチェロがあるのだろうか		10.81
1) X1	E	+	天気が良い		2.00
5) X5		+	夏だろうか		12.40

材木町 F

			0	9.89	距離
1) X1		+	道路がきれい		1.00
4) X4		+	整頓されている感じ		1.58
3) X3	A	+	新しいきれいな建物が多い		1.00
7) X7		+	通り全体が建物。街路樹が清潔な感じ		5.82
2) X2		+	歩道がちゃんとしていて広い		3.00
9) X9		-	人が無くて寂しい		6.13
13) X13	B	O	観光案内みたいなものがある		7.71
8) X8		O	左側に高い建物(アパート、マンション)が多い		3.00
10) X10		O	向かって左側のお店が昔ながらという感じがする		9.89
6) X6		+	街灯がおしゃれ		1.00
12) X12		+	夜歩いたら街灯がついていて楽しそう		2.89
11) X11	C	+	レンガ調の建物がかわいい		5.11
5) X5		+	チェロのオブジェがおしゃれでいい		3.00
14) X14		+	歩道に立っている低い木のポールが不思議。おもしろそう		9.89

材木町 G

			0	7.29	距離
1)X1		+	スッキリしたイメージ		1.00
2)X2	A	O	幅が広い通りに見える		1.73
5)X5		+	歩道と道路の段差が小さくて移動しやすそう		5.35
6)X6		+	新しい建物が割と多そう		1.00
9)X9	B	O	アパート・マンションが通りに沿って結構ありそう		6.64
3)X3		+	きれいな街並		1.00
4)X4		+	緑が映えている		2.35
7)X7	C	+	落ち着いた		2.00
11)X11		+	夜も街灯が映えてきれいそう		7.29
8)X8		+	年寄りだけでなく世代を問わず利用しやすそう		3.00
10)X10	D	+	商店街が強そう		7.29

材木町 H

			0	8.17	距離
1)X1		+	非常に街並が整備されている		1.00
2)X2		-	作られた人工美を感じる		1.00
3)X3	A	-	きれいで新しい		2.35
4)X4		+	街灯やオブジェの配置がおしゃれ		3.11
5)X5		+	さわやかな感じがする		6.41
6)X6		-	コンクリートの占める割合が多い		1.00
12)X12		-	冷たい雰囲気がある		2.55
8)X8		-	人の温かみを感じられない		1.00
13)X13	B	-	緑が少ない		5.70
11)X11		+	昔の街並と現代的なものとの融合		2.00
15)X15		-	街並と高いビルにギャップを感じる		8.17
9)X9		+	宮澤賢治っぽい		2.00
10)X10		+	観光客に喜ばれそう		4.80
7)X7		+	落ち着いた雰囲気を感じる		3.00
14)X14	C	-	活気を感じられない		8.17

材木町 I

			0	9.15	距離
1)X1		+	圧迫感があまりない		1.00
2)X2		+	広い感じ		2.65
4)X4		+	建物の高さをあまり感じさせない		1.00
9)X9	A	+	遠くまで見える感じ		1.73
8)X8		+	ゴミゴミしていない		2.83
3)X3		+	歩いていてあまり疲れない		6.16
5)X5		O	ゆっくりした感じ		2.00
7)X7		O	のんびりした感じ		3.27
6)X6	B	+	ゆったりした感じ		9.15
10)X10		-	人工的な感じ		3.00
11)X11	C	+	今と昔の建物がある		9.15

大慈清水 A

		0	6.21	距離
1)X1		+	こういう古いものが今もあるというのがいいと思う	1.00
2)X2		+	日常生活のユートピアのような存在	1.00
5)X5	A	+	自分の家の近くにもこういう場所があったら嬉しい	2.35
3)X3		+	色合いが良い	4.11
4)X4	B	+	周りの様子も知りたくなってくる	1.00
6)X6		+	1度行ってみたい	2.24
8)X8		+	下町という感じがする	3.26
9)X9	C	0	保存委員会などはあるのだろうか	1.00
10)X10		0	どのように管理しているのか	5.58
7)X7		0	屋根があって使いやすそう	1.00
15)X15		0	話がはずみそう	3.66
11)X11	D	0	町の中のどの位置にあるのだろうか	1.00
12)X12		0	どのくらいの人が利用するのだろうか	1.73
14)X14		0	利用する人たちはどんな人達なのか	6.21
13)X13	E	0	この水の流れのしくみはどうなっているのだろうか	6.21

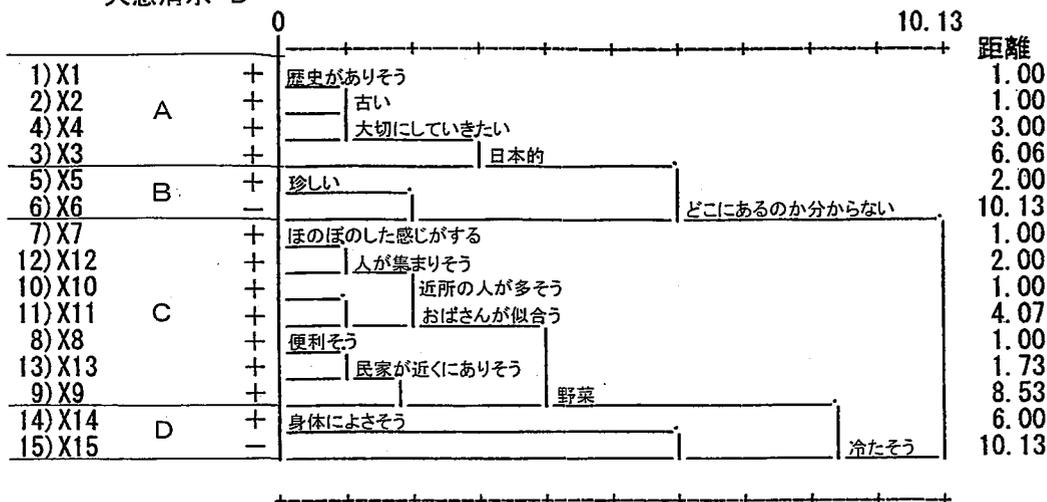
大慈清水 B

		0	11.13	距離
2)X2		+	木造の柱とか落ち着く	1.00
3)X3		+	看板が木っついているところが良い	1.00
4)X4	A	+	木が真新しくない	3.74
1)X1		+	石畳が趣がある	4.73
5)X5		+	湧き水が涼しい	11.13
7)X7		-	人工的なのがさびしい	2.00
8)X8	B	-	ちょっと暗い感じ	3.27
6)X6		-	奥の家は見栄え良くない	8.54
9)X9	C	+	石碑と建物のバランスが良い	4.00
10)X10		-	あまり周りに生えている木がない	11.13

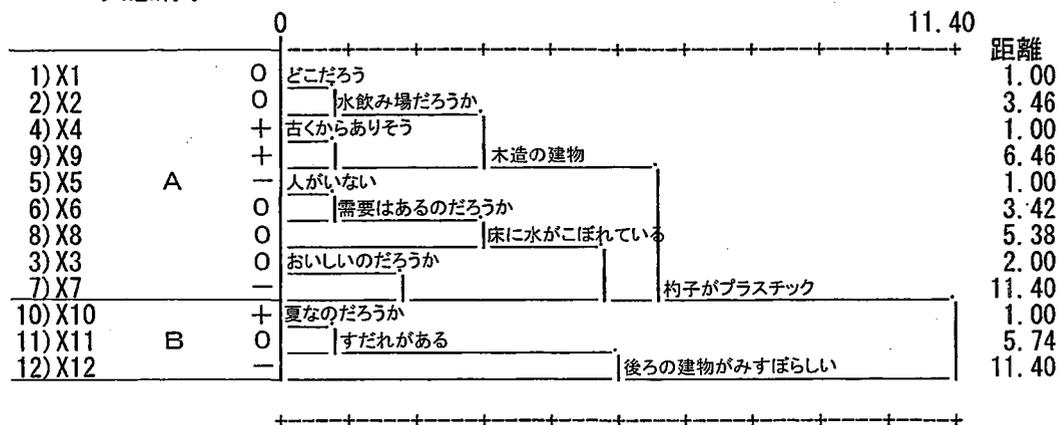
大慈清水 C

		0	7.93	距離
1)X1		+	昔の共同水場であった	1.00
2)X2		+	昔の人は考えてこの水場を使っていた	1.00
3)X3		+	ルールがきちんと定められなければこれは水場として使えない	2.00
8)X8	A	+	この共同水場であれば水の無駄使いなどもできないと思う	5.00
5)X5		+	主婦たちの井戸端会議の場でもあった	3.00
7)X7		+	この周りには道路などもあまりなく昔ながらの家がたくさんあると思う	7.93
4)X4		-	不衛生でもあると思う	1.00
10)X10	B	-	近代的な所が見られない	2.55
6)X6		0	こういう共同水場は近い未来完全に無くなってしまおうと思う	1.00
9)X9		0	現在あまり使われていないと思う(特に若い人は使っていない)	7.93

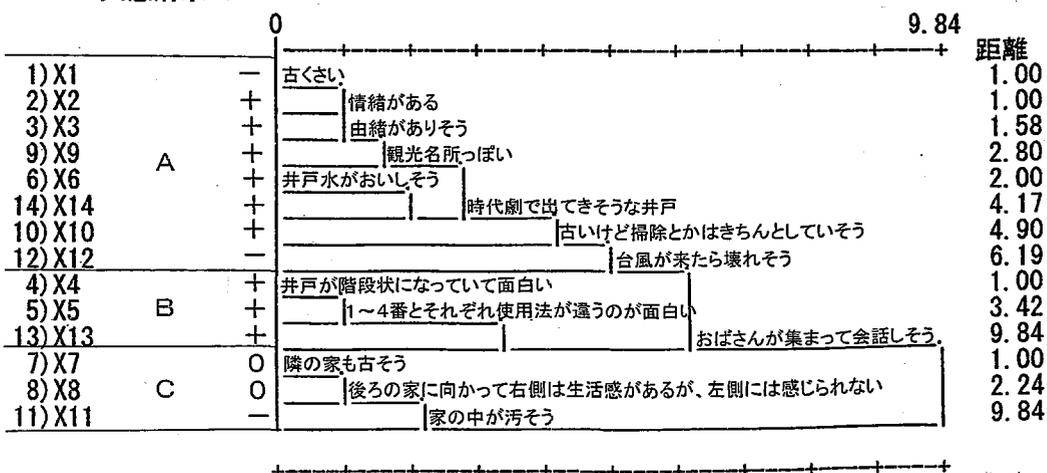
大慈清水 D



大慈清水 E



大慈清水 F



大慈清水 G

		0	6.03	距離
3)X3		0	歴史がありそう	1.00
4)X4		0	建物が古そう	4.04
1)X1	A	0	いまだにお年寄りによく使っていそう	4.82
5)X5		+	周りに民家が結構多そう	1.00
6)X6		+	周りの街並や民家も落ち着いた感じ、ビルとかはなさそう	6.03
2)X2	B	0	昔より使用する人は少なそう	2.00
7)X7		0	水が本当にきれいかどうか怪しい	6.03

大慈清水 H

		0	7.90	距離
4)X4		+	人の温かみを感じる	1.00
5)X5	A	+	生活感を感じる	3.32
6)X6		+	古いものが現代に受け入れられている感じがする	5.80
8)X8		+	昔っばい	1.00
10)X10		+	田舎っばい	2.89
3)X3		+	盛岡らしい風景である	3.97
1)X1	B	+	趣深さを感じる	2.00
2)X2		+	日本らしい	2.71
7)X7		+	落ち着いた雰囲気を感じる	2.86
11)X11		+	木や水、自然のぬくもりを感じる	6.58
9)X9	C	+	水の音が聞こえてきそう	1.00
12)X12		+	清涼感を感じる	7.90
13)X13	D	-	後ろの民家の壁の色があまりこの風景に似つかわしくない	7.90

大慈清水 I

		0	9.54	距離
1)X1		-	狭い感じ	1.00
4)X4	A	-	圧迫されている感じ	1.73
3)X3		0	全体的に低い感じ	2.74
2)X2		-	ゴチャゴチャした感じ	9.54
5)X5	B	-	暗い感じ	2.00
6)X6		0	物静かな感じ	4.12
7)X7	C	+	庶民的な感じ	2.00
8)X8		+	昔ながらの感じ	9.54